RICOH

リコーメディアコネクション

REシリーズ Ⅱ

使用説明書

はじめに

このたびは、REシリーズⅡをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

- ●ご使用の前に、この「使用説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- ●お読みになったあとも、本商品のそばなどいつもお手元においてお使いください。

◆ご注意

（1）本書に記載されている内容の一部または全部を無断記載・無断複写することは固くお断りします。
（2）本書に記載されている内容については、将来予告なしに変更することがあります。
（3）本製品の故障や誤動作、停電あるいは、天災などにより本製品が使えなかったことによる付随的損害保証については当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
　この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全上のご注意

使用説明書および商品本体には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。また、電話機などをお使いになる前に、商品の使用説明書もよくお読みになり、記載事項をお守りください。

■表記の説明

表　示	表　示　の　意　味
⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（＊1）を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（＊1）を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（＊2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(＊3）のみの発生が想定される内容を示しています。

＊1：重傷とは失明や、けが、やけど（高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
＊3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■図記号の説明

図記号	図　記　号　の　意　味
禁止	⃠は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
強制	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
注意	△は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

安全上のご注意

■免責事項について

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本商品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（記録内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など）に関して、当社は一切責任を負いません。
- 使用説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

■主装置について

⚠警告

◆分解・改造・修理しないこと
火災、感電、けがの原因となります。

分解禁止

◆取付位置を変更しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。

禁止

◆通風孔などから、金属類を入れないこと
感電の原因となります。

禁止

◆ぬれた手で主装置を操作したり、ぬれた布でふかないこと
感電の原因となります。

ぬれ手禁止

◆上や近くに飲み物など、液体の入った容器を置かないこと
液体がこぼれて内部に入ると、火災、感電の原因となります。

禁止

◆雷が鳴り出したら、主装置にふれないこと
感電の原因となります。

接触禁止

◆もし、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなど、異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜くこと
そのまま使用すると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いた後、販売店にご連絡ください。

電源プラグを抜く

◆一般のゴミとして放置しない
火災・けがの原因となります。
廃棄するときは、販売店にご連絡ください。

禁止

◆電源は、交流100Vのコンセントを単独で使用すること
コンセントを他の器具と同時に使ったり、延長コードを使うと火災、感電の原因となります。

強制

◆内線・外線の各端子をショートさせないこと
火災、故障の原因となります。

禁止

安全上のご注意

⚠警告

◆テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないこと
火災・感電の原因となります。

◆傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないこと
落下・転倒し、けがの原因となります。落下・転倒により破損したときは電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

◆ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電、けがの原因となります。

◆電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工したりしないこと
電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

◆電源プラグの刃及び刃の取付面にほこりが付着している場合は、よく拭くこと
火災の原因となります。

◆バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと、また主装置に付着した場合は、液に直接ふれないように、拭き取ること
皮膚がかぶれたり、主装置が破損する原因となります。

◆主装置の左側（バッテリー収納部）に火の気を近づけたり、加熱しないこと
液もれ・発熱・破裂し、火災、けがの原因となります。

◆風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないこと
火災・感電・故障の原因となります。

◆工事・保守者以外は、装置の蓋等を開けないこと
感電の原因となります。

⚠注意

◆電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らないこと
コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源プラグを持って抜いてください。

◆電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込むこと
感電、ショート、発煙、発火の原因となります。

◆上に乗ったり、座ったりしないこと
けがや故障の原因となります。

◆本機を壁掛けにするとき、本機器の重みにより落下しないように堅固に取り付け・設置すること
落下してけがの原因となります。

◆直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないこと
内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

◆調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないこと
火災・感電の原因となります。

◆本機器の開口部をふさがないこと
開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。

安全上のご注意

電話機について

⚠危険

◆コードレス電話機内蔵のニカド電池は、専用品を使用すること
火災・けがの原因となります。

◆ニカド電池は、分解・改造・修理しないこと、また火の中に投げ入れたり、加熱しないこと
破裂、発火、けがの原因となります。

◆不要になったニカド電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うこと
電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。

⚠警告

◆分解・改造・修理しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
電話機の改造は法令違反になります。故障のときは販売店に修理をご依頼ください。

◆取付位置を変更しないこと
火災、感電、けがの原因となります。
配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。

◆傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないこと
落下・転倒し、けがの原因となります。落下・転倒により破損したときは、　電話ケーブルを抜いて、販売店にご相談ください。

◆調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこり、鉄粉、有毒ガスなどが多い場所に置かないこと
火災、感電の原因となります。

◆風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないこと
火災、感電、故障の原因となります。

◆壁掛け設置のとき、電話機の重みにより落下しないように専用壁掛け用品を使用して取り付けること
落下してけがの原因となります。

◆雷が激しいときは、電話ケーブルに触れないこと
感電の原因となります。

◆電話機の開口部から金属類を入れないこと
万一、異物が入ったときは、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

◆そばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器を置かないこと
水などがこぼれて、中に入った場合、火災、感電の原因となります。

安全上のご注意

⚠警告

◆煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなど、異常が発生したときは、すぐに電源プラグを抜くこと
そのまま使用すると、火災の原因となります。電源プラグを抜いた後、販売店にご連絡ください。

◆充電端子に水がついたまま充電しないこと
火災・感電の原因となります。

⚠注意

◆直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラー・熱器具などの近くに置かないこと
内部の温度が上がり、火災の原因となります。

◆電話機の開口部をふさがないこと
開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となります。

取扱上のお願い

主装置、電話機、他

◆海外でのご使用はできません
本機器は、日本国内の基準に適合するように設計されています。

◆オプションの停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「入」のままで、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください。
バッテリーが放電してしまい、停電時に、動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因になります。

【電池パックのリサイクルについて】

この製品には、小型シール鉛蓄電池を使用しています。小型シール鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になった電池、および使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、コネクタを絶縁するためにテープを貼るか、ポリ袋に入れてください。

回収拠点までの費用、リサイクル費用ならびに処分ルートについて
回収拠点までの費用、リサイクル費用はお客様のご負担になります。
処分ルートに関しては、販売担当者にご連絡ください。

リサイクル時の注意
電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
外装カバー（被覆・チューブなど）をはがさないでください。
電池を分解しないでください。

目　次

第1章　お使いになる前に

1　各部の名称とはたらき……16
2　液晶ディスプレイの見方……18
3　ランプ表示……19
4　音の種類一覧……20

第2章　電話機を調整する

1　電話機の角度をかえる……22
2　日付・時刻をあわせる……23
3　時刻アラームを使用する……24
3.1　アラーム時刻の設定……24
3.2　アラーム時刻の解除……24
4　保留メロディを変更する……25
5　着信音色を選択する……26
6　ディスプレイのバックライトを設定する……27
7　音量を調節する……28
7.1　受話音量を調節する……28
7.2　スピーカの音量を調節する……28
7.3　着信の音量を調節する……28
7.4　側音量を調節する……28
7.5　マイクの音量を調節する……29
8　ディスプレイの濃淡を調節する……29
9　キータッチトーンを切り替える……29
10　フッキング信号を送出する……29
11　外線別に鳴動電話機を指定する……30
12　外線別着信音を選択する……30
13　通話中の外線着信表示について……30

第3章　サービスメニューを利用する

1　サービスメニューのキー操作について……32
2　文字入力方法（漢字／カタカナ／英字／数字）……33
2.1　文字入力キー一覧……33
2.2　漢字登録のときの操作手順……34
2.3　カナ登録のときの操作手順……35
＜文字入力例＞　＜文字入力の修正例＞
3　メニュー項目について……37
4　操作例……38

第4章　電話機に機能を登録する

1　フレキシブルキーに機能を割り付ける……40
1.1　初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割り付け……40
1.2　フレキシブルキーに機能を登録する……40
1.3　登録を削除する……41
1.4　機能一覧……42
2　フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する……43

目　次

2.1　短縮番号を登録する ……43
2.2　短縮番号登録を削除する ……44
3　フレキシブルキーに外線番号／内線番号を登録する……44
3.1　フレキシブルキーに登録する ……44
3.2　登録を削除する ……45
4　フレキシブルキーにメールボックスを登録する……46
4.1　メールボックスを登録する ……46
4.2　登録を削除する ……47
5　フレキシブルキーにDSSキーを登録する ……47
5.1　DSSキーを登録する ……47
5.2　登録を削除する ……47
6　特番を設定する……48
7　相手側のディスプレイに名前を表示する（内線発呼者名表示）……49
7.1　内線ネーム/DGLネームを登録する ……49
7.2　内線ネーム登録を変更・削除する ……50

第5章　電話機の基本的な使い方

1.　電話のかけかた ……52
1　外線にかける……52
1.1　普通にかけるには（任意外線発信）……52
1.2　指定した外線からかけるには（指定外線捕捉）……53
1,3　オートダイヤルキーでかけるには（オートダイヤル）……53
1.4　システム短縮番号でかけるには（システム短縮ダイヤル）……54
＜システム短縮番号によるかけかた＞　＜システム短縮番号検索によるかけかた＞
＜相手先名称（ネーム）検索によるかけかた＞　＜システム短縮番号を登録するには＞
＜システム短縮番号の内容を変更するには＞　＜システム短縮番号を削除するには＞
1.5　最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル）……62
＜最後にかけた相手に発信するには＞
1.6　蓄積されている発信記録/着信記録をシステム短縮ダイヤルに登録するには ……63
＜システム短縮ダイヤルに登録する＞
1.7　発信記録／着信記録から電話するには（履歴表示）……63
1.8　発信記録／着信記録を削除する ……64
2　便利な外線発信機能……65
2.1　受話器を戻さずにかけ直すには（クィックリダイヤル）……65
2.2　かけ直しを繰り返すには（オートリピート）……65
2.3　ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ）……66
＜ダイヤルメモリに電話番号を登録するには＞　＜ダイヤルメモリを消去するには＞
2.4　別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信）……67
2.5　外線予約するには（発信予約）……68
2.6　電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル）……69
2.7　マルチステーションキーを使ってかけるには（マルチステーションキー回線捕捉）…69
2.8　発信した回線から自動的にMSAを選択するには（回線捕捉時自動MSA捕捉）……69
2.9　NCC回線を指定してかけるには（キャリア選択発信）……70
2.10　割引回線等の回線から優先して選択するには（割引回線優先捕捉）……70
2.11　優先接続（マイライン）……71
3　内線にかける……72
3.1　普通にかけるには（トーン呼出し）……72
3.2　内線登録したオートダイヤルキーでかけるには（内線ワンタッチコール）……72

目　次

4　便利な内線発信機能……73
4.1　ホットラインでかけるには（ホットライン）……73
4.2　音声で呼び出すには（内線音声呼出し）……73
4.3　グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表）……74
4.4　グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼出し）……74
4.5　DGLグループを呼出すには（DGLグループ呼出し）……75
4.6　話し中の内線電話を予約するには（内線キャンプオンビジー）……76
＜予約するには＞　＜相手のお話が終わったら＞
4.7　内線の呼び先を順次変更するには（シリーズコール）……76
2.　電話の受けかた……77
1　外線を受ける……77
1.1　普通に受けるには（任意外線応答）……77
2　内線を受ける……77
2.1　普通に受けるには（内線自動応答）……77
2.2　音声呼出しを受けたときには（音声呼出し）……78
2.3　受話器を上げずに受けるには（内線ハンズフリー応答）……78
2.4　グループ内の別の電話を受けるには（代理応答）……79
2.5　他グループの電話を受けるには（指定代理応答）……79
2.6　グループ内の電話が一斉音声呼出しを受けたときには（グループ呼出し応答）……80
2.7　DGLグループ呼出しに応答するには……80
3　DIL/DID表示の電話を受ける……81
3.　保留のしかた……82
1　通話相手に一時お待ちいただくには（保留）……82
1.1　保留の解除は自分の電話機でする（自己保留）……82
1.2　保留の解除を別の電話機でする（システム保留）……82
＜保留のしかた＞　＜別の電話機で保留を解除する＞　＜保留した電話機で解除する＞
1.3　パーク保留をする（パーク保留）……84
＜保留のしかた＞　＜別の電話機の保留を解除する＞
4.　転送のしかた……85
1　通話中の外線を内線に転送する……85
1.1　転送先に呼びかけて転送する（口頭転送）……85
1.2　ダイヤルして転送する（ダイヤル転送）……86
1.3　内線ワンタッチダイヤルキーで転送する（内線ワンタッチダイヤルキー転送）……86

第6章　電話機の便利な使い方

1.　夜間や留守番のときに便利な機能……88
1　昼／夜モードを切替えるには（夜間鳴動先指定／留守応答）……88
＜夜間モードに切替えるには＞　＜解除するには＞
2　着信先を一定時間後別の内線に転送するには（応答遅延転送）……88
3　指定の外線着信に録音メッセージを送る（留守応答）……89
＜応答メッセージを録音するには＞
4　一般着信を1台の電話機で受ける（集中着信）……91
＜集中着信にするには＞　＜集中着信を解除するには＞　＜集中着信に応答するには＞
5　通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには（着信ウェイトメッセージ）……92
2.　席を離れるときには……93
1　外線着信を指定した相手に自動転送するには（外線自動転送）……93
1.1　外線自動転送を設定する……93
＜外線自動転送にするには＞　＜外線自動転送を解除するには＞

目　次

1.2　外線自動転送登録手順 ……94
1.3　外線自動転送の登録をする ……94
＜転送電話設定に入る＞　＜転送電話設定1：グループ登録＞
＜転送電話設定4：転送先登録＞　＜転送電話設定2：転送方式＞
＜転送電話設定3：転送失敗処理＞　＜転送電話設定：転送先を削除する＞
＜転送先を変更するには＞
1.4　フレキシブルキーに［外線転送xx］キーを登録をする ……99
＜転送設定例1＞　＜転送設定例2＞
2　外線着信を手動で別の外線に転送するには（外線手動転送）……102
3　不在のメッセージを送る（不在設定）……103
＜メッセージを選ぶには＞　＜不在設定にする＞　＜不在設定を解除する＞
4　離席時に電話を転送する（不在転送）……104
＜不在転送先登録の手順＞　＜不在転送先を登録する＞　＜不在転送先を解除する＞
＜不在転送/選択転送を有効とする＞　＜不在転送を解除する＞
5　外出先から転送電話の設定などを変更するには（PB保守）……107
＜外出先から転送電話の設定例：転送先を変更する＞
3.　その他の便利な機能 ……110
1　迷惑電話を拒否する（着信拒否）……110
＜個別着信中に着信拒否登録する＞　＜外線通話中に着信拒否登録する＞
＜着信記録から登録する＞　＜着信拒否したい電話番号を登録する＞
＜着信拒否登録の変更または削除＞
2　ナンバー・リクエストサービスを利用する ……112
＜利用を開始/停止する＞
3　ナンバーディスプレイ機能を利用する ……113
3.1　発番号対応着信 ……113
3.2　発番号別着信音選択 ……113
3.3　ネームディスプレイ情報を表示する ……113
4　受話器を上げずにかける（オンフックダイヤル）……114
5　相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）……114
6　Ｌモード（インターネット）を利用するには ……115
＜Ｌモード端末収容＞　＜Ｌモード対応電話機の操作方法＞
＜メッセージ到着のお知らせ＞
7　i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用する……116
8　3人以上で通話する ……117
8.1　会議通話する（会議通話）……117
8.2　通話に3人目を加える（秘話解除）……117
8.3　通話中の外線に割込む（外線割込み通話）……118
8.4　通話中の内線に割込む（内線割込み通話）……118
9　便利な転送機能 ……119
9.1　発信元と転送先を交互に通話する（チェンジオーバー）……119
9.2　外線発信の依頼を受けたとき（外線依頼発信）……120
10　ボイスワープを利用する ……121
＜ボイスワープのサービスを受けるための操作手順＞
＜ボイスワープの運用を優先する＞　＜ボイスワープの運用の優先を停止する＞
11　キャッチホンと表示されたときは ……124
12　相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには（通話中着信）……125
＜内線通話中の相手を呼び出すには＞
13　［DSS］キーで電話をかける ……126
14　プッシュホン信号を送る（PBエンド・ツー・エンド通信）……126

目　次

15　ポーズ信号を自動的に挿入する（オートポーズ）……127
16　指定外線から直接内線に着信させる（付加番号DID）……127
17　停電について……128
17.1　停電中に一定時間電話の機能を維持する……128
17.2　停電用電話機について……128
18　長電話を知らせる（長時間通話警告）……128
19　秘書機能について……129
19.1　幹部電話機を設定する……129
19.2　幹部電話機が話中の場合には（話中転送）……129
19.3　幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送）……129
＜［離席］にするには＞　＜［在席］にするには＞
19.4　幹部電話機が着信拒否をした場合は（着信拒否転送）……129
19.5　幹部電話機の在席/離席を代行するには（代行操作）……129
19.6　幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送）……129
20　主装置で設定する機能……130
20.1　外線発信を規制するには（発信テナント）……130
20.2　市外発信を規制するには（市外発信規制）……130
20.3　指定市外のみ発信させるには（帯域市外発信規制）……130
20.4　海外発信を規制するには（国際発信規制）……130
20.5　特定の海外（国）のみに発信させるには（特定国際発信規制）……130
20.6　内線番号を登録するには（ナンバーグループ）……130
20.7　発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信）……130
20.8　一般着信時の着信先が塞がっているときに着信を規制するには（使用中着信規制）……130

第7章　音声メールの使い方

1.　音声メールの基本的な使い方……132
1　音声メール取扱上の注意……132
2　音声メールの用語と機能……133
3　音声メールの機能とメールボックス……134
4　音声メールのメッセージ状況表示……134
5　音声メール検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け……135
5.1　音声メール検索キー・機能キーへの録音・再生機能の自動割付け……135
5.2　初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け……135
6　パスワードを設定する……136
6.1　パスワードの新規登録……136
6.2　パスワードの変更……137
6.3　パスワードの消去……138
7　通話録音機能を利用する……140
7.1　通話中に録音を開始する（通話録音）……140
7.2　通話録音中に保留する……141
＜自己の電話機で保留／解除する＞
＜他の電話機で保留を解除する（［保留］キーでの保留時）＞
7.3　通話録音中に転送する……142
＜転送先に呼びかけて転送する＞　＜内線にダイヤルして転送する＞
8　メールサービスを利用する……144
8.1　自分あてのメッセージを聞き出す（メッセージ再生）……144
＜自分あてのメッセージを聞く＞　＜メッセージの状態表示＞
＜メールアクセス中にできる操作と内容＞

目　次

8.2　メッセージの消去と保存 ……149
＜再生後メッセージを消去する＞　＜再生後メッセージを保存する＞
8.3　メールボックスにメッセージを録音する（伝言録音）……150
＜伝言メッセージの録音＞　＜メッセージ録音中にできる操作＞
2.　音声メールの応用的な使い方 ……152
1　メッセージ録音通知で外出先の電話を呼び出す ……152
1.1　メッセージを外線に通知する ……152
＜メッセージ通知先の登録＞　＜メッセージ録音通知の開始の設定＞
＜メッセージ録音通知の解除＞
1.2　メッセージ録音通知で外出先からメッセージを聞き出す ……155
＜メッセージ録音通知先の電話からメッセージを聞く＞
2　不在代行/留守録音（着信代行）サービス ……156
2.1　応答メッセージを録音する ……156
＜応答メッセージの録音＞　＜応答メッセージの消去＞
2.2　外出・離席中にかかってきた電話（個別着信のとき）（不在代行）……159
＜不在代行登録の手順＞　＜不在代行の登録＞
＜不在代行の設定（解除中からの設定）＞　＜不在代行の解除＞
2.3　夜間・休日にかかってきた電話（夜間切替のとき）（着信代行）……162
＜着信代行の設定（解除中からの設定）＞　＜着信代行の解除＞
＜応答ガイダンス（固定）＞　＜応答ガイダンスの切替＞
＜不在代行/着信代行で録音するか、しないかを設定＞
3　メールサービスの便利な使い方 ……165
3.1　他の人にメッセージを転送する ……165
3.2　外出先からメッセージを聞き出す ……166
＜音声メールに直接電話する＞　＜外線を音声メールへ転送する＞
＜メッセージを聞いた後、内線に接続する（内線呼出）＞
3.3　外出先からメッセージを録音する ……168
＜代行応答中から録音する（外線メールサービス中伝言録音）＞
＜通話中から録音する（録音転送）＞
3.4　外出先から内線を呼び出して通話する ……170
＜代行応答中から内線を呼び出す（内線呼出サービス）＞
3.5　外出先からいろいろな設定を変更する（PB保守）……171
＜メッセージ通知の設定と解除＞　＜不在代行の設定と解除＞

第8章　ご参考に

1　VoIP（FoIP）専用線収容 ……176
2　VoIP専用線を使用してFAXを送信する ……177
2.1　FAXを送信する ……177
2.2　FAXを転送する ……178
3　通話料金の管理 ……179
3.1　度数・通話時間・料金の表示について ……179
＜度数表示＞　＜通話時間と料金表示＞
3.2　通話料金を集計表示する ……180
＜予算を設定する＞
4　周辺機器との接続 ……182
4.1　ファクシミリとの接続 ……182
＜ファクシミリ手動転送＞　＜ファクシミリ状況表示＞
4.2　構内放送装置との接続 ……182

目　次

＜構内放送するには＞　＜構内放送で呼出を受けたとき＞
＜外線やドアホンからの着信時、構内放送から鳴動音を送出＞
4.3　ドアホンとの接続 ……184
＜ドアホンの呼出しに応答する＞（ドアホン着信応答）
＜ドアホンで外の音声を聞く＞（ドアホンモニタ）
＜ドアホンを呼出す＞（ドアホン呼出し）
4.4　プリンタとの接続 ……185
＜課金情報の出力＞　＜内線ごとの料金出力＞
4.5　ヘッドセットとの接続 ……187
＜ヘッドセットの接続＞　＜電話のかけかた＞　＜電話の受けかた＞
4.6　「IP電話サービス」に対応……188
4.7　外部保留音との接続 ……188
4.8　単独電話機との接続 ……188
4.9　高音量ベルとの接続 ……188
4.10　留守録音装置または留守番電話機との接続 ……188
5　ISDN回線の利用 ……189
5.1　ISDN回線への発信 ……189
＜普通にかけるには＞
＜直通内線電話機にかけるには＞（着サブアドレス付加発信）
5.2　ISDN回線からの着信 ……190
＜普通に受ける＞（任意外線応答）
＜サブアドレス表示の受けかた＞（着サブアドレスDID）
5.3　ISDN回線またはMSAキーの使用制限について ……191
＜登録＞　＜解除＞
5.4　ISDN回線で回線ごとに着信拒否するには（回線ごと着信拒否指定） ……192

フレキシブルキー機能一覧表 ……193
転送に関する用語 ……195
索引 ……196
故障かな？とお考えになる前に ……198

本書の構成

第1章　お使いになる前に
電話機を操作頂く上で必要な各部の名称やディスプレイの見方等、予備知識をまとめました。

第2章　電話機を調整する
電話機を快適にお使い頂くため必要な日時や角度や音量等、電話機の調節のしかたをまとめました。

第3章　サービスメニューを利用する
サービスメニューを利用すると、操作性が格段にアップします。操作例を交えて分かり易く解説しています。

第4章　電話機に機能を登録する
各種の便利な機能を利用するには、フレキシブルキーへの機能登録が必須です。

第5章　電話機の基本的な使い方
電話のかけかた及び受けかた、受けた電話を保留したり転送したり、電話機の基本的な操作方法についてまとめました。

第6章　電話機の便利な使い方
夜間や留守中など電話に出れない場合に便利な機能等、知っておくと便利な機能をまとめました。

第7章　音声メールの使い方
音声メールについて、初心者向けの基本的な使い方と、パワーユーザ向けの応用的な使い方をまとめました。

第8章　ご参考に
VoIPの収容、VoIP専用線を使用したFAX送信、通話料金管理、周辺機器との接続、ISDN回線やNTTナンバーディスプレイの利用等を参考資料としてまとめました。

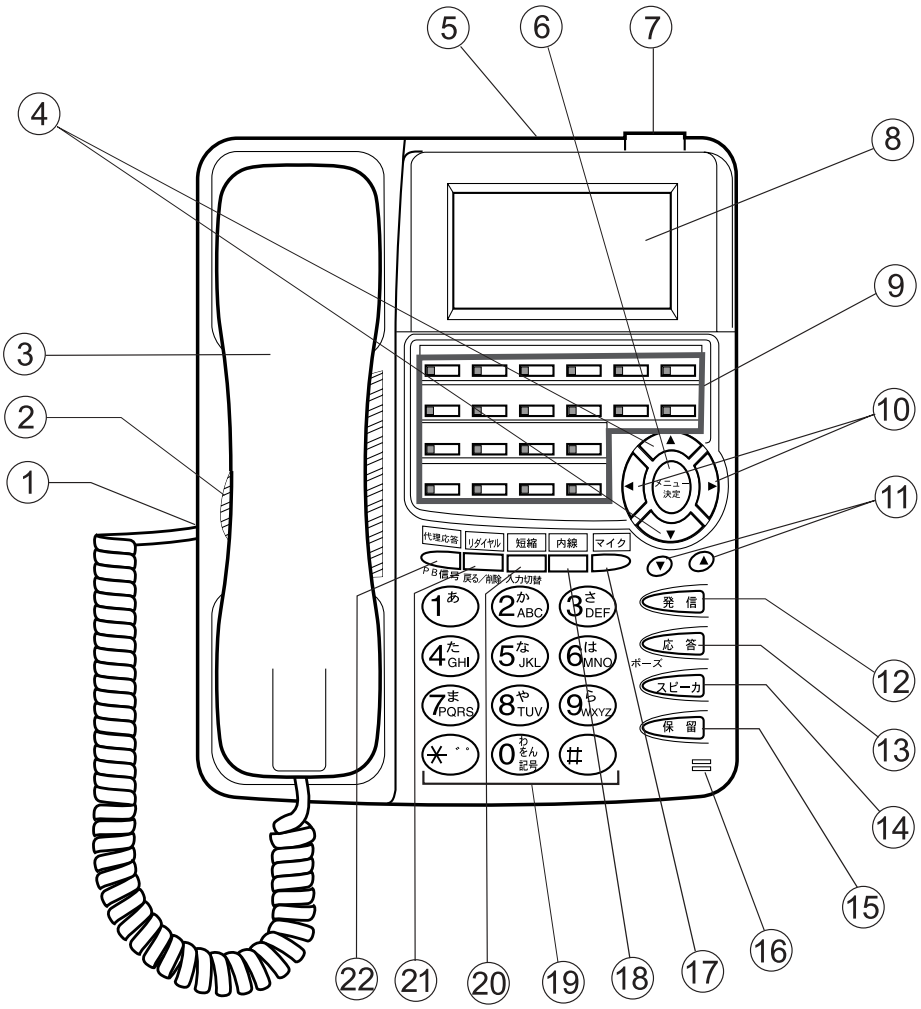
第1章

お使いになる前に

1　各部の名称とはたらき……16
2　液晶ディスプレイの見方……18
3　ランプ表示……19
4　音の種類一覧……20

1 各部の名称とはたらき

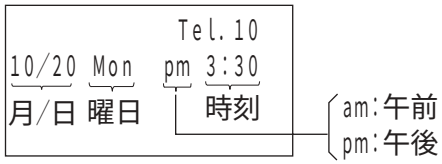
●RE II 20B「 」表示付電話機



① 受話器用ジャック　：受話器またはヘッドセットを接続します。
② スピーカ　：着信音や相手の声を聞くことができます。
③ 受話器　：こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
④ キー　：項目の選択キーです。［△］［▽］キーを押すごとにカーソル位置が移動します。
⑤「LINE」端子　：主装置からの電話回線を接続します。
⑥ メニュー／決定 キー　：番号検索、履歴表示、番号登録等、各種の検索、登録／変更のメニュー表示と登録／変更の決定に使います。
⑦ 着信／メールボックスランプ　：自分のメールボックスにメールが届いているとき、点灯します。自分の電話に個別着信があると点滅します。
⑧ ディスプレイ　：外線・内線の電話番号，日付など各種情報を文字で表示します。
⑨ フレキシブル キー・ランプ　：［外線］キー、［DSS］キー、［代理応答］キー、［集中着信］キーなど、いろいろな機能を割付けて使います。
⑩ キー　：文字数字入力の選択キーです。［◁］［▷］キーを押すごとにカーソル位置が移動します。
⑪ キー　：スピーカ受話のとき、スピーカの音量を調節できます。受話器をあげているときは、受話音量を調節できます。また、電話機が使われていないとき、着信音量、側音量、マイク音量、ディスプレイの濃淡を調節します。
⑫ 発信 キー・ランプ　：外線で自動選択発信するときに押します。
⑬ 応答 キー・ランプ　：［外線］キーを押さなくても、外線着信に応答できます。番号入力中ポーズ入力キーとなります。ランプは赤点滅します。
⑭ スピーカ キー・ランプ　：受話器をあげずにダイヤルするときに使います。また、受話器の代わりに相手の音声を聞くときに使います。ランプは赤点灯します。
⑮ 保留 キー　：通話中の相手に一時待ってもらうときに押します。
⑯ マイク　：相手に音声を送るときに［マイク］キーを押して使います。
⑰ マイク キー・ランプ　：受話器をあげずに応答するときに押します。そのときランプは赤点灯します。（内線ハンズフリー応答）
⑱ 内線 キー・ランプ　：内線に電話を転送するときに使います。
⑲「ダイヤル」キー　：電話をかけたり、登録や設定のときに使います。
⑳ 短縮／入力切替 キー　：短縮登録された相手先に発信するときに押します。サービスメニューで文字入力のとき「入力モード切替」となります。
㉑ リダイヤル／戻る／削除 キー　：キーを押すことにより、前回ダイヤルした相手先番号を自動的に再発信できます。サービスメニューの操作中は、1つ前のメニューに戻す、または入力した文字の削除に使います。
㉒ 代理応答／PB信号 キー　：他の電話機への着信に応答するときに使います。サービスメニューでダイヤル入力時にPB信号を含めるときや通話中にPB信号を送出したいときは、PB信号切替キーとなります。

2 液晶ディスプレイの見方

〔待機中〕

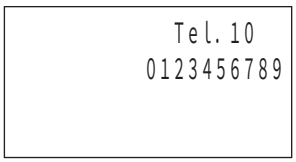


〔電話をかけるとき〕

（1）外線または内線を捕捉すると自分の内線番号表示のみとなります。

（2）ダイヤルするとダイヤル番号が下の段に表示されます。

外線



内線

〔内線着信〕

（1）着信中

かけてきた相手の内線番号または、名前が上段に表示されます。

〔外線着信〕

●ナンバーディスプレイ情報ありの場合

（1）一般着信中

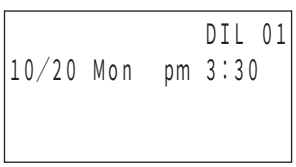
下段に相手の電話番号または名前が表示されます。

（発番号名称）

●ナンバーディスプレイ情報なしの場合

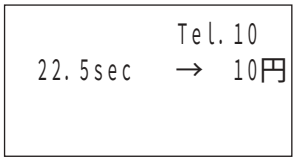
（1）着信中

一般着信……外線　DIL……DIL



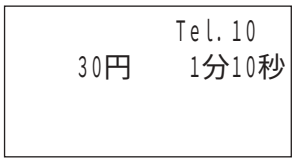
（3）相手応答（外線）

外線の場合には相手が応答すると通話料金と通話時間が下の段に表示されます。（料金表示はデータ設定が必要です。）



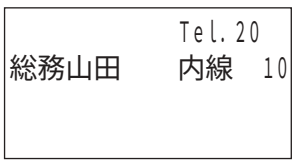
（4）電話をかけ終ったとき（外線）

料金表示、時間表示は約5秒間表示されます。



（2）応答

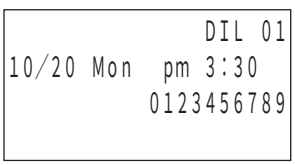
相手の内線番号と名前が下段に表示されます。



（2）DIL等個別着信中

上段に着信モード、下段に相手の電話番号または名前が表示されます。

（発番号名称）



（2）通話中

通話時間が表示されます。

3 ランプ表示

ランプの種類	ランプのつき方（色）	電話機の状態
着信ランプ	速い点滅（赤） 点　　灯（赤）	自分の電話機に着信があるとき（個別着信中） 未聴取メッセージがあるとき（音声メール）
外線ランプ	点　　灯（緑） 点　　灯（赤） 速い点滅（赤） 速い点滅（橙） 速い点滅（橙・緑） 速い点滅（緑） 遅い点滅（橙・緑） 遅い点滅（緑） 遅い点滅（橙）	自分で使用中 他の人が使用中 一般着信中 個別着信中 自分で保留した場合の長時間保留警報中 他の人が通話保留した場合または他の人が通話保留した場合の長時間保留警報中 自分で保留したとき 外線キャンプオン（転送元） 秘話解除中／ISDN回線の［外線］キー、［MSA］キー使用制限中
発信ランプ	点　　灯（赤）	外線が全部使用中のとき
応答ランプ	速い点滅（赤）	着信中
スピーカランプ	点　　灯（赤）	オンフックダイヤル中、スピーカ受話中
内線ランプ	点　　灯（赤） 速い点滅（赤） 遅い点滅（赤）	内線使用中 内線着信中 転送保留中
マイクランプ	点　　灯（赤）	マイクONのとき
通話録音ランプ	点　　灯（緑） 消灯/点灯（橙） 速い点滅（赤）	通話録音中 通話録音保留中 通話録音開始不可（通話録音開始時に総録音時間不足、録音件数満杯、使用中で録音開始できない場合、約2秒間表示後消灯します。）
メールボックスランプ	点　　滅（緑） 点　　灯（赤） 消　　灯 速い点滅（赤）	未聴取メッセージあり 全メッセージ聴取済み メッセージなし 録音不可のとき

補足

［代理応答］キー、［ﾘﾀﾞｲﾔﾙ］キー、［短縮］キーは、キーを押した時ランプはつきません。

メモ

◇着信/メッセージランプは、当該内線の内線メールボックスに登録されているメッセージの聴取状況を示します。ただし、内線に個別着信が入っているときは、着信表示を優先します。

◇音声メールが録音不可状態になると、メールボックスランプが速い点滅（赤色）します。この表示は、不要なメッセージを消去して録音不可状態が解消されるまで継続します。

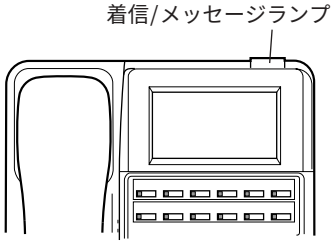
◇録音不可状態になるための条件

（1）録音件数が128件

（2）録音可能残り時間がメッセージ録音最小時間より少なくなったとき。

（3）録音可能残り時間が30秒を切ったとき。

上記（1）～（3）のいずれかの条件に該当するとき、録音不可状態となります。



4 音の種類一覧

種　類		音	発生源
発信音	外　線	ツー	受話器またはスピーカ
	内　線	ツーツー	
着信音	内　線	プルプル・・・プルプル	スピーカ
	外線、PBX経由	プルルー・・・プルルー	
	DIL/DID、外線キャンプオン	プルプルプル・・・プルプルプル	
	PBX内線経由	プルプル・・・プルプル	
	PBX外線経由のDIL/DID、外線キャンプオン	プルプルプル、プルプルプル	
	通話中の外線、ドアホン	ピー・・・ピー	
話中音		ツーッツーッ	受話器またはスピーカ
呼出し確認音		ピピ	
登録／解除終了音		ピー	
フッキングダイヤル		ツーツー	受話器
保留音		メロディ	受話器またはスピーカ
保留警告音		ピー・・・ピー	スピーカ
エラー音		ピーピー	受話器またはスピーカ
付加番号DIDの内線発信音		プププププ	外線に送出
付加番号DIDの話中音		プーップーッ	
付加番号DIDの呼出し確認音		プルルー・・・プルルー	

第2章

電話機を調整する

1　電話機の角度をかえる……22
2　日付・時刻をあわせる……23
3　時刻アラームを使用する……24
4　保留メロディを変更する……25
5　着信の音色を選択する……26
6　ディスプレイのバックライトを設定する……27
7　音量を調節する……28
8　ディスプレイの濃淡を調整する……29
9　キータッチトーンを切り替える……29
10　フッキング信号を送出する……29
11　外線別に鳴動電話機を指定する……30
12　外線別着信音を選択する……30
13　通話中の外線着信表示について……30

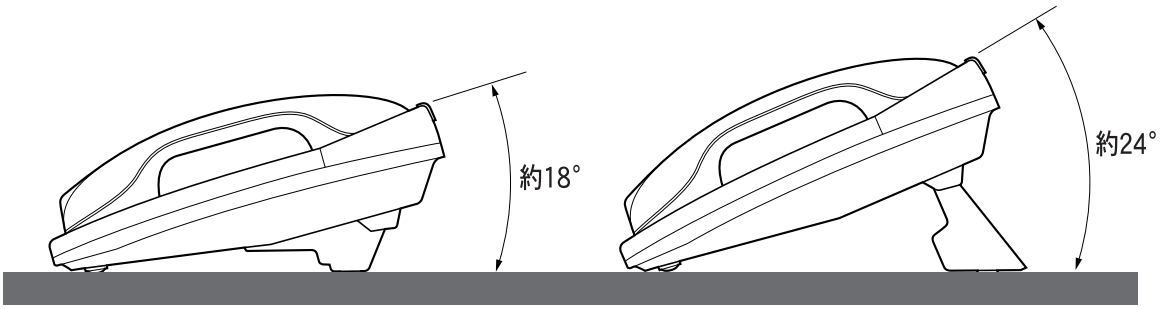
ご注意

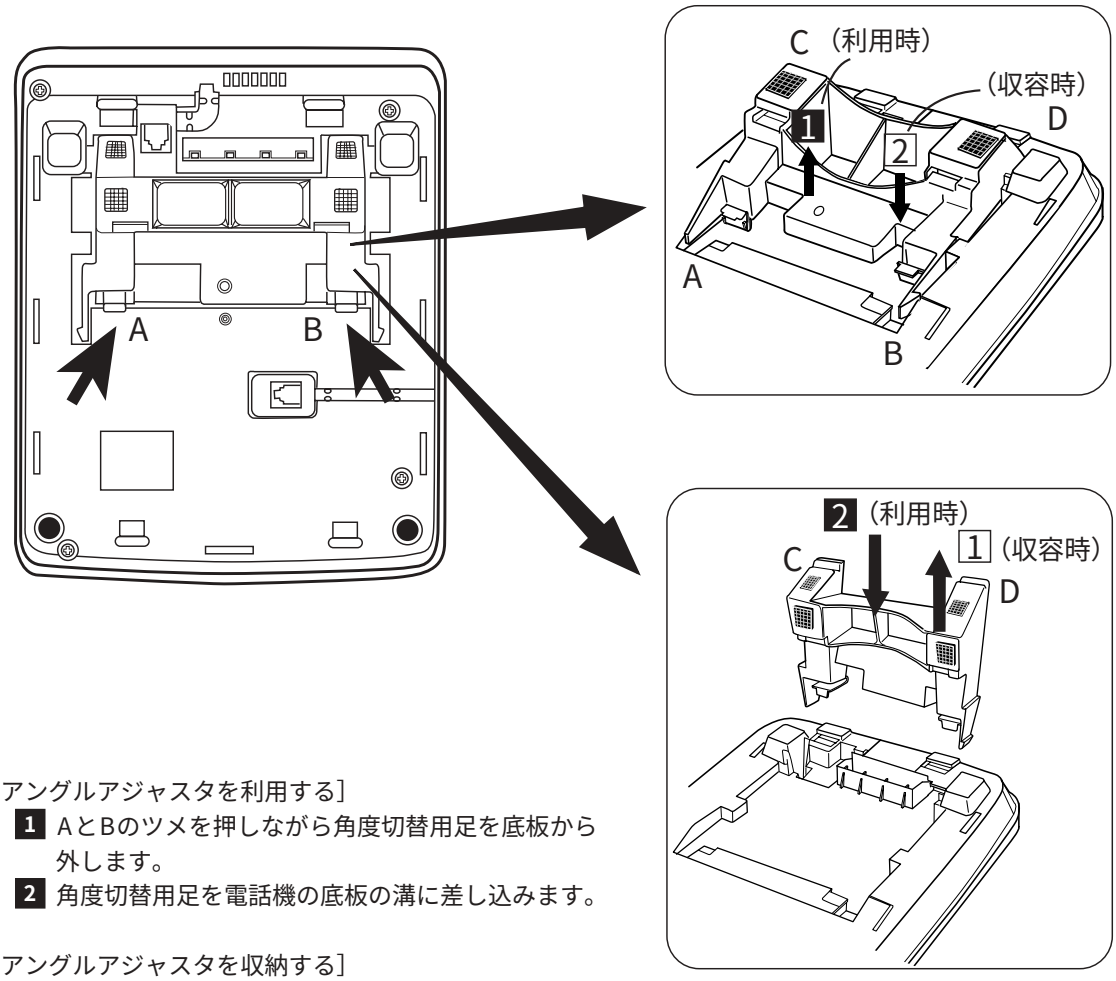
項目2～4を操作するときは、事前に「第3章　サービスメニューを利用する」（P.31～38）をご覧ください。

1 電話機の角度をかえる

電話機の角度を変えることができます。
裏面のアングルアジャスタを使って下図のように角度を変えます。

●アングルアジャスタを利用しない場合　●アングルアジャスタを利用した場合





［アングルアジャスタを利用する］

1 AとBのツメを押しながら角度切替用足を底板から外します。

2 角度切替用足を電話機の底板の溝に差し込みます。

［アングルアジャスタを収納する］

1 角度切替用足を上に引き上げます。

2 CとDを底板の溝に差し込み、矢印方向にパチンというまで押します。

2 日付・時刻をあわせる

ご使用になる前にシステム管理電話機で日付・時刻をあわせてください。

▼日付を合わせる

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 た GHI

2 “4（時刻設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2 か ABC

3 “2（日時変更）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 表示画面は、出荷時の表示です。変更した場合は、現在の日時が表示されます。

```
日時変更
2003年01月01日
      00時00分
```

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊゛゜　0 わ ん 記号　＃

4 年月日、時分をダイヤルする

- 年は西暦の下2桁をダイヤルします。
- 月、日は2桁ずつダイヤルします。1月1日の場合「0101」とダイヤルします。
- 時刻は24時間制で4桁ダイヤルします。0時0分の場合「0000」とダイヤルします。

例：2003年10月20日15時30分
→0310201530

メニュー 決定

5 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。

スピーカ

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇システム管理電話機は、初期では内線番号の一番若い電話機になっています。
◇システム管理電話機が不明のときは、販売店にご相談ください。
◇操作手順1～3の代わりに［保留］キー→［1］でもできます。

ご注意

◇工事設定により次の選択ができます。工事については、販売店にご相談ください。
◇時刻表示は、12時間制と24時間制の選択ができます。初期設定は12時間制となっています。
◇曜日表示は漢字の(月)/英小文字(Mon)/英大文字(MON)の3種類より選択できます。初期設定は、英小文字です。
◇月/日、日/月の選択ができます。初期設定は、月/日です。

3 時刻アラームを使用する

電話機ごとに設定した時刻にアラーム音を鳴動させることができます。あらかじめフレキシブルキーへの登録が必要です。

3.1 アラーム時刻の設定

▼操作手順

メニュー 決定

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

4 た GHI

2 “4（時刻設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ

3 “1（時刻ｱﾗｰﾑ設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
時刻ｱﾗｰﾑ
--時--分
```

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わ ん 記号　＃

4 時・分をダイヤルする

- 時刻は24時間制でダイヤルします。（00：00～23：59）

メニュー 決定

5 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 設定できたときは、「ピー」と鳴ります。
- アラーム時刻が設定されると毎日設定した時刻のたびに、「ピピ、・・ピピ」と約10秒間スピーカが鳴動します。

補 足

◇[ｱﾗｰﾑ]キーでアラーム時刻を設定するときは、操作手順1～3の代わりに[ｱﾗｰﾑ]キーを押します。
◇[ｱﾗｰﾑ]キーは[ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ]キーにあらかじめ設定しておきます。設定方法は、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇アラームを解除するには［ｱﾗｰﾑ］キーが必ず必要となります。

補 足

[ｱﾗｰﾑ]キーが[ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ]キーに設定されているとアラームランプが赤点灯します。

3.2 アラーム時刻の解除

▼操作手順

ｱﾗｰﾑ

1 [ｱﾗｰﾑ] キーを押す

- 「ピー」と鳴りアラームランプが消灯し、アラームは解除されます。

4 保留メロディを変更する

11種類の保留メロディから選択することができます。この機能が使えるのはシステム管理電話機です。

▼操作手順

メニュー 決定

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

8や TUV

2 “8（その他設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2か ABC

3 “2（システム設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2か ABC

4 “2（保留音曲名）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 現在設定されている保留メロディがスピーカから流れます。

メニュー 決定

5 保留メロディ(11種類)から1曲選択し[ﾒﾆｭｰ/決定]キーを押す

- 現在設定されている保留メロディは、曲名の最後に［＊］が表示され画面起動時に「＊」位置が反転選択されます。
- 保留メロディを選択すると設定曲がスピーカから流れます。

スピーカ

6 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

補足

保留メロディの初期設定は「2：ジムノペディ第1番」になっています。

ご注意

保留メロディの変更操作時、既に保留音接続中の端末や回線があるとメロディが切り替わるたびに曲が変わってしまいます。保留音を使用していないときに変更するようにしてください。

〔保留メロディ一覧〕

No.	保留メロディ	No.	保留メロディ
1	アリア	7	ザ　エンターティナ
2	ジムノペディ第1番	8	ジングルベル
3	春の歌	9	華麗なる大円舞曲
4	グリーンスリーブス	0	天国と地獄
5	峠の我が家	#	春の日の花と輝く
6	メヌエット		

5 着信の音色を選択する

（着信音選択）

電話機ごとに個別着信または一般着信の着信音の音色を選択できます。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “ 8（その他設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

3 “ 1（内線設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

4 “ 1（鳴動音種）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ または 2か ABC

5 “ 1（一般着信音種）” または “ 2（個別着信音種）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

6 音種を選択する

- 着信音種は、音種選択画面が表示された時点で、現設定に “ ＊ ” 表示、カーソル表示、設定音種の鳴動を行う。
- カーソルを移動するごとに、カーソル位置の音種を鳴動させます。

メニュー 決定

7 好みの着信音が鳴ったら［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

ご注意

外線別着信音が選択されていて一般着信音の選択ができない時は、販売店にご相談ください。

6 ディスプレイのバックライトを設定する

電話機のディスプレイのバックライトを橙または緑に変更することができます。またバックライトが消灯するまでの時間を変更することができます。

▼操作手順

メニュー決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “ 8（その他設定）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

3 “ 1（内線設定）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

4 “ 3（バックライト設定）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 6は MNO

メニュー決定

5 バックライトの状態を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 1あ：常時消灯
- 2か ABC：常時点灯
- 3さ DEF：即時消灯
- 4た GHI：無操作5秒間保持
- 5な JKL：無操作10秒間保持
- 6は MNO：無操作30秒間保持

スピーカ

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇システムの設定でバックライトを緑または橙に変更できます。詳しくは販売店にご相談ください。（初期設定　緑）
◇「無操作××秒間保持」とは、電話機操作時にバックライトを点灯しオンフック後××秒後にバックライトを消灯させることを言います。
◇バックライトの初期設定は「無操作5秒間保持」です。

7 音量を調節する

7.1 受話音量を調節する

通話中に受話器の音量を3段階に調節できます。

1 通話中にVol.の［△］または［▽］キーを押す

▼ または ▲

2 音量を調節する

- ［△］キーを押すと□表示が増え音量が大きくなります。

```
HANDSET  □□□□□□□□
```

- ［▽］キーを押すと□表示が減り音量が小さくなります。

```
HANDSET  □－－－－－－－－
```

参考

待機中の場合は、［△］キーまたは［▽］キーを押しながら“2”をダイヤルしても同様に調節できます。

7.2 スピーカの音量を調節する

スピーカ受話中にスピーカの音量を8段階に調節できます。

1 スピーカ受話中にVol.の［△］または［▽］キーを押す

▼ または ▲

2 音量を調節する

- ［△］キーを押すと□表示が増え音量が大きくなります。

```
SP  VOL   □□□□□□□□
```

- ［▽］キーを押すと□表示が減り音量が小さくなります。

```
SP  VOL   □－－－－－－－－
```

7.3 着信の音量を調節する

着信音の音量は、3段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

1 Vol.の［△］または［▽］キーを押しながら“1”をダイヤルする

▼ または ▲ ＋ 1あ

2 音量を調節する

- ［△］キーを押すと□表示が増え音量が大きくなります。

```
RING      □□□□□□□□
```

- ［▽］キーを押すと□表示が減り音量が小さくなります。

```
RING      □－－－－－－－－
```

7.4 側音量を調節する

側音量を2段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

1 Vol.の［△］と［▽］キーを順番に押したまま“1”をダイヤルする

▼ ＋ ▲ ＋ 1あ

2 側音量を調節する

- ［△］キーを押すと□表示が増え側音が大きくなります。

```
SIDETONE□□－－－－－－
```

- ［▽］キーを押すと□表示が減り側音が小さくなります。

```
SIDETONE□－－－－－－－
```

補足

電話機がISDN回線を使用して通話を行う場合の側音量の設定です。アナログ回線の通話では自動的に側音量オフに調節されます。その他の通話の側音量はシステムで固定となります。

7.5 マイクの音量を調節する

マイクの音量は3段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

1 Vol.の［△］と［▽］キーを順番に押したまま“ 2 ”をダイヤルする

▼ ＋ ▲ ＋ 2か

- ［△］キーを押すと□表示が増えマイク音量が大きくなります。

MIC VOL □□□□−−−−

- ［▽］キーを押すと□表示が減りマイク音量が小さくなります。

MIC VOL □−−−−−−−

8 ディスプレイの濃淡を調節する

濃淡は8段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

1 Vol.の［△］または［▽］キーを押しながら“ 3 ”をダイヤルする

▼ または ▲ ＋ 3さ

- ［△］キーを押すと□表示が増え濃くなります。

DISPLAY □□□□□□□□

- ［▽］キーを押すと□表示が減り淡くなります。

DISPLAY □□□□−−−−

9 キータッチトーンを切り替える

キータッチトーンの有、無の設定ができます。電話機が使われていないときに調節します。

1 Vol.の［△］と［▽］キーを順番に押したまま“ 3 ”をダイヤルする

▼ ＋ ▲ ＋ 3さ

- ［△］キーを押すとON表示となり、キータッチトーンが有になります。

KEY TONE ON

- ［▽］キーを押すとOFF表示となり、キータッチトーンが止まります。

KEY TONE OFF

10 フッキング信号を送出する

アナログ回線のキャッチホンサービスを受けるとき、通話中に回線に対しフッキング信号を送出することができます。

1 通話中に［外線］キーまたは［ﾌｯｷﾝｸﾞ］キーを押す

外線　　フッキング

■　または　■

補足

フレキシブルキーに［ﾌｯｷﾝｸﾞ］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

ご注意

◇この機能は、ISDN回線では使用できません。
◇この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

11 外線別に鳴動電話機を指定する

（外線別鳴動先指定）

外線ごとに外線着信音が鳴る電話機を指定できます。外線着信音が鳴らない指定の電話機に着信があった場合でも、外線ランプは点滅しますので、着信を知ることができます。

ご注意

外線別に鳴動電話機を指定する場合、販売店にご相談ください。

12 外線別着信音を選択する

（外線別着信音選択）

外線ごとに着信音を変えることができます。
また、発信者番号により、着信音を変えることができます。

ご注意

◇外線別着信音を選択する場合は、販売店にご相談ください。
◇個別の電話機の一般着信音選択が優先になっているときは適用になりません。

13 通話中の外線着信表示について

（通話中外線着信表示）

通話中に外線着信またはドアホン着信があると、通常の外線着信音とは異なる着信音「ピー・・・ピー」が鳴ります。同時にLCDディスプレイ上段に着信を表示します。

・外線着信
・ドアホン着信
・ナンバーディスプレイ表示
・発信番号表示

ご注意

この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

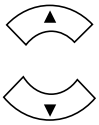
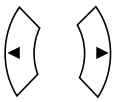
第3章

サービスメニューを利用する

1　サービスメニューのキー操作について……32
2　文字入力方法（漢字／カタカナ／英字／数字）……33
3　メニュー項目について……37
4　操作例……38

1 サービスメニューのキー操作について

システム短縮ダイヤル、発信記録、着信記録等の各種登録・情報参照をメニュー選択から操作することができます。
サービスメニューは、下記キーを使用して操作できます。

操　作	操作キー	備　考
メニューの表示		サービスメニューを表示させます。
項目の選択と データの検索 短縮ネーム検索		• メニュー内の項目の選択とデータの検索に使用します。 • 最初のキー操作で を押します。
設定・登録・変更の決定		設定・登録・変更の内容を決定します。
発信記録／着信記録表示 文字入力時のカーソル移動		• 最初のキー操作で を押すと発信記録を表示、 を押すと着信記録を表示します。 • 文字入力時のカーソルの移動に使用します。 • 発信記録または着信記録を表示しているとき20桁を越えた部分を表示したいときに使用します。 • は、メニュー選択時に一つ上のメニューに戻る時にも使えます。
PB信号		サービスメニューでダイヤル入力時にPB信号切替の入力キーとして使用します。
戻る／削除		サービスメニューを操作中、1つ前のメニューに戻す。または、入力した文字を1文字削除するとき使用します。
入力切替		文字入力する場合、「漢字」「カナ」「(全角／半角)英字」「(全角／半角)数字」の切替に使用します。

上記キーの他、メニュー項番に対応する10キーによる項目選択が可能です。

2 文字入力方法（漢字／カタカナ／英字／数字）

相手名称登録等における文字入力方法を以下に示します。

2.1 文字入力キー一覧

キー操作	入力モード	キーを押す回数（1回～最大10回）	数字入力モード
1あ	漢　字	あいうえおぁぃぅぇぉ	1
	カ　ナ	アイウエオァィゥェォ	
2かABC	漢　字	かきくけこ	2
	カ　ナ	カキクケコ	
	英　字	ＡＢＣａｂｃ	
3さDEF	漢　字	さしすせそ	3
	カ　ナ	サシスセソ	
	英　字	ＤＥＦｄｅｆ	
4たGHI	漢　字	たちつてとっ	4
	カ　ナ	タチツテトッ	
	英　字	ＧＨＩｇｈｉ	
5なJKL	漢　字	なにぬねの	5
	カ　ナ	ナニヌネノ	
	英　字	ＪＫＬｊｋｌ	
6はMNO	漢　字	はひふへほ	6
	カ　ナ	ハヒフヘホ	
	英　字	ＭＮＯｍｎｏ	
7まPQRS	漢　字	まみむめも	7
	カ　ナ	マミムメモ	
	英　字	ＰＱＲＳｐｑｒｓ	
8やTUV	漢　字	やゆよゃゅょ	8
	カ　ナ	ヤユヨャュョ	
	英　字	ＴＵＶｔｕｖ	
9らWXYZ	漢　字	らりるれろ	9
	カ　ナ	ラリルレロ	
	英　字	ＷＸＹＺｗｘｙｚ	
0わをん記号	漢　字	わをん゛゜－！？␣	0
	カ　ナ	ワヲン゛゜－␣␣␣	
	英　字	－＊＃＜＞／．：␣	
＊゛゜	漢　字	〝〟	
	カ　ナ	〝〟	

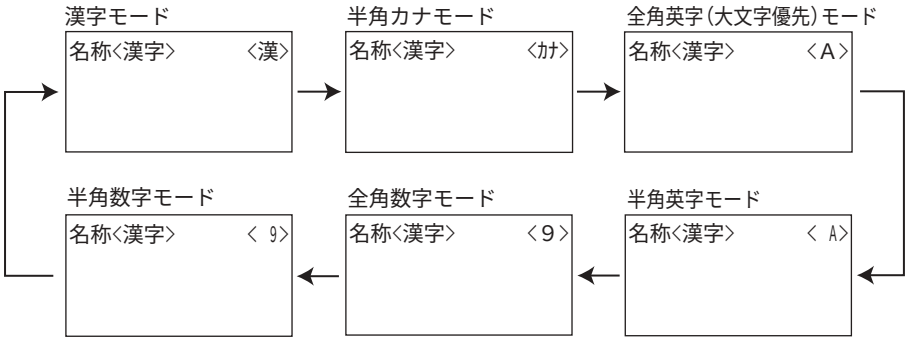
注：キー操作0わをん記号の漢字、カナ、英字にある␣は、スペース（空白）が入力されます。

2.2 漢字登録のときの操作手順

▼操作手順

1 文字入力モード切替

文字入力時に［入力切替］を押すごとに下図のように切り替わります。



2 文字を入力する（一度に変換可能な文字数は全角8文字です）

各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。

希望した文字が表示されたら、次の文字を入力するか ▷ キーを押すとその文字は採用されます。

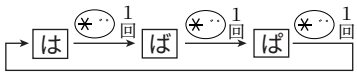
3 濁点、半濁点の扱い

① 1つ前の入力文字に結合される濁点、半濁点の場合、入力キーは、［＊］を使います。

例：ば、ぱ

ば：［6 は MNO］ 1回 →［＊］ 1回

ぱ：［6 は MNO］ 1回 →［＊］ 2回



② 独立した1文字分の濁点、半濁点の場合、入力キーは、［0 わ をん 記号］を使います。

例：う゛

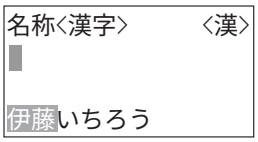
う゛：［1 あ］ 3回 →［0 わ をん 記号］ 4回

4 漢字の文節変換・確定方法

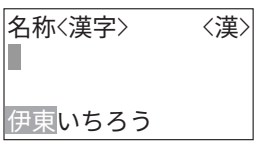
① かなを入力する

② ▽キーを押す

自動的に文節で区切られ、第1文節の変換候補が反転表示となる



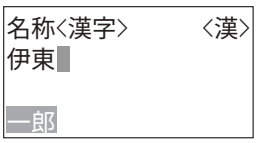
③ 続けて▽キーを押すと反転部分の次候補が表示される



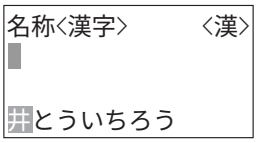
④ 変換が正しい場合は［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

確定した漢字は、2段目に移ります。

⑤ 引き続き、第2文節の変換となるので、▽キーを押し変換候補を選択する



⑥ 正しい変換ができない場合は、◁▷ キーを押し文節を変えて、変換候補を選択する



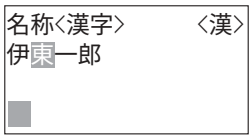
5 登録した漢字の修正／挿入／削除方法

この操作は、表示画面4段目に文字が入力されていない時にできます。

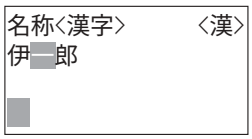
① ◁▷ キーを押し修正／挿入／削除位置にカーソルを移動する

例：伊東一郎
　　↑
　　藤に修正

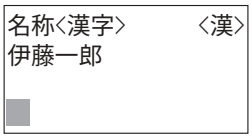
でカーソルを移動



② 戻る／削除 を押すとカーソルの部分が削除される



③ 漢字を挿入する
　漢字の文節変換、確定方法により漢字を入力します。



6 漢字登録時の入力かな文字の名称(カナ)への反映

名称(漢字)の入力時、名称(カナ)が未入力だった場合、漢字変換時に入力した全角かな文字を全て半角カナにした文字列を名称(カナ)に自動的に反映します。正式な読み仮名と違うときは、カナを修正します。

例　入力かな：すずきいちろう → 名称(カナ)：ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ
　　名称（漢字）：鈴木一郎

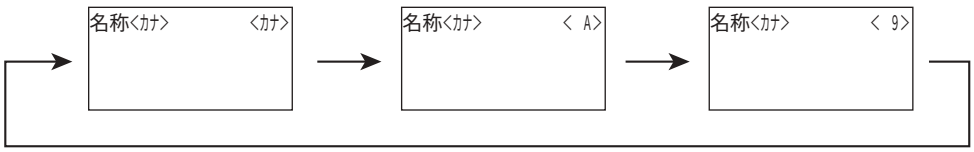
ただし、名称(カナ)にすでに何らかの入力がある場合は反映しません。

2.3 カナ登録のときの操作手順

▼操作手順

1 文字入力モードを選び

- 文字入力時に 入力切替 を押すごとに下図のように切り替わります。



2 文字を入力する(最大入力文字数は10文字です。)

- 各ダイヤルキーには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、キーを押した回数により表示文字が切り替わります。
- 希望した文字が表示されたら、次の文字を入力するか▷ キーを押すと、その文字が採用されます。

＜文字入力例(スズキイチロウの場合)＞

▼操作手順

1 3さ DEF を3回押す　　ｽ

2 ▶ を押しカーソルを移動する　　ｽ

3 3さ DEF を3回押し、＊゛゜ を1回押す　　ｽｽﾞ

4 2か ABC を2回押す　　ｽｽﾞｷ

5 1あ を2回押す　　ｽｽﾞｷｲ

6 4た GHI を2回押す　　ｽｽﾞｷｲﾁ

7 9ら WXYZ を5回押す　　ｽｽﾞｷｲﾁﾛ

8 1あ を3回押す　　ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ

9 メニュー 決定 を押す

＜文字入力の修正例(スズキイタロウ→スズキイチロウの場合)＞

▼操作手順

1 文字入力画面で ◀ でカーソルを「タ」に移動する　　ｽｽﾞｷｲﾀﾛｳ

2 戻る／削除 を押す　　ｽｽﾞｷｲﾛｳ

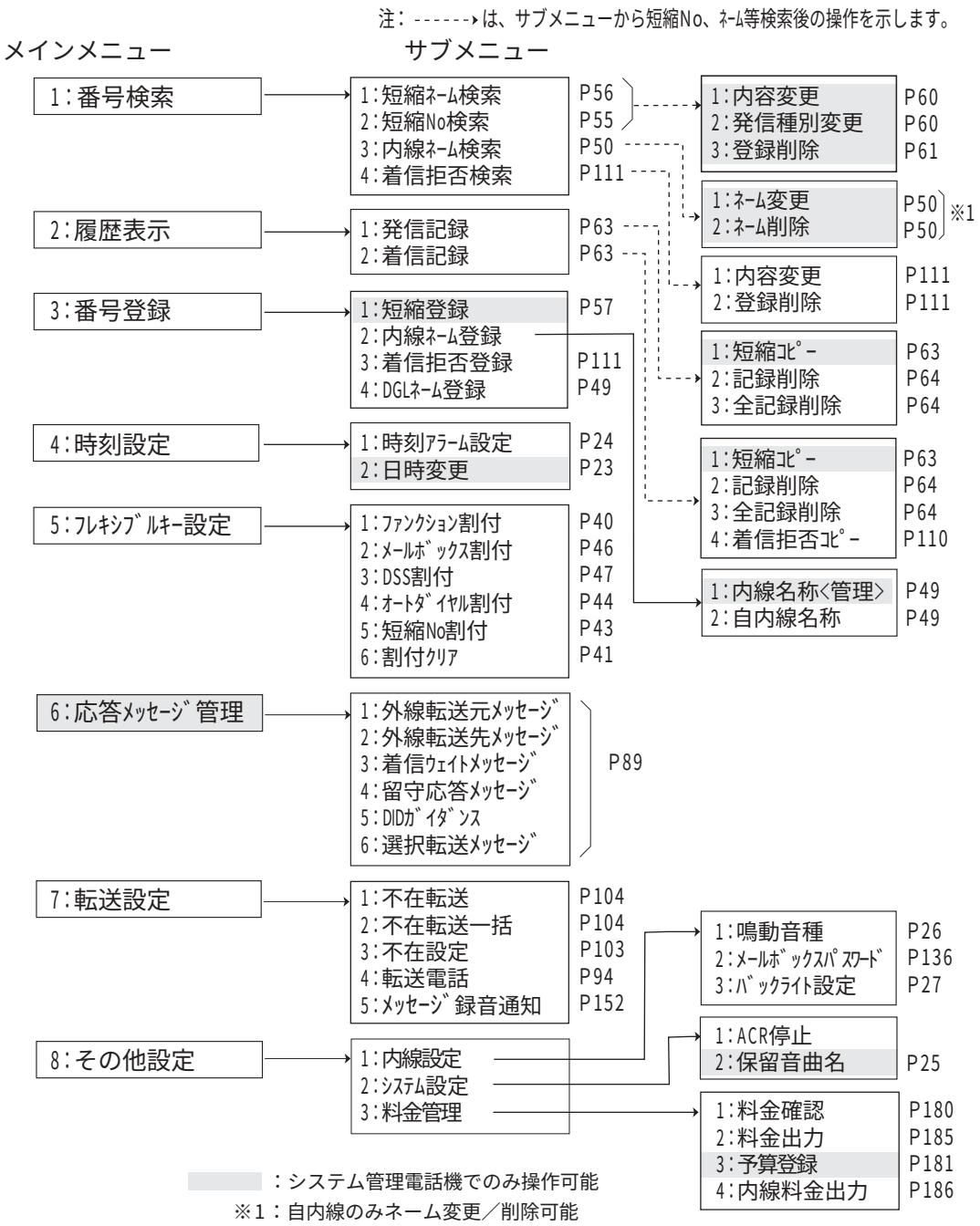
- 「タ」が削除されます。

3 4た GHI を2回押す　　ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ

4 メニュー 決定 を押す

3 メニュー項目について

メインメニューおよびサブメニューのメニュー項目を以下に示します。
（ページは、詳細説明の記載されているページです。）

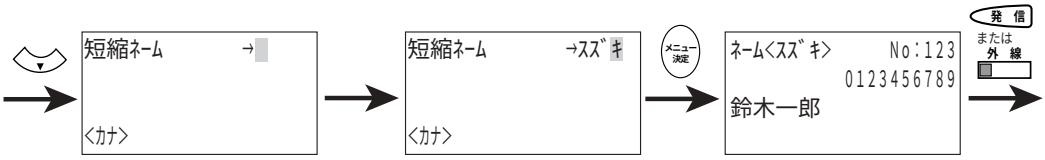


補 足

◇各メニューの選択は、△▽キーでメニューを選択し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押すか、該当するメニュー番号を押します。
本取扱説明書での操作手順は、△▽キーによるメニュー選択に統一して説明しています。またイラストはメニュー番号を表示しています。
◇サービスメニューキーを使った操作は、最初は全てオンフック（受話器を置いた状態）で操作します。

4 操作例

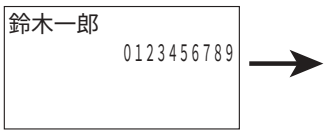
操作例1．システム短縮ネーム検索による外線発信の場合



〈〉キーを押すことでシステム短縮ネーム検索に入れます。

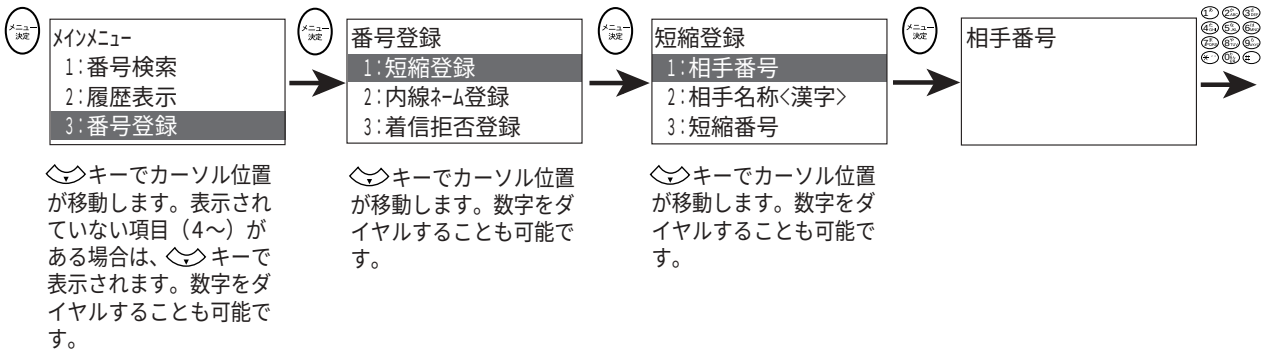
[スズキイチロウ]をネーム検索。
[スズキ]と入力した例
(1～5文字入力できます。)

もし同一文字内で2つ以上の短縮ネームがある場合は、〈〉〈〉キーで検索します。



相手が応答すると、通話ができます。

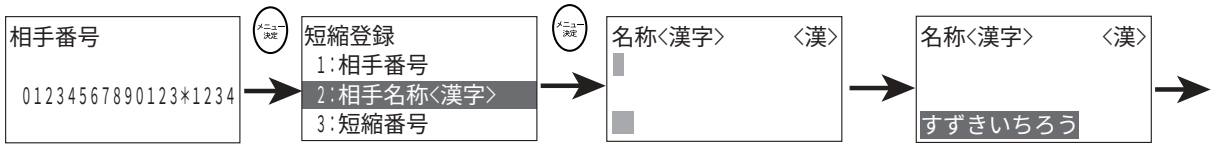
操作例2．システム短縮番号を登録する場合（付加情報は入力していません）



〈〉キーでカーソル位置が移動します。表示されていない項目（4～）がある場合は、〈〉キーで表示されます。数字をダイヤルすることも可能です。

〈〉キーでカーソル位置が移動します。数字をダイヤルすることも可能です。

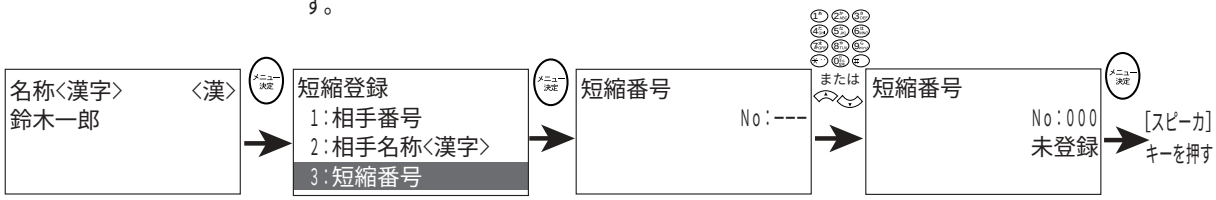
〈〉キーでカーソル位置が移動します。数字をダイヤルすることも可能です。



登録する電話番号(01234567890123*1234)をダイヤルする

〈〉キーでカーソル位置が移動します。数字をダイヤルすることも可能です。

文字（すずきいちろう）を入力する



漢字の文節変換確定方法により漢字を登録する。

〈〉キーでカーソル位置が移動します。数字をダイヤルすることも可能です。

短縮番号（000）をダイヤルする
〈〉〈〉キーで空番号を検索することも可能です。

第4章

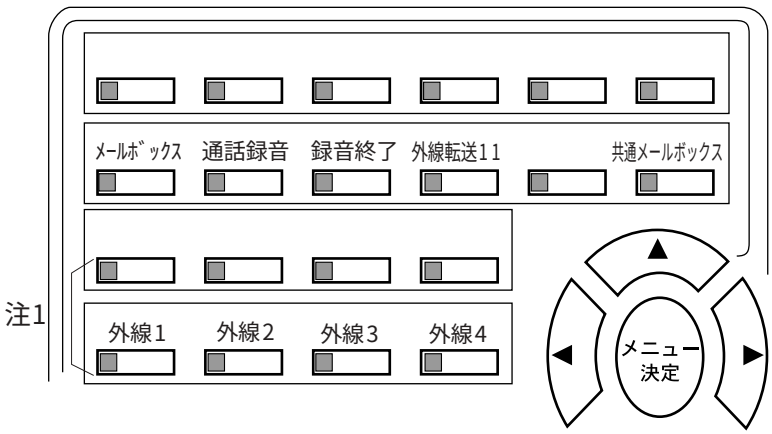
電話機に機能を登録する

1　フレキシブルキーに機能を割り付ける……40
2　フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する……43
3　フレキシブルキーに外線番号／内線番号を登録する……44
4　フレキシブルキーにメールボックスを登録する……46
5　フレキシブルキーにDSSキーを登録する……47
6　特番を設定する……48
7　相手側のディスプレイに名前を表示する（内線発呼者名表示）……49

1 フレキシブルキーに機能を割り付ける

電話機ごとに「1.4　機能一覧表」に示す機能をフレキシブルキーに割り付けて使用することができます。[外線転送] キーの登録については、P. 99 ＜フレキシブルキーに[外線転送xx] キーを登録する＞をご覧ください。

1.1 初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割り付け



注1：収容した回線数に従い、外線8まで自動で割り付けられます。

補足

◇初期立上げ時のフレキシブルキーの機能割り付けを変更する場合に、「1.2　フレキシブルキーに機能を登録する」必要があります。
◇フレキシブルキーの機能割り付けを確認するには、[保留] ＋0のあとに確認したいキーを押すことにより、ディスプレイに機能を表示させることができます。

1.2 フレキシブルキーに機能を登録する

▼操作手順

メニュー 決定

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

5 な JKL

2 “5（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ

3 “1（ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F--:--
```

4 機能を登録する[ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ]キーを押す

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F13:--
    未登録
```

- 例えば、上段の1番左側のｷｰを押した場合です。

5 機能番号を「機能一覧表」から選んでダイヤルする

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F13:10
    自己保留
```

- 例えば、自己保留であれば、ファンクション番号10をダイヤルします。

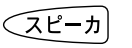
6 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 終了するときは、操作手順9にいきます。
- 続けて登録するには、操作手順3に戻ります。
- 詳細情報入力が必要な場合は、操作手順7にいきます。

7 詳細情報をダイヤルする

- 詳細情報については、補足を参照してください。

8 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す



9 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

補足

◇操作手順5の機能番号をダイヤルするかわりに△▽キーで機能名を表示することができます。△▽キーを続けて押すことにより機能順に表示します。

◇詳細情報の入力は、下記の範囲内です。

07 夜間切替：
　夜間グループ　00～31
09 外線転送：
　グループ/転送先
　　グループ　1～8
　　転 送 先　1～6
17 クラス切替：
　切替グループ　00～15
48 センターメール：
　センターメールNo 0～7

1.3 登録を削除する

▼操作手順

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 “5（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

3 “6（割付ｸﾘｱ）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

4 削除する［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーを押す

5 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 削除ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 続けて削除するには、操作手順4からの操作となります。

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

1.4 機能一覧表

各機能の機能概要は、P.193を参照してください。

No.	機　能	ディスプレイ表示	参照頁
01	リダイヤル	ﾘﾀﾞｲﾔﾙ	62他
02	オートリピート	ｵｰﾄﾘﾋﾟｰﾄ	65
03	ダイヤルメモリ	ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ	66
04	短縮ダイヤル	短縮ﾀﾞｲﾔﾙ	54他
05	代理応答	代理応答	79
06	秘話解除/会議	秘話/会議	117
07	夜間切替	夜間切替	88,162
08	集中着信	集中着信	91
09	外線転送	外線転送	93
10	自己保留	自己保留	82
11	不在設定	不在設定	103
12	PB信号	PB信号	126他
13	予約	予約	68,76
15	不在転送	不在転送	106,161
16	ACR停止	ACR停止	57
17	クラス切替	ｸﾗｽ切替	—
18	指定代理応答	指定代理応答	79
19	着信ウェイト	着信ｳｪｲﾄ	92
20	割込み	割込	118
21	フッキング	ﾌｯｷﾝｸﾞ	29
22	料金	料金	180

No.	機　能	ディスプレイ表示	参照頁
23	アラーム	ｱﾗｰﾑ	24
24	FAX1	FAX1	182
25	FAX2	FAX2	182
26	在席/離席	在席/離席	129
27	通話録音	通話録音	140他
29	録音終了	録音終了	140
32	外線発信	外線発信	52他
33	キャリア選択	ｷｬﾘｱ選択	70
36	内線料金	内線料金	180
37	発番号非通知	非通知	52他
38	外線代理応答	外線代理応答	79
39	内線代理応答	内線代理応答	79
40	キーパッド	ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ	123
41	着信履歴	着信履歴	63
42	ボイスワープ	ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ	123
47	停電	停電	128
48	センターメール	ｾﾝﾀｰﾒｰﾙ	116
49	拡張表示	拡張表示	—
50	ガイダンス切替	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替	163
51	着信拒否	着信拒否	110
52	回線制限	回線制限	191

ご注意

機能「No.07夜間切替」および「No.17クラス切替」の設定については販売店にご相談ください。

2 フレキシブルキーにシステム短縮番号を登録する

システム短縮番号にあらかじめ電話番号を登録しておき、そのシステム短縮番号をフレキシブルキーに登録します。これにより、登録されたフレキシブルキーは［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーと同じように使うことができます。

2.1 短縮番号を登録する

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 な JKL

2 “５（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 な JKL

3 “５（短縮No割付）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
短縮No割付
F--:短縮No---
```

4 システム短縮番号を登録する［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーを押す

```
短縮No割付
F13:短縮No---
    未登録
```

- 例えば、上段の1番左側のｷｰを押した場合です。

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わん 記号　＃

5 登録するシステム短縮番号を3桁でダイヤルする

```
短縮No割付
F:13:短縮No000
    未登録
```

- 登録できるシステム短縮番号は０００～９９９までです。

メニュー 決定

6 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 続けて登録するには、操作手順3に戻ります。

スピーカ

7 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

登録できるシステム短縮件数は、最大５００件です。

補足

操作手順5の短縮番号をダイヤルするかわりに△▽キーで登録済の短縮番号を順番に検索できます。

2.2 短縮番号を削除する

▼操作手順

「1.3　登録を削除する」（P.41）と同じです。

3 フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する

フレキシブルキーに外線番号／内線番号を割付けて、オートダイヤル発信することができます。

3.1 フレキシブルキーに登録する

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 な JKL

2 “５（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 た GHI

3 “４（ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ割付）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ割付
F--:
```

4 登録する［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーを押す

```
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ割付
F13:未登録
```

- 例えば、上段の１番左側のｷｰを押した場合です。

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わ ん 記号　＃

5 登録する電話番号をダイヤルする

```
ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ割付
F13:未登録

12345678901234567890
```

補 足

◇操作手順１～３の代わりに［保留］→［2］でもできます。
◇操作手順5でダイヤル桁数が２０桁を超えると、先頭から3段目に表示されます。
◇システムで最大２００個までオートダイヤル割付できます。

メニュー 決定

6 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 3さ DEF

メニュー 決定

7 ［番号種別］を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 1：外線
- 2：特番展開（内線の場合）
- 3：PBX（構内交換機に収容されている内線／専用線の場合）
- 続けて登録するには、操作手順3に戻ります。

スピーカ

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

3.2 登録を削除する

▼操作手順

「1.3　登録を削除する」（P.41）と同じです。

4 フレキシブルキーにメールボックスを登録する

フレキシブルキーにメールボックスを登録して、メールボックスを使用することができます。メールボックスに未聴取のメッセージがある場合、登録されているメールボックスランプが緑点滅します。これにより、メールボックスにメッセージがあるかどうかを確認することができます。

4.1 メールボックスを登録する

▼操作手順

メニュー決定

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

5 な JKL

2 “５（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 か ABC

3 “２（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付
F--:ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ-----
```

4 メールボックスを登録する [ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ] キーを押す

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付
F13:ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ----
     未登録
```

● 例えば、上段の1番左側のｷｰを押した場合です。

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わ ん 記号　＃

5 メールボックス番号をダイヤルする

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ割付
F13:ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ10--
     未登録
```

● 例えば、内線番号１０のメールボックス番号１０をダイヤルした場合です。

メニュー決定

6 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 続けて登録するには、操作手順3に戻ります。

スピーカ

7 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

補足

◇ [ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ] キーは、初期で [ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ] キーに登録されています。P.40「1.1　初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。

◇操作手順１～３の代わりに [保留]→[4] でもできます。

補足

メールボックス番号は、次の通りです。

内線のときは：内線番号

共通メールボックスのときは

- 初実装の音声メール装置の場合：97
- 増設の音声メール装置の場合：98

4.2 登録を削除する

▼操作手順

「1.3　登録を削除する」（P.41）と同じです。

5 フレキシブルキーにDSSキーを登録する

フレキシブルキーに［DSS］キーを登録して、相手の使用状態のわかる［内線番号］キーとして使用することができます。

5.1 DSSキーを登録する

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 な JKL

2 “5（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3 さ DEF

3 “3（DSS割付）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

□

4 内線番号を登録する［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーを押す

```
DSS割付
F13:内線----
    未登録
```

● 例えば、上段の1番左側のｷｰを押した場合です。

メニュー 決定

5 登録する内線番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

操作手順1～3の代わりに［保留］→［9］でもできます。

5.2 登録を削除する

▼操作手順

「1.3　登録を削除する」（P.41）と同じです。

6 特番を設定する

回線捕捉、代理応答、構内放送、ドアホンなどに特番を使って捕捉、接続ができます。
この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

●特番一覧表

特番の種類	初期設定	特番の種類	初期設定
外線捕捉	0	ACR停止	96
外線発信	—	PB保守	92
リダイヤル	80	FAX発信	—
短縮	6	キャリア選択	—
代理発信	82	発信予約	—
代理応答	81	グループパーク保留／応答	84～89
集中着信	—	システムパーク保留／応答	—
不在転送	—	外線代理応答	—
FAX転送	—	内線代理応答	—
指定外線捕捉	83	フッキング送出	—
放送アクセス	＊9	指定専用線捕捉	70
放送応答	＃9	DGLグループ呼出	—
会議	—	通話中着信	—
ドアホンアクセス	—	データ通信	—
メール転送	71	共通メールボックス1	97（注1）
グループ音声呼出	＊0	共通メールボックス2	98（注2）
グループ音声呼出応答	＃0	メールボックス番号指定	74

注1：初実装の音声メール装置の共通メールボックス特番です。
注2：増設の音声メール装置の共通メールボックス特番です。

7 相手側のディスプレイに名前を表示する

（内線発呼者名表示）

相手側のディスプレイに、名前や所属を表示することができます。表示できる文字は、漢字4文字、英数字およびカタカナ8文字までです。濁点、半濁点、コロン、ピリオドも1文字分になります。

7.1 内線ネーム／DGLネームを登録する

▼操作手順

メニュー決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

2 “３（番号登録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2か ABC
または
4た GHI

3 “２（内線ﾈｰﾑ登録）”または“４（DGLﾈｰﾑ登録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- “４（DGLネーム登録）”を選んだときは、次に操作手順5にいきます。

2か ABC

4 “２（自内線名称）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
内線10          <ｶﾅ>
ﾈｰﾑ :
名称:
```

- 次に操作手順6にいきます。

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊゛ 0わ ん ゐ を ＃

5 DGLグループ番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

6 文字を入力する

- △▽キーで入力位置に合わせます。ネームはカナ入力、名称は漢字入力となります。
- 名称から入力するとネームは、未入力の場合は、名称で入力した文字列の半角カナが自動的に反映します。
- 文字入力方法は、サービスメニューを利用する（P.31～P.38）を参照してください。

メニュー決定

7 すべての文字を入力したら、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。

スピーカ

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

システム管理電話機から名前を入力する場合は、操作手順4で“１（内線名称（管理））”を選びます。次に、内線番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押します。次に操作手順6に戻ります。

補足

◇DGLネームを変更または削除する場合は、操作手順6で変更したい文字を［戻る/削除］キーで削除します。削除後新たに文字入力すれば変更できます。

◇全文字を削除し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押すとそのDGLネームは削除されます。

7.2 内線ネームの登録を変更・削除する

▼操作手順

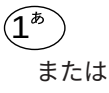
1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2 “１（番号検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3 “３（内線ﾈｰﾑ検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 変更する内線ネーム頭1文字（カナ）を入力し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 △▽キーで変更する内線ネームを確認し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す



または

6 “１（ﾈｰﾑ変更）”または“２（ﾈｰﾑ削除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- “２（ﾈｰﾑ削除）”を選んだときは、次に操作手順11にいきます。
- システム管理電話機以外で“１（ﾈｰﾑ変更）”を選んだときは、次に操作手順8にいきます。

7 変更する内線ネームを確認し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- もし内線ネームが違う場合は、△▽キーで選んで［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押してください。

8 変更する文字にカーソルを合わせ［戻る/削除］キーを押す

9 文字を入力する

- 文字入力方法は、サービスメニューを利用する（P.31～P.38）を参照してください。

10 変更できたら［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 変更ができた場合は、「ピー」と鳴ります。

11 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇内線ネームの登録を変更する方法は、操作手順1～7のかわりに、「7.1　内線ネームを登録する」の操作手順1～4でもできます。
◇DGLネームの変更・削除はP.49「7.1 内線ネーム／DGLネームを登録する」の操作で行います。

ご注意

◇文字変更画面のとき、［戻る/削除］キーを押すと、文字/数字が削除されます。まちがって削除してしまった場合は、もう一度文字/数字を入力するか［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押しやりなおしてください。
◇操作途中で［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押した場合、登録されている内容は変更されません。

第5章

電話機の基本的な使い方

1. 電話のかけかた ……52
1 外線にかける ……52
2 便利な外線発信機能 ……65
3 内線にかける ……72
4 便利な内線発信機能 ……73
2. 電話の受けかた ……77
1 外線を受ける ……77
2 内線を受ける ……77
3 DIL/DID表示の電話を受ける ……81
3. 保留のしかた ……82
1 通話相手に一時お待ちいただくには（保留） ……82
4. 転送のしかた ……85
1 通話中の外線を内線に転送する ……85

1 電話のかけかた

1 外線にかける

1.1 普通にかけるには（任意外線発信）

外線ランプの消えている［外線］キーを押し、次に電話番号をダイヤルします。

▼操作手順

1 受話器を上げる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外　線

2 外線ランプが消えている[外線]キーを押す

- 外線とつながり発信音は「ツー」に変わります。
- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

- 使用した外線ランプは消灯します。

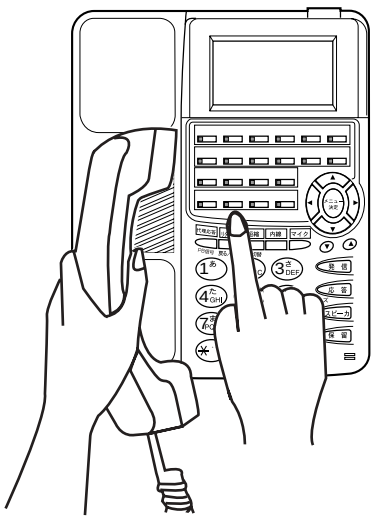
補 足

外線にかけるには、次のかけかたもできます。

◇［外線］キーの代わりに［発信］キーでも外線とつながります。
操作手順2で［発信］を押した後、相手の電話番号をダイヤルします。

◇［外線］キーの代わりに“０”発信または［外線発信］キーを押しても外線とつながります。（ルート選択発信）
操作手順2で“０”をダイヤルした後、相手の電話番号をダイヤルします。

◇［外線］キーを押さずに、外線とつながります。（オフフック外線自動捕捉）
受話器をあげ「ツー」音を確かめ、相手の電話番号をダイヤルします。このかけ方は、販売店にご相談ください。



参考

◇発信ランプが点灯しているときは、外線がすべて使われています。ランプが消えるまでお待ちください。

◇NTTのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかけ　自分の電話番号を通知したくないとき（184発信）、相手の電話番号をダイヤルする前に［非通知］キーを押すか184をダイヤルすることで、184発信になります。

1.2 指定した外線からかけるには（指定外線捕捉）

指定外線捕捉特番＋外線番号によって、指定した外線を捕捉することができます。

▼操作手順

1 受話器を上げる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 指定外線捕捉特番をダイヤルする（初期設定は“ 83 ”です。）

3 外線キー番号（2桁）をダイヤルする

4 相手の電話番号をダイヤルする

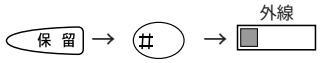
相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら受話器を戻す
- 使用した外線ランプは消灯します。

補 足

◇指定した外線を捕捉して外線発信するほかに、下記の状態中のものを捕捉して通話することができます。
①保留中
②着信中
③自己保留中
④パーク保留中
⑤着信ウェイト中
⑥秘話解除中

◇外線番号は、次の方法で確認してください。



ディスプレイ2段目右端に外線キー番号が表示されます。

1.3 オートダイヤルキーでかけるには（オートダイヤル）

［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押す
- 電話番号がダイヤルされます。

相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す
- 使用した外線ランプは消灯します。

補 足

フレキシブルキーに［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーを登録するにはP.44「フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する」を参照してください。

参考

［非通知］キーが登録されていないオートダイヤルで、非通知発信を行うためには、オートダイヤルを押す前に［非通知］キーを押します。

1.4 システム短縮番号でかけるには（システム短縮ダイヤル）

システム管理電話機で登録されたシステム短縮ダイヤルで、電話をかけることができます。システム短縮番号ダイヤルによるかけかた、システム短縮番号検索によるかけかたと、相手先名称検索によるかけかたの3種のかけかたがあります。

＜システム短縮番号によるかけかた＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

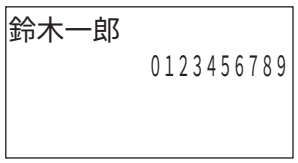
短縮

2 ［短縮］キーを押す

3 たとえばシステム短縮番号“123”をダイヤルする

1あ　2かABC　3さDEF

- 短縮番号“123”に相手名称が登録されている場合は、ディスプレイ1段目に相手名称を2段目に電話番号を表示します。



- 電話番号を表示すると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

システム短縮ダイヤルの登録はP.57をご参照ください。

参考

NTTのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかける場合、自分の電話番号を通知したくないとき（184発信）、［短縮］キーを押す前に［非通知］キーを押すことで、184発信になります。

＜システム短縮番号検索によるかけかた＞

▼操作手順

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2 “１（番号検索）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3 “２（短縮No検索）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 △▽キーでシステム短縮番号を検索する

- ［検索］キーの「▽」を押すと、若番から検索します。「△」を押すと、老番から検索します。
- 例えば、ある番号からの検索を行うときは、その番号をダイヤルし、そのあとに△▽キーで検索します。

短縮No　No:000 0123456789 鈴木一郎	←→	短縮No　No:000 0123456789 ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ

入力切替 キーを押すことで切替わります。

または

外線

5 検索終了後、［発信］キーを押すか、外線ランプの消えている［外線］キーを押す

- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。

6 受話器をあげる

相手が応答すると、通話ができます。

7 通話が終了したら、受話器を戻す

＜相手先名称(ネーム)検索によるかけかた＞

▼操作手順

1 ▽キーを押す

```
短縮ﾈｰﾑ          →
<ｶﾅ>
```

補 足

操作手順1のかわりに
1.［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
2.“ 1（番号検索）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
3.“ 1（短縮ﾈｰﾑ検索）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
方法でもできます。

2 検索する名称の先頭から1～5文字を入力し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キー押す

- ネーム入力の方法は、サービスメニューの文字入力方法（P.35）によります。
- たとえば「スズキイチロウ」のネームを検索するとき、「スズキ」で検索した場合、

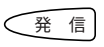
```
短縮ﾈｰﾑ          →ｽｽﾞｷ
<ｶﾅ>
```

```
ﾈｰﾑ<ｽｽﾞｷ>        No:123
                0123456789
鈴木一郎
```

- もし同一文字内で2つ以上の短縮ネームがある場合は、△▽キーでスクロールします。

ご注意

五十音での昇順または降順での表示はできません。



または

外線

3 検索終了後、［発信］キーを押すか、外線ランプの消えている［外線］キーを押す

4 受話器をあげる

相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

＜システム短縮番号を登録するには＞

システム短縮番号の登録や削除は、システム管理電話機から行います。

（登録手順）

登録手順は、次のように大きく分けて3つになります。必要に応じて入力してください。

1：基本登録(必須項目)	短縮番号と相手先の電話番号を入力します。	P.57参照
2：相手先名称登録	相手名称(漢字)と相手名称(カナ)を入力します。	P.58参照
3：付加情報登録	発番号表示、発番号別着信、発番号別着信音またはVIP指定させるための必要な項目の入力をします。	P.59参照

1：基本登録（必須項目）

▼操作手順

メニュー 決定

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

3さ DEF

2 “3（番号登録）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1あ

3 “1（短縮登録）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1あ

4 “1（相手番号）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1あ 2かABC 3さDEF 4たGHI 5なJKL 6はMNO 7まPQRS 8やTUV 9らWXYZ ＊゛ 0わん記号 ＃

5 登録する電話番号をダイヤルする

相手番号

0123456789123＊1234

メニュー 決定

6 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 相手先名称や付加情報を登録する場合は、（2：相手先名称登録）または（3：付加情報登録）に行きます。

3さ DEF

7 “3（短縮番号）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1あ 2かABC 3さDEF 4たGHI 5なJKL 6はMNO 7まPQRS 8やTUV 9らWXYZ ＊゛ 0わん記号 ＃

8 短縮番号をダイヤルする

- 空き短縮番号を検索する場合は、△▽キーでスクロールします。

ご注意

◇システム管理電話機がわからないときは、販売店にご相談ください。
◇初期設定は、内線番号の一番若い番号がシステム管理電話機となっています。

参考

◇ポーズ信号は、[応答] キーで登録でき1桁としてあつかわれます。
◇登録するダイヤルがACR機能を働かせないようにする場合、電話番号のダイヤルの前に [ACR停止] キーまたは、特番をダイヤルします。
◇登録するダイヤルが相手にナンバーディスプレイを行いたくない場合、電話番号のダイヤルの前に [非通知] キーまたは、184をダイヤルします。
◇登録するダイヤルにPB信号を含めるときは、PB信号を入れる所で [PB信号] キーを押します。ディスプレイに“P”と表示されます。

補足

◇初期登録時の発信種別は外線です。変更する場合は、システム短縮番号を登録したあと、番号検索メニューの「短縮No検索」「短縮ネーム検索」のサブメニューから行います。
◇システム短縮番号登録を発信者情報とするためには、相手番号は、市外局番から登録してください。

- 短縮番号000から順番に検索する場合は、▽キーでスクロールします。

短縮番号
No:000
未登録

補足

◇登録できるシステム短縮件数は、最大500件です。
◇登録できるシステム短縮番号は、000から999までです。

メニュー 決定

9 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 続けて登録する場合は、操作手順3に戻ります。

スピーカ

10 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

2：相手先名称登録

相手先名称登録する場合は、(1：基本登録)の操作手順6の次に入力します。

▼操作手順

2 か ABC

1 “2（相手先名称(漢字)）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 文字を入力する

- 入力方法は、サービスメニューを利用する（P.31～38）を参照してください。

名称<漢字>　　<漢>
鈴木一郎

メニュー 決定

3 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

4 た GHI

4 “4（相手名称(カナ)）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 操作手順2で入力した全角かな文字が半角カナとなり表示します。

名称<ｶﾅ>　　<ｶﾅ>
ｽｽﾞｷｲﾁﾛｳ

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わ ん 記号　＃

5 文字を修正入力する

- 入力方法は、サービスメニューを利用する（P.31～38）を参照してください。
- 修正しない場合は、操作手順6に行きます。

メニュー 決定

6 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

- 付加情報を入力しない場合は、（1：基本登録）の操作手順7に行きます。
- 付加情報を入力する場合は、（3：付加情報登録）に行きます。

3：付加情報登録

発番号表示、発番号別着信、発番号別着信音またはVIP指定を選択する場合には、（1：基本登録）の操作手順6の次、または（2：相手先名称登録）入力後に必要な項目の入力をします。

▼操作手順

5 な JKL

1 “ 5（着信音種）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 着信音種を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ ～ 6 は MNO

3 “ 6（着信形式(昼)）”または“ 7（着信形式(夜)）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

6 は MNO または 7 ま PQRS

4 着信形式を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ ～ 5 な JKL

- “ 4（DIL）” を選んだ場合は、操作手順5に進み、DILの着信先を決めます。
- その他を選んだ場合は、操作手順8に進みます。

5 DILの着信先を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ ～ 5 な JKL

- “ 1（内線）”、“ 3（DIL）” または “ 5（専用線閉番号）” を選んだ場合は、操作手順6に進み、着信先の番号を入力します。
- “ 2（メールボックス）” を選んだ場合は、操作手順7に進み、メールボックス番号を選びます。
- “ 4（RPI）” を選んだ場合は、操作手順8に進みます。

1 あ 2 か ABC 3 さ DEF 4 た GHI 5 な JKL 6 は MNO 7 ま PQRS 8 や TUV 9 ら WXYZ ＊ ・゛ 0 わ ん 記号 ＃

6 着信先の番号をダイヤルし、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

1 あ または 2 か ABC

7 メールボックス番号を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

補足

メールボックス番号は下記の通りです。

1 あ ：メールボックス番号97（初実装のとき）

2 か ABC ：メールボックス番号98（増設のとき）

8や TUV

8 “ 8（VIP指定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ または 2か ABC

9 “ 1（VIP）”または“ 2（一般）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- （1：基本登録）の操作手順7に行きます。

補 足

◇操作手順9で「VIP」にすると鳴動時にバックライト色を「ベース色の反対色」を点灯させ、応答すると「ベース色」に戻ります。
◇バックライトの設定は、P.27「ディスプレイのバックライトを設定する」をご覧ください。
◇通話中にVIP着信があった場合もバックライト色は「ベース色の反対色」を点灯表示します。

＜システム短縮番号の内容を変更するには＞

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

2 “ 1（番号検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ または 2か ABC

3 “ 1（短縮ﾈｰﾑ検索）”または“ 2（短縮No検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 短縮ﾈｰﾑの先頭から1～5文字を入力して検索、または短縮Noをダイヤルするか△▽キーで検索し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

補 足

発信種別を変更するときは、操作手順5で“ 2（発信種別変更）”を選びます。操作手順6の操作後、［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押して完了します。

1あ

5 “ 1（内容変更）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

△▽

メニュー 決定

6 △▽キーで変更する項目を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ 0わ 記号 ＃

7 文字または番号を変更する
- 相手名称のときは、◁▷キーで変更する文字にカーソルを合わせ削除してから再入力してください。
- 相手番号または短縮番号のときは、変更数字まで末尾から削除し再入力してください。

ご注意

バックライトの設定が「常時消灯」の場合は、この機能は使えません。

ご注意

◇文字変更画面のとき［戻る/削除］キーを押すと文字/数字が削除されます。まちがって削除した場合は、もう一度文字/数字を入力するか［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押し操作をやりなおしてください。
◇操作途中で［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押した場合、登録されている内容は変更されません。

メニュー 決定

8 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

メニュー 決定

9 “３（短縮番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。

スピーカ

10 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

＜システム短縮番号を削除するには＞

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

2 “１（番号検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ または 2か ABC

3 “１（短縮ﾈｰﾑ検索）”または“２（短縮No検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 削除する短縮ネームの先頭から1～5文字を入力して検索、または短縮Noをダイヤルするか△▽キーで検索し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

5 “３（登録削除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 削除を続けるときは、操作手順4からはじめます。

スピーカ

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

1.5 最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル）

最後にかけた電話番号は、次に電話をかけるまで[ﾘﾀﾞｲﾔﾙ]キーに記憶されています。
[ﾘﾀﾞｲﾔﾙ]キーで最後にかけた電話番号に再度かけることができます。
また、最後にかけた電話番号を含む２０件までの電話番号を［検索］キーで呼び出してかけることもできます。（履歴表示　P.６３参照。）

＜最後にかけた相手に発信するには＞

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 [ﾘﾀﾞｲﾔﾙ] キーを押す
- 自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。
- ディスプレイ2段目に電話番号が表示されます。
- 外線を指定して発信することができます。[ﾘﾀﾞｲﾔﾙ] キーを押す前に [外線] キーを押します。

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

◇［外線］キーの代わりに［発信］キーでも外線とつながります。
◇最後にかけた電話番号を消すには、発信記録の削除機能を使います。（P.６４参照）
全ての発信記録を消すには、［保留］キー押下→［ﾘﾀﾞｲﾔﾙ］キー押下の手順で行います。

1.6 蓄積されている発信記録／着信記録をシステム短縮ダイヤルに登録するには

蓄積されているリダイヤル情報は全て（最大20件）システム短縮ダイヤルに登録できます。

＜システム短縮ダイヤルに登録する＞

▼操作手順

または

1 発信記録を選択するときは◁キーを、着信記録を選択するときは▷キーを押す

2 △▽キーで登録するダイヤル番号を検索し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー 決定

```
発信記録00
10/10  10:10
          0123456789
```

1あ

3 “1（短縮ｺﾋﾟｰ）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 ここからの操作は、＜システム短縮番号を登録するには＞（P.57）の操作手順4からの操作となります。

ご注意

発信記録／着信記録をシステム短縮ダイヤルに登録できる電話機はシステム管理電話機です。

補足

◇操作手順1のかわりに
1.［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
2.△▽キーで“2（履歴表示）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
3.△▽キーで“1（発信記録）”または“2（着信記録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
と操作してもできます。
◇着信記録を着信拒否番号に登録できます。登録方法はP.110を参照してください。

1.7 発信記録／着信記録から電話するには（履歴表示）

発信記録やナンバーディスプレイサービスで通知された電話番号を着信記録として記憶し、発信記録や着信記録を検索して発信操作で自動的に発信することができます。

▼操作手順

または

1 発信記録を選択するときは◁キーを、着信記録を選択するときは▷キーを押す

2 △▽キーでかけたい相手先の電話番号を表示する

- ［▽］キーを押すと古い発信記録または着信記録へ移行します。［△］キーを押すと新しい発信記録または着信記録に移行します。
- 発番号名称の登録がある場合は、名称で表示します。

補足

操作手順1のかわりに
1.［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
2.△▽キーで“2（履歴表示）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
3.△▽キーで“1（発信記録）”または“2（着信記録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
と操作してもできます。

発信
または
外線

3 ［発信］キーを押すか、外線ランプが消えている［外線］キーを押す

- 外線につながりダイヤルをはじめます。
- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。

4 受話器をあげる

相手が応答すると通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

（注）発番号名称を登録していた場合は発番号名称を、ディスプレイ情報を受信した場合はネームディスプレイ情報を、発信者番号未受信の場合は「着信あり」を表示します。

補足

◇発信記録は、外線／専用線に発信した最後の20件を内線毎に蓄積します。
◇着信記録は、応答／未応答にかかわらず全ての着信について記録します。蓄積件数はシステムで100件です。
◇着信記録をグループわけして利用することも可能です。蓄積件数はグループ最大100件、システム全体で100件となります。詳しくは、販売店にご相談ください。
◇発信記録または着信記録が20桁以上になっているときは、◁▷キーによって表示させることができます。
◇迷惑電話拒否／ISDN回線使用制限時の切断した着信は、「着信記録を蓄積する」に設定している場合は蓄積します。詳しくは、販売店にご相談ください。

1.8 発信記録／着信記録を削除する

▼操作手順

または

1 発信記録を選択するときは◁キーを、着信記録を選択するときは▷キーを押す

2 △▽キーで削除したい電話番号を表示する

メニュー 決定

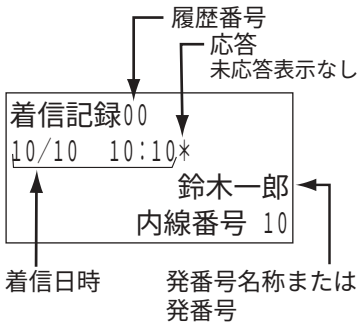
3 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2か ABC

4 “2（記録削除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ

5 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す



補足

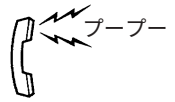
◇発信記録を全て削除したい場合は、操作手順4で“3（全記録削除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押し、次に“1（削除）”を選んでください。
◇着信記録を全て削除することができるのは、システム管理電話機です。操作は、操作手順4で“3（全記録削除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押し、次に“1（削除）”を選んでください。

2 便利な外線発信機能

2.1 受話器を戻さずにかけ直すには（クイックリダイヤル）

相手が話中の場合、受話器を戻さずにかけ直すことができます。

▼操作手順



話中音「プープープー」が受話器から聞こえます。

1 受話器を戻さずに［ﾘﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押す
- 先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。

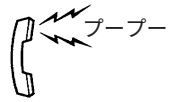
2 相手が応答すると、通話ができる

3 通話が終了したら、受話器を戻す

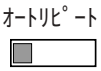
2.2 かけ直しを繰り返すには（オートリピート）

相手が話中の場合、かけ直しを自動的に15回までできます。

▼操作手順



話中音「プープープー」が受話器から聞こえます。



1 受話器を戻さずに［ｵｰﾄﾘﾋﾟｰﾄ］キーを押す
- オートリピートランプが赤点灯します。
- 先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。
- 応答がない場合は、再度電話番号がダイヤルされます。

2 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押し、受話器を戻して相手の応答を待つ

3 相手の応答する声が「ｽﾋﾟｰｶ」から聞こえる
- 通話できる状態です。
- オートリピートランプは消灯します。

4 受話器をあげて通話する

5 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

フレキシブルキーに［ｵｰﾄﾘﾋﾟｰﾄ］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

参考

◇オートリピートの回数は、初期で15回となっており1回から15回まで変更できます。
◇オートリピートの回数を変更したいときは、販売店にご相談ください。
◇［ｵｰﾄﾘﾋﾟｰﾄ］キーを再度押すとオートリピート機能は解除されます。
◇受話器をあげないプリセットダイヤル（P.69）でも、オートリピート機能は使えます。

2.3 ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ）

ダイヤルメモリに登録された電話番号で、電話をかけることができます。

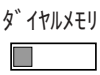
▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

または

外線

2 ［発信］キーを押すか、外線ランプが消えている［外線］キーを押す
- 外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。



3 ［ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ］キーを押す
- ダイヤルメモリに登録された電話番号をダイヤルします。

相手が応答すると、通話ができます。

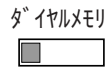
4 通話が終了したら、受話器を戻す

＜ダイヤルメモリに電話番号を登録するには＞

通話中または、通話中でなくともダイヤルメモリに電話番号を登録できます。
・最大32桁までの電話番号が登録できます。
・あらたに電話番号を登録すると、前の電話番号は消去されます。
通話中に連絡された電話番号をメモしておくのに便利です。

■通話中にダイヤルメモリする

▼操作手順



1 ［ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ］キーを押す
- ダイヤルメモリランプが赤点灯します。

2 登録する電話番号をダイヤルする

3 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 電話番号が登録されます。
- ダイヤルメモリランプは消灯します。

補足

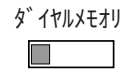
◇通話中でない場合に登録するときは、操作手順1の前に［保留］キーを押します。また、操作手順3のあとに、［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押します。
◇フレキシブルキーに［ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ］キーを登録するにはP.40「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

＜ダイヤルメモリを消去するには＞

通話中または、通話中でなくてもダイヤルメモリの電話番号を消去できます。

■通話中にダイヤルメモリを消去する

▼操作手順



1 通話中に［ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ］キーを押す
- ダイヤルメモリランプが赤点灯します。

2 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 登録されている電話番号は消去されました。
- ダイヤルメモリランプは消灯します。

補足

通話していないときにダイヤルメモリを消去するには、操作手順1の前に［保留］キーを押してください。
また、操作手順2のあとに［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押します。

2.4 別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信）

別の電話機のダイヤルメモリに登録されている電話番号を使って、電話をかけることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 代理発信特番をダイヤルする（初期設定は“82”です。）

3 ダイヤルメモリを使う内線電話機の内線番号をダイヤルする
- 自動的に外線とつながります。
- つながった外線ランプが緑点灯します。

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら、受話器を戻す
- 外線ランプは消灯します。

参考

◇通話中に相手ファクシミリの電話番号を、ダイヤルメモリ（自席）に登録します。
◇通話終了後、ファクシミリで代理発信特番の次に、相手ファクシミリの電話番号が登録された自席の内線番号をダイヤルします。
◇ファクシミリにはダイヤルメモリに登録されている電話番号をダイヤルし、ファクシミリ通信をはじめます。
（注）ファクシミリなどの単独内線がオフフック外線捕捉の設定になっている場合、本機能は使用できません。

ご注意

VoIP専用線への代理発信は、できません。

2.5 外線予約するには（発信予約）

使用したい外線が使われているとき発信を予約しておくと、外線が空くと予約した電話機に電話をかけられることを知らせる呼出し音が鳴ります。

▼操作手順

使用したい外線ランプが点灯している状態で次の操作を行います。

1 ［予約］キーを押す

または

2 ［発信］キーを押すか、使用中［外線］キーを押す

3 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

4 呼出音が鳴る

- 外線が空くと、外線が空いたことを知らせる呼出音が鳴ります。

5 受話器をあげる

- 外線とつながり発信音「ツー」が聞こえます。
- 予約ランプは消灯します。

6 相手の電話番号をダイヤルする

- ワンタッチダイヤルやシステム短縮ダイヤルも使えます。

相手が応答すると、通話ができます。

7 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

ご注意

アナログ回線以外は予約する使用中回線が相手呼出中または通話中以外は予約できません。

補 足

◇フレキシブルキーに［予約］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

◇オフフック状態で〈発信予約〉の操作をするときは、操作手順3で［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押すかわりに受話器を戻します。

2.6 電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル）

相手の電話番号をダイヤルし、次に発信操作をします。

▼操作手順

1 電話番号をダイヤルする

2 ［発信］キーを押すか、外線ランプの消えている［外線］キーを押す

- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。
- ダイヤルした電話番号に電話をかけます。

3 相手の応答する声が「ｽﾋﾟｰｶ」から聞こえる

- 通話のできる状態です。

4 受話器をあげて通話する

5 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

2.7 マルチステーションキーを使ってかけるには（マルチステーションキー回線捕捉）

空いている［MSA］キーを押すことにより、局データで指定した外線（方路）を捕捉することができます。また「MSA」別に契約番号を発番号として通知する機能ももっています。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.8 発信した回線から自動的にMSAを選択するには（回線捕捉時自動MSA捕捉）

外線での発信時、捕捉した外線の方路に従い、自動的にMSAを捕捉します。また「MSA」別に契約番号を発番号として通知する機能ももっています。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

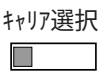
2.9 NCC回線を指定してかけるには（キャリア選択発信）

契約しているNCC回線を選択する番号をダイヤルしてから電話をかけます。

▼操作手順

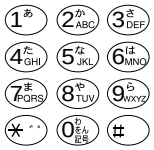
1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 ［ｷｬﾘｱ選択］キーを押すか、キャリア選択特番をダイヤルする

3 キャリア番号をダイヤルする



4 相手の電話番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

〔キャリア番号〕

NTT東日本　：0036
NTT西日本　：0039
NTTコミュニケーションズ
　　：0033
KDDI　　：001(国際)、0070、0077
日本テレコム：0041(国際)、0088
Cable & Wireless IDC
　　：0061
東京電話　：0081、0082(国際)
フュージョン・コミュニケーションズ
　　：0038
ワールドコム・ジャパン
　　：0071
九州電話　：0086
ドイツテレコム：0080

補足

◇該当するキャリアの優先接続契約が無い場合は、回線ごとの契約に従います。回線契約に登録できない回線については、マイラインプラス契約以外の全ての公衆回線を対象にして回線を選択します。

◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

2.10 割引回線等の回線から優先して選択するには（割引回線優先捕捉）

マイラインの割引契約を結んだ回線から、自動的に選んで電話をかけることができます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2.11 優先接続（マイライン）

外線発信時にマイライン（電話会社選択サービス）または、マイラインプラス（電話会社固定サービス）に対応した回線を優先的に選択して電話をかけます。

ご注意

◇この機能を利用するには、各電話会社のマイラインまたは、マイラインプラスを契約する必要があります。
◇この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

3 内線にかける

3.1 普通にかけるには（トーン呼出）

呼出音を鳴らして相手を呼出します。

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする

- 電話機のディスプレイに相手の所属や名前が表示されます。相手の電話機のディスプレイには内線発呼者名が表示されます。

（例）かけた電話機のディスプレイ表示

```
                Tel.15
総務山田        内線  10
```

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

◇内線発呼者名を表示するには、P.49（相手側のディスプレイに名前を表示）をご参照ください。

◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

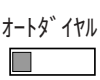
3.2 内線登録したオートダイヤルキーでかけるには（内線ワンタッチコール）

内線登録した［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 内線を登録した［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押す

- 内線に電話をかけます。

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

◇フレキシブルキーに内線番号を登録するには、P.44「フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する」を参照してください。

◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

4 便利な内線発信機能

4.1 ホットラインでかけるには（ホットライン）

受話器をあげるだけで、登録されている内線に電話をかけることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえ、しばらくすると「プルルー」と呼出音に変わります。

相手が応答すると、通話ができます。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

◇この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
◇相手先として登録できる電話番号は内線番号のみです。

補 足

受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえているときに、ダイヤルすると別の内線にかけることができます。

4.2 音声で呼び出すには（内線音声呼出し）

呼出音でなく、音声で相手を呼びだします。

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする

- 受話器から「プルルー」と相手を呼出す音が聞こえます。

3 “ ＊ ”をダイヤルする

4 受話器に向かって、音声で相手を呼出す

- たとえば「田中さん、田中さん」と呼ぶと、相手の電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。

相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

◇トーン呼出しに戻すことができます。
操作手順3または4でもう一度「＊」をダイヤルすると、トーン呼出しにもどります。
音声呼出しとトーン呼出しは、「＊」で交互に切替えることができます。
◇内線ごとに呼出されるときは、最初から音声呼出しにすることができます。
この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

メモ

倉庫内の内線電話、1つの電話を数人で共有している場合などでは、呼出音「プルプル、プルプル」より音声呼出しの方が、誰にかかってきた電話かわかり便利です。

4.3 グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表）

内線の代表番号をダイヤルすると、グループ内の空き電話を呼出します。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線の代表番号をダイヤルする
- 代表番号が話中でも、あらかじめ設定されたグループ内の内線を呼出します。

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

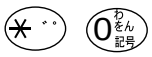
この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

4.4 グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼出し）

グループ分けされた内の、1グループのすべての電話機を一斉に音声で呼出せます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 グループ呼出し特番をダイヤルする
- 初期設定は“ ＊ ”“ 0 ”です。

3 グループ番号をダイヤルする
- 初期設定“ 0 ”は、すべての内線電話の一斉呼出しです。

4 受話器でグループ名を呼びかける
- たとえば「営業1課さん」と呼ぶと、そのグループのすべての電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。

相手が応答すると、通話ができます。

5 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

◇応答の手順は、P.80を参照してください。
◇操作手順2のグループ呼出しと3のグループ番号を、まとめてフレキシブルキーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。P.44「フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する」を参照してください。また、グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときにもフレキシブルキーが使えます。

ご注意

単独電話機、専用デジタルコードレス電話機、PHSはグループ音声呼び出しができませんのでご注意ください。

参考

グループ“ 0 ”は、システム一斉呼び出しです。グループをいくつかに分けるときは、販売店にご相談ください。

4.5 DGLグループを呼出すには(DGLグループ呼出し)

DGLグループに直接電話をかけることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 DGL特番をダイヤルする

特番は販売店にご相談ください。

3 DGLグループ番号をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

◇操作手順2のDGL特番と3のDGLグループ番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。P.44「フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する」を参照してください。

◇DGLグループ呼出しの応答手順は、P.80を参照してください。

◇DGLグループ対応の「名称」を付けることができます。全角4文字までです。登録は、P.49「7.1　内線ネーム／DGLネームを登録する」を参照してください。

◇DGLグループの着信時、放送装置に着信音を送出することができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。

参考

拡張内線番号を利用することで、DGLグループを内線と同じように呼出すことができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。

4.6 話し中の内線電話を予約するには（内線キャンプオンビジー）

＜予約するには＞

▼操作手順

相手に電話をかけ、話中音が聞こえたら

予約

1 ［予約］キーを押す

- 予約ランプが赤点灯します。

2 受話器を戻す

補足

フレキシブルキーに［予約］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割りつけるには」をご参照ください。

＜相手のお話が終わったら＞

1 予約した内線に呼出しがかかるので、受話器をあげる

- 受話器から「プルループルルー」と呼出音が聞こえます。

相手が呼出されます。
相手が応答すると、通話ができます。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

4.7 内線の呼び先を順次変更するには（シリーズコール）

たとえば、呼び先の課の内線番号が「10～14」と5台あり、いつもは「10」にかけているものとします。「10」が話中の場合は、「1」を追加ダイヤルすることで「11」番へかかります。

▼操作手順

相手に電話をかけ、話中音が聞こえたら

1あ

1 “1”をダイヤルする

- 下1桁だけで呼出先を変更できます。
- 「10」番への呼出しは中止され、「11」番を呼出します。
- “2”をダイヤルすると、「12」番を呼出します。

相手が応答すると、通話ができます。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2 電話の受けかた

1 外線を受ける

1.1 普通に受けるには（任意外線応答）

受話器をあげるだけで外線着信に応答できます。

▼操作手順

外線着信音「プルルー」が鳴ります。
かかってきた外線の外線ランプは赤点滅します。

1 受話器をあげる

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。
- 応答ランプは消灯します。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

補 足

◇非鳴動電話機で外線に応答するには、受話器をあげたあと［応答］または点滅している［外線］キーを押してください。
◇受話器をあげる前に、［応答］キーを押しても電話を受けることができます。
◇鳴動電話機は、受話器をあげるだけで、電話を受けることができます。（鳴動オフフック外線自動応答）この機能を変更する場合は、販売店にご相談ください。

2 内線を受ける

2.1 普通に受けるには（内線自動応答）

自分にかかってきた電話は、受話器をあげるだけで受けることができます。

▼操作手順

内線着信音「プルプル」が鳴ります。

1 受話器をあげる

- 通話ができる状態になります。

2 通話終了後は、受話器を戻す

2.2 音声呼出しを受けたときには（音声呼出し）

「スピーカ」から音声で呼出しを受けたときは、「普通に受けるには(P.77)」と同じ操作で電話を受けることができます。

▼操作手順

「スピーカ」から呼びかけられます。

1 受話器をあげる
- 通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

2.3 受話器を上げずに受けるには（内線ハンズフリー応答）

音声呼出しを受けたときは、受話器の代わりに「ハンズフリーマイク」と「スピーカ」で通話できます。

▼操作手順

「スピーカ」から呼びかけられます。

1 受話器をあげずに［ﾏｲｸ］キーを押す
- マイクランプが赤点灯します。
- 通話ができる状態になります。

2 マイクに向かって話す

3 通話が終了したら、［ﾏｲｸ］キーを押す
- マイクランプが消灯します。

補 足

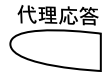
◇通話中に受話器をあげると、通常の受話器による通話になります。受話器による通話から「マイク」による通話には戻れません。
◇一斉呼出し、グループ呼出しのときは「マイク」による通話はできません。
◇あらかじめ［ﾏｲｸ］キーを押しておくと、音声呼出しにいつでもマイクで応答できます。
倉庫などで使う電話機は、あらかじめ音声呼出しにしておくと便利です。この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。
◇相手がハンズフリー応答のときは、転送行為はできません。
◇ハンズフリーでの発信はできません。
◇着信側からの切断は、［ｽﾋﾟｰｶ］キーの2度押しでできます。

2.4 グループ内の別の電話を受けるには（代理応答）

内線グループ内の別の電話に、かかってきた電話を受けることができます。

▼操作手順

別の内線電話機が「プルプルプル」と着信音が鳴ります。



1 ［代理応答］キーを押す
- 通話ができる状態になります。

2 受話器をあげる

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

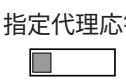
◇［代理応答］キーの代わりに［内線代理応答］キーを押すと、グループ内の内線のみ応答できます。
◇［代理応答］キーの代わりに［外線代理応答］キーを押すと、グループ内の外線のみ応答できます。
◇フレキシブルキーに［代理応答］キー、［指定代理応答］キー、［内線代理応答］キーまたは［外線代理応答］キーを登録するにはP.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

2.5 他グループの電話を受けるには（指定代理応答）

他のグループにかかってきた電話を、受けることができます。

▼操作手順

他のグループの内線電話機が「プルプルプル」と着信音が鳴ります。



1 ［指定代理応答］キーを押す

2 着信中のグループ番号をダイヤルする

3 受話器をあげる
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

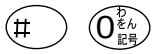
2.6 グループ内の電話が一斉音声呼出しを受けたときには（グループ呼出し応答）

内線グループ内の内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、グループ内のどの電話機でも応答できます。

▼操作手順

スピーカから呼びかけられます。

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 グループ呼出し応答の特番をダイヤルする
- 初期設定は“ # ”“ 0 ”です。

3 グループ番号をダイヤルする
- グループ番号の初期設定は“ 0 ”です。
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順2の前に［内線］キーを押します。

2.7 DGLグループ呼出しに応答するには

▼操作手順

DGLグループ呼出しがある。
- LCDディスプレイの上段に「DGLnn」と表示します。

```
                DGL nn
10/20 Mon  pm 3:30
```

nnはDGLグループ番号

1 受話器をあげる
- 通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

補 足

◇非鳴動電話機で応答するには、受話器をあげたあと、点灯している［DGL］または［MSA］キーを押してください。
◇［DGL］キーまたは［MSA］キーを登録していないときで鳴動していれば受話器をあげるだけで応答できます。
◇DGL表示の着信は、不在転送できません。

3 DIL/DID表示の電話を受ける

ダイレクトインライン、夜間ダイレクトインライン、PBXダイヤルイン、付加番号DIDでかかってきた電話を受けることができます。

▼操作手順

着信音が「ﾌﾟﾙﾌﾟﾙﾌﾟﾙ」と鳴ります。

```
                DIL nn
10/20 Mon   pm 3:30
```

nnは外線番号

- LCDディスプレイの上段に「DILnn」または「DIDnn」と表示します。

- かかってきた外線の外線ランプは、橙の早い点滅をします。

```
                DIL nn
10/20 Mon   pm 3:30
          0123456789
```

- NTTのナンバーディスプレイサービス契約回線からの着信時は、相手の電話番号が3段目に表示されます。

```
                DIL nn
10/20 Mon   pm 3:30
          0123456789
              鈴木一郎
```

- 電話番号と名前を登録していた場合は、4段目に名前が表示されます。

1 受話器をあげる

- 通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

メモ

◇付加番号DIDとは、指定外線の着信に自動応答し、外線からのPB信号（内線番号）を受信することにより内線に直接着信させます。
◇DILとは、指定外線の着信を指定された内線に直接着信させます。
◇PBX　DI（ダイヤルイン）とは、指定番号対応の内線または、DGLグループに直接着信させることができます。（外線はダイヤルイン契約が必要です。）

3 保留のしかた

1 通話相手に一時お待ちいただくには（保留）

1.1 保留の解除は自分の電話機でする（自己保留）

保留した電話機以外では、保留の解除ができないようにすることができます。

▼操作手順

自己保留

1 通話中の相手に保留することを伝え、[自己保留] キーを押す
- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。
- 自己保留ランプは橙と緑で交互に点滅します。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。

自己保留

2 保留の解除は、[自己保留] キーを押す
- 通話ができる状態に戻ります。
- 自己保留ランプは消灯します。
- 外線を保留した場合、点滅していた外線ランプは、緑点灯に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を戻す
- 点灯していたランプは消灯します。

補 足

◇フレキシブルキーに［自己保留］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

◇保留時間が長すぎると「ｽﾋﾟｰｶ」から警告音が鳴り、外線ランプを早い点滅にして知らせます。

◇外線通話を保留し受話器を戻した場合は、橙と緑で交互に点滅している［外線］キーを押しても保留を解除します。

1.2 保留の解除を別の電話機でする（システム保留）

保留の解除を別の電話機でもできるようにします。

＜保留のしかた＞

▼操作手順

保 留

1 通話中の相手に保留することを伝え、[保留] キーを押す
- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。
- 外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。

＜別の電話機で保留を解除する＞

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線

2 外線ランプが緑点滅している、［外線］キーを押す
- 通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、受話器を戻す
- 外線ランプは消灯します。

補足

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、受話器をあげないで［外線］キーを押してから受話器をあげます。

＜保留した電話機で解除する＞

▼操作手順

外線

1 外線ランプが橙と緑で交互に点滅している［外線］キーを押す
- 通話ができる状態に戻ります。
- 点滅していたランプは、緑点灯に変わります。

2 通話が終了したら、受話器を戻す
- 点灯していたランプは消灯します。

補足

保留時間が長すぎると「スピーカ」から警告音が鳴り、外線ランプを速い点滅にして知らせます。

1.3 パーク保留をする（パーク保留）

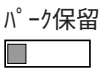
［外線］キーが割付けられていない電話機、または内線通話を保留する場合は、パーク保留にします。

＜保留のしかた＞

▼操作手順

1 通話相手に保留することを伝え［ﾊﾟｰｸ保留］キーを押す

- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- パーク保留ランプは橙と緑で交互に点滅します。また、別の電話機のパーク保留ランプは緑点滅します。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。



2 保留の解除は、［ﾊﾟｰｸ保留］キーを押す

- 通話ができる状態に戻ります。
- 自分のパーク保留ランプは消灯します。
- 別の電話機のパーク保留ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

メモ

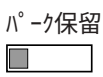
パーク保留に応答できる電話機をグループ化し、グループ内保留に応答できるグループパークとシステム全体に応答できるシステムパークにグループ化できます。たとえば、会社の受付はシステムパーク保留、課内はグループパーク保留にするなどして効果的な運用ができます。

＜別の電話機の保留を解除する＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。



2 緑点滅している［ﾊﾟｰｸ保留］キーを押す

- 通話ができる状態に戻ります。
- パーク保留ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、受話器をあげないで［ﾊﾟｰｸ保留］キーを押し、その後受話器をあげます。

ご注意

●保留の警告について
保留時間が1分経過すると「スピーカ」から警告音が鳴り、保留した電話機の保留ランプの点滅は速くなります。保留開始から警告音が鳴り出すまでの時間は、あらかじめ1分に設定されています。

4 転送のしかた

1 通話中の外線を内線に転送する

1.1 転送先に呼びかけて転送する（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。

▼操作手順

■ 転送元

保 留

1 通話相手に転送することを伝え［保留］キーを押す

- 受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- 保留した外線ランプは橙と緑で交互に点滅します。また、別の電話機の保留の外線ランプは緑の速い点滅をします。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 転送先に呼びかける

- たとえば、「田中さん、外線5番に池田さんから電話が入っています」と呼びかけます。

3 受話器を戻す

■ 転送先

1 呼びかけられた人は受話器を上げる

- 受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえます。

外線

2 点滅している［外線］キーを押す

- この場合は、呼ばれた田中さんは［外線5］キーを押します。
- 通話ができる状態に戻ります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

補 足

◇転送先が一定時間内に応答しない場合は、保留した電話機に保留警告音が鳴ります。この場合は、橙と緑で交互に点滅しているランプの［外線］キーを押すと、保留が解除され相手との電話に戻れます。

◇呼びかけられた人の電話機が、受話器をあげると自動的に外線をつかむ設定をしている場合、受話器をあげないで［外線］キーを押した後、受話器をあげます。

1.2 ダイヤルして転送する（ダイヤル転送）

転送先の内線番号をダイヤルして転送します。

▼操作手順

内線

1 通話相手に転送することを伝え［内線］キーを押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 転送先の内線番号をダイヤルする

3 転送先に用件を伝える

- たとえば、「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。

4 受話器を戻すと、転送される

- 転送元の外線ランプは赤点灯します。
- 転送先の外線ランプは緑点灯します。

補足

相手が内線の場合でも、他の内線に転送できます。

1.3 内線ワンタッチダイヤルキーで転送する（内線ワンタッチダイヤルキー転送）

▼操作手順

内線

1 通話相手に転送することを伝え［内線］キーを押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑点灯のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ

2 ［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押す

3 転送先に用件を伝える

- たとえば、「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。

4 受話器を戻すと、転送される

- 転送元の外線ランプは赤点灯します。
- 転送先の外線ランプは緑点灯します。

補足

◇フレキシブルキーに［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーを登録するには、P.44「フレキシブルキーに外線番号／内線番号を登録する」を参照してください。
◇オプション電話機の場合は、［ﾜﾝﾀｯﾁ］キーで操作します。
◇［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーの代わりに、［DSS］キーでも同じことができます。

第6章

電話機の便利な使い方

1. 夜間や留守番のときに便利な機能……88
1 昼／夜モードを切替えるには（夜間鳴動先指定／留守応答）……88
2 着信先を一定時間後別の内線に転送するには（応答遅延転送）……88
3 指定の外線着信に録音メッセージを送る（留守応答）……89
4 一般着信を1台の電話機で受ける（集中着信）……91
5 通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには（着信ウェイトメッセージ）……92

2. 席を離れるときには……93
1 外線着信を指定した相手に自動転送するには（外線自動転送）……93
2 外線着信を手動で別の外線に転送するには（外線手動転送）……102
3 不在のメッセージを送る（不在設定）……103
4 離席時に電話を転送する（不在転送）……104
5 外出先から転送電話の設定などを変更するには（PB保守）……107

3. その他の便利な機能……110
1 迷惑電話を拒否する（着信拒否）……110
2 ナンバー・リクエストサービスを利用する……112
3 ナンバー・ディスプレイサービスを利用する……113
4 受話器を上げずにかける（オンフックダイヤル）……114
5 相手の音声をスピーカで聞く（スピーカ受話）……114
6 Lモード（インターネット）を利用するには……115
7 i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用する……116
8 3人以上で通話する……117
9 便利な転送機能……119
10 ボイスワープを利用する……121
11 キャッチホンと表示されたときは……124
12 相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには（通話中着信）……125
13 [DSS]キーで電話をかける……126
14 プッシュホン信号を送る（PBエンド・ツー・エンド通信）……126
15 ポーズ信号を自動的に挿入する（オートポーズ）……127
16 指定外線から直接内線に着信させる（付加番号DID）……127
17 停電について……128
18 長電話を知らせる（長時間通話警告）……128
19 秘書機能について……129
20 主装置で設定する機能……130

1 夜間や留守番のときに便利な機能

1 昼／夜モードを切替えるには

（夜間鳴動先指定／留守応答）

留守番や夜間のとき、外線ごとに着信鳴動する電話機を指定できます。着信音は鳴らなくても外線ランプは点滅します。
かかってきた電話は、［応答］キーまたは、点滅している［外線］キーを押すことによって受けることができます。また、夜間や留守のとき指定の外線に着信があった場合、システム内蔵の留守応答装置につながり、録音メッセージを送ることができます。

＜夜間モードに切替えるには＞

▼操作手順

夜間切替

受話器を置いたまま操作します。

1 ［夜間切替］キーを押す
- 設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 夜間切替ランプは赤点灯します。

＜解除するには＞

夜間切替

受話器を置いたまま操作します。

1 ［夜間切替］キーを押す
- 解除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 夜間切替ランプは消灯します。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2 着信先を一定時間後別の内線に転送するには

（応答遅延転送）

夜間または昼間（昼食時）など、誰もいないときの着信を、別の内線に転送できます。
転送する条件は、一定時間応答がない場合に転送されます。
応答遅延指定は昼／夜間に分けることができます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

3 指定の外線着信に録音メッセージを送る

（留守応答）

夜間や留守のとき指定の外線に着信があった場合、システム内蔵の留守応答装置につながり録音メッセージを送ることができます。音声メール装置の不在代行、留守録音に使う応答メッセージ録音（P.156）とは機能が違いますので間違えないようにしてください。

＜応答メッセージを録音するには＞

応答メッセージの録音は、システム管理電話機で行います。メッセージは16秒間録音できます。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

6 は MNO

2 “６（応答ﾒｯｾｰｼﾞ管理）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 た GHI

3 “４（留守応答ﾒｯｾｰｼﾞ）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
留守応答ﾒｯｾｰｼﾞ
 1:再生<録音ﾅｼ>
 2:録音
 3:消去
```

4 受話器をあげる

2 か ABC

5 “２（録音）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 「ピー」と鳴り録音を開始します。

ご注意

◇この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
◇応答メッセージを録音する場合および、留守応答機能を利用する場合は、ハードオプションが必要のため、販売店にご相談ください。

補足

◇応答メッセージの録音と確認は、システム管理電話機で行います。
◇録音の確認方法は、操作手順1～3です。操作手順3でディスプレイの“１（再生）”の＜　＞内に、録音アリ／録音ナシが表示されます。
◇操作手順3のあと“１（再生）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーで再生されます。

参考

応答メッセージは、以下の機能についても対応しています。操作手順3の機能番号を変えれば、番号に応じたメッセージを録音できます。

機能番号	機能種別名	ディスプレイ表示	参照ページ
1	外線転送元メッセージ	外線転送元ﾒｯｾｰｼﾞ	P.93,104
2	外線転送先メッセージ	外線転送先ﾒｯｾｰｼﾞ	P.93,104
3	着信ウェイトメッセージ	着信ｳｪｲﾄﾒｯｾｰｼﾞ	P.92
4	留守応答メッセージ	留守応答ﾒｯｾｰｼﾞ	P.88
5	付加番号DIDガイダンス	DIDｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	P.127
6	選択転送メッセージ	選択転送ﾒｯｾｰｼﾞ	P.104

注：機能番号5の付加番号DIDガイダンスは、固定ガイダンスも用意しています。メッセージ録音をしないと固定ガイダンスが流れます。

6 受話器に向かってメッセージを話す

```
ﾒｯｾｰｼﾞ録音
>>>              /16s
 1:録音終了
 2:ｷｬﾝｾﾙ
```

- ディスプレイの表示“ ＞ ”は録音時間を表します。1つの“ ＞ ”で1秒です。
- 録音時間は16秒です。
- 録音時間の16秒以内に“ 1（終了）”をダイヤルすると、録音を終了しメッセージが再生されます。“ 2 ”をダイヤルすると、録音内容をキャンセルできます。
- 録音をやり直す場合は、操作手順5からはじめます。

1あ

7 “ 1 ”をダイヤルする

```
ﾒｯｾｰｼﾞ再生
>>>              /16s
 1:再生内容登録
 2:ｷｬﾝｾﾙ
```

- 録音が再生されます。
- ディスプレイの表示“ ＞ ”は再生時間を表します。1つの“ ＞ ”で1秒です。

1あ
または
2か ABC

8 再生内容を登録する場合は“ 1 ”を、キャンセルする場合は“ 2 ”ダイヤルする

9 受話器を戻す

4 一般着信を1台の電話機で受ける

（集中着信）

集中着信機能を持たせた電話機では、グループ分けに関係なくDIL、サブアドレス着信等個別着信を除いた外線着信を1台の電話機で受けることができます。また、集中着信中は受話器をあげるだけで応答できます。

＜集中着信にするには＞

▼操作手順

受話器を置いたまま操作します。

1 ［集中着信］キーを押す

- 登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 集中着信ランプは赤点灯します。

＜集中着信を解除するには＞

▼操作手順

受話器を置いたまま操作します。

1 ［集中着信］キーを押す

- 解除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- 集中着信ランプは、消灯します。

＜集中着信に応答するには＞

▼操作手順

1 外線着信音「ﾌﾟﾙﾙｰ」が鳴る

- かかってきた外線ランプは赤点滅します。

2 受話器をあげる

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは、緑点灯に変わります。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは、消灯します。

補足

◇集中着信登録の電話機は、常に集中着信ランプは赤点灯しています。

◇フレキシブルキーに［集中着信］キーを設定するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

5 通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには

（着信ウェイトメッセージ）

通話中に別の外線着信があった場合、通話中の電話機でその外線に一時待ってもらう旨のメッセージを送り、その後保留状態にできます。通話終了後に保留にした外線の電話にでることができます。

▼操作手順

通話中に外線着信があるとかかってきた外線ランプが赤点滅します。

着信ｳｪｲﾄ

1 [着信ｳｪｲﾄ] キーを押す

- 着信ウェイトランプは赤点灯します。

応答

または

外線

2 [応答] キーまたは、赤点滅している [外線] キーを押す

- かかってきた外線には、例えば「ＸＸ会社です。しばらくお待ち下さい。」などの録音メッセージを送り保留状態になります。
- 外線ランプは、緑と橙で交互に点滅します。

着信ｳｪｲﾄ

3 通話が終了したら、受話器を戻さずに [着信ｳｪｲﾄ] キーを押す

- 保留している相手と通話できる状態になります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。
- 着信ウェイトランプは消灯します。

4 通話が終了したら、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

補足

◇「話中着信音」ありに設定している場合は、通話中に外線着信音「ピー」と鳴ります。
◇フレキシブルキーに［着信ｳｪｲﾄ］キーを設定するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇着信メッセージはあらかじめ録音しておく必要があります。（P.89）
◇着信ウェイトランプが赤点灯している電話機では、次の外線着信には着信ウェイトはできません。
◇［着信ｳｪｲﾄ］キーで保留されている外線は、他の電話機から、その外線に応答することはできません。

メモ

せっかくかかってきた、お客様からの電話をのがさず、ビジネスのチャンスが広がります。

2 席を離れるときには

1 外線着信を指定した相手に自動転送するには

（外線自動転送）

転送される外線を登録しておくと、その外線の着信は、自動的に登録された相手先に転送できます。転送先が応答しないとき、登録の順番に転送先を変えて呼び出すことができます。（追いかけ転送）

1.1 外線自動転送を設定する

＜外線自動転送にするには＞

▼操作手順

外線転送xx

1 ［外線転送xx］キーを押す

- 追いかけ転送をする場合は、転送する優先順位順に［外線転送xx］キーを押します。最優先する外線転送xxランプは橙点灯、後続の外線転送xxランプは赤点灯します。

＜外線自動転送を解除するには＞

▼操作手順

外線転送xx

1 ［外線転送xx］キーを押す

- 外線転送xxランプは消灯します。

例1 転送先グループ1の転送先1に転送する時
受話器を置いた状態で［外線転送11］キーを押す

外線転送11
（橙点灯）

例2 転送先グループ1の転送先1と転送先2を［追いかけ転送］する時
受話器を置いた状態で［外線転送11］キーと［外線転送12］キーを順番に押す

外線転送11（橙点灯）　外線転送12（赤点灯）

例3 例2の［追いかけ転送］を［外線転送12］だけの転送に変更する時

外線転送11（橙点灯）　外線転送12（赤点灯）　変更　→　外線転送11（消灯）　外線転送12（橙点灯）

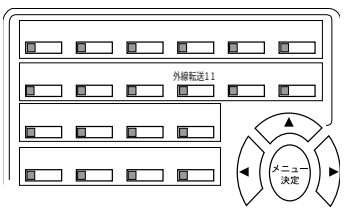
［外線転送11］キーを押すことにより［外線転送12］だけへの転送に変更できます。

ご注意

追いかけ転送のできる外線は、ISDN回線です。アナログ回線はできません。

補足

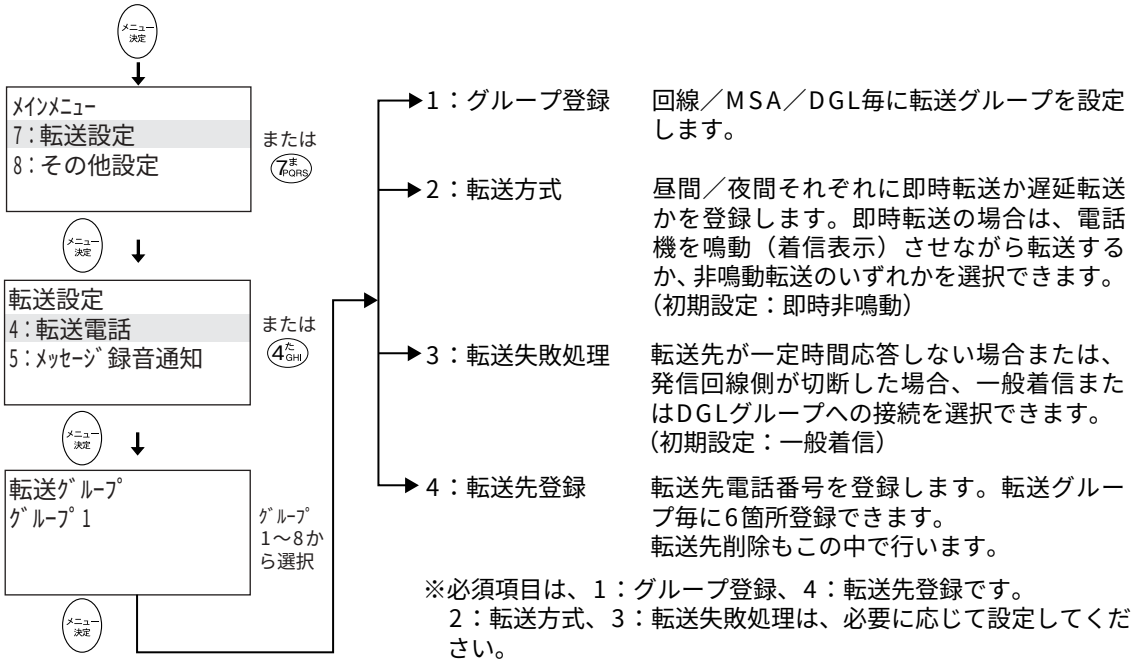
◇転送には、いろいろな転送があります。「転送に関する用語」（P.195）にまとめてありますのでご覧ください。
◇［外線転送11］キーは初期設定で割付けられています。



［外線転送xx］の「xx」は転送グループNo.＋転送先No.を表します。
◇フレキシブルキーに［外線転送xx］キーを登録するには、P. 99「フレキシブルキーに［外線転送xx］キーを登録する」を参照してください。
◇［外線転送xx］キーは複数作れます。追いかけ転送のとき使います。
◇転送先に発番号を通知するように設定した場合は、回線の契約者番号を通知します。
◇転送先に着番号（転送先からの着信を受けた回線の電話番号）を通知するように設定した場合は、着番号を通知します。
◇発番号、着番号を通知する場合には、販売店にご相談ください。

1.2 外線自動転送登録手順

外線自動転送を登録するには、下記の順番に行います。登録はグループ毎に行います。手順は、1～4へ順番に進み4で完了します。続けて登録する場合は、1～4の手順を繰り返します。



※必須項目は、1：グループ登録、4：転送先登録です。
2：転送方式、3：転送失敗処理は、必要に応じて設定してください。

1.3 外線自動転送の登録をする

＜転送電話設定に入る＞

▼操作手順

メニュー 決定 **1** ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7ま PQRS **2** “7（転送設定）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4た GHI **3** “4（転送電話）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 8や TUV **4** 転送グループ1～8を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 転送グループを設定後転送電話設定に入ります。

＜転送電話設定　1：グループ登録＞

▼操作手順

1あ

1 “１（グループ登録）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

外線
または
DGL
または
MSA

2 転送させる［外線］キー、［DGL］キーまたは［MSA］キーを押す
- 複数回線を同じグループ登録する場合は、操作手順2を繰り返します。
- 同じキーを続けて押すと「登録」／「解除」が交互に切り替わります。

メニュー 決定

3 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- ［転送電話設定］メニューに戻ります。

補足

◇転送グループの登録は、システムで同時に1台のみ可能です。
◇グループ毎の転送設定は転送グループ毎に同時に1台のみ可能です。

＜転送電話設定　4：転送先登録＞

▼操作手順

4た GHI

1 “４（転送先登録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 6は MNO

2 ［転送先n］を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- nは1～6まで選択できます。
- 転送先の登録がある時は、電話番号を表示します。

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ 0わ 記号 ＃

メニュー 決定

3 転送先の電話番号を入力し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 転送先の電話番号の入力方法
  - ①　転送先の電話番号をダイヤルする
  - ②　転送先の電話番号を登録した［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーまたは［短縮ﾜﾝﾀｯﾁ］キーを押す
  - ③　［短縮］キーを押し転送先の電話番号を登録した［短縮番号］を入力する
- 操作手順2に戻ります
- 転送先は転送グループ毎に6ヵ所登録できます。

補足

◇転送先には［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キー，短縮ダイヤルからコピーし登録することができますが，転送種別は外線に限ります。
◇すでに登録済みの転送先を変更する場合は，P.98〈転送先を変更するには〉の操作手順で行うか，操作手順3で電話番号の上書き入力となります。
◇転送先登録を行う時は、［保留］＋［外線転送xx］で操作手順2から操作できます。

続けて同じグループの転送先登録をする場合は、操作手順2から繰り返してください。
- 別の転送先グループの転送先を登録する場合は、［戻る/削除］キーを3回押して＜転送電話設定に入る＞の操作手順4から登録してください。
- 終了するときは［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押します。

戻る/削除

4 ［戻る/削除］キーを押します
- ［転送電話設定］メニューに戻ります。

＜転送電話設定　2：転送方式＞

▼操作手順

2 か ABC

1 “ 2（転送方式）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ または 2 か ABC

2 “ 1（昼間）” または “ 2（夜間）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ , 2 か ABC または 3 さ DEF

3 “ 1（即時転送＜非鳴動＞）”、“ 2（即時転送＜鳴動＞）”または“ 3（遅延転送）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- ［転送電話設定］メニューに戻ります。

補 足

◇この＜2：転送方式＞は初期設定：即時転送＜非鳴動＞を変更する場合のみ設定が必要です。
◇・即時転送＜非鳴動＞：電話機を鳴らさずに転送先に転送します。
・即時転送＜鳴動＞：電話機を鳴らしながら転送先へ転送します。電話機または転送先のどちらか応答の早い方へつながります。（転送中応答）
・遅延転送：電話機を一定時間鳴動させ応答がなければ転送先へ転送します。
◇転送動作設定で遅延転送を選択する場合、初期設定は20秒です。初期設定を変更する場合は、販売店にご相談ください。

＜転送電話設定　3：転送失敗処理＞

▼操作手順

3さ DEF

1 “ 3（転送失敗処理）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ
または
2か ABC

2 “ 1（一般着信）” または “ 2（DGL着信）”を選ぶ
- 「一般着信」を選んだときは、操作手順4にいきます。

戻る／削除

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ 0わ 記号 ＃

3 ［戻る/削除］キーを押した後、DGLグループ番号をダイヤルする
- 初期設定でDGLグループ00が入っています。DGLグループを変更する場合は、［戻る/削除］キーを押した後DGLグループをダイヤルし、変更しない場合は、操作手順4に行きます。

メニュー 決定

4 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- ［転送電話設定］メニューに戻ります。

補足

転送失敗処理の初期設定は、一般着信です。初期設定を変更する場合のみ設定します。

＜転送電話設定：転送先を削除する＞

▼操作手順

4た GHI

1 “ 4（転送先登録）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 6は MNO

2 削除する［転送先n］を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 削除する［転送先n］の電話番号を表示しますが［ﾒﾆｭｰ/決定］キー押すと電話番号表示は消えます。この段階では、まだ電話番号は削除されていません。

メニュー 決定

3 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- ［ﾒﾆｭｰ/決定］キー押下で電話番号が削除されます。
- 繰り返し削除を行うときは、操作手順2から繰り返してください。

スピーカ

4 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

転送先の削除を行うときは、［保留］＋［外線転送xx］で操作手順2から操作できます。

＜転送先を変更するには＞

▼操作手順

保 留

1 ［保留］キーを押す

外線転送xx

2 ［外線転送xx］キーを押す

メニュー 決定

3 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 転送先の電話番号を変更し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 転送先の電話番号を変更する方法
  ①転送先の電話番号をダイヤルする
  ②転送先の電話番号を登録した［ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙ］キーまたは［短縮ﾜﾝﾀｯﾁ］キーを押す
  ③[短縮]キーで［短縮番号検索］を選び転送先の電話番号を登録した［短縮番号］を入力する

メニュー 決定

スピーカ

5 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補 足

転送先の変更は、＜転送電話設定　4：転送先登録＞（P.95）の操作手順3で電話番号を上書き入力することでもできます。

1.4 フレキシブルキーに［外線転送xx］キーを登録する

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 な JKL

2 “５（ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙｷｰ設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ

3 “１（ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F--:--
```

4 機能を登録する［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーを押す

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F13:--
    未登録
```

- 例えば、上段の1番左側のキーを押した場合です。

0 わ をん 記号　9 ら WXYZ

5 “０〜９”をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
ﾌｧﾝｸｼｮﾝ割付
F13:09
ｸﾞﾙｰﾌﾟ/転送先:--
```

1 あ　2 か ABC　3 さ DEF
4 た GHI　5 な JKL　6 は MNO
7 ま PQRS　8 や TUV　9 ら WXYZ
＊ ゛゜　0 わ をん 記号　＃

メニュー 決定

6 転送グループ番号、転送先番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 例えば、転送グループ1の転送先番号3であれば、13とダイヤルします。
- 続けて登録する場合は、操作手順3に戻ります。

スピーカ

7 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

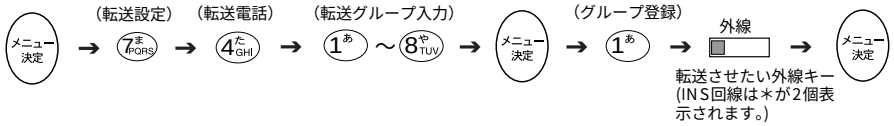
補足

［外線転送］の付加情報は、「転送先グループNo」と「転送先No」の2桁で表記されます。
転送グループ1なら、
［外線転送11］〜［外線転送16］6ヵ所が使用できます。
転送グループ8なら
［外線転送81］〜［外線転送86］の6ヵ所となります。

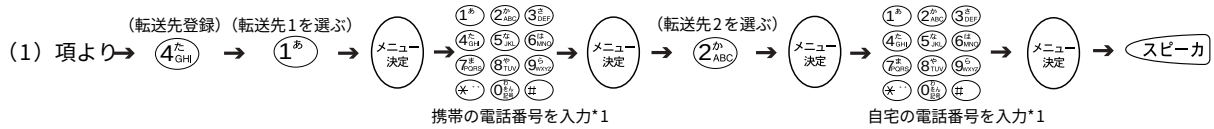
＜転送設定例1＞

INS 1本　転送2ヵ所　曜日により切替にて使用する場合

（1）転送させる回線を選択する

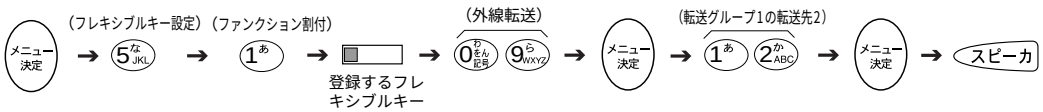


（2）転送先を登録する　（転送先1に携帯の番号を転送先2に自宅の電話番号を登録します）



＊1：ダイヤルする以外にも以下の方法で簡単にダイヤルがコピーできます。
・転送先外線の登録してある［ワンタッチダイヤル］キーを押す
・［短縮］キー → 短縮番号を押す

（3）フレキシブルキーに［外線転送12］キーを登録する　（［外線転送11］キーは初期設定を使う）



（4）転送を開始する

①携帯電話への転送を開始する（この後の着信から自動転送されます）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送11 （ランプは橙点灯します）

②携帯への転送を終了する（この着信から自動転送はされません）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送11 （ランプは消灯します）

③自宅への転送を開始する（この後の着信から自動転送されます）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送12 （ランプは橙点灯します）

（5）便利な使い方　電話機に着信させながら外線へも転送したい方
（昼間は転送先と電話機で応答の早いほうが着信をとりたい）
＊2：電話機で着信に応答しない時に転送したい場合は 3さDEF 遅延転送を選択したください。

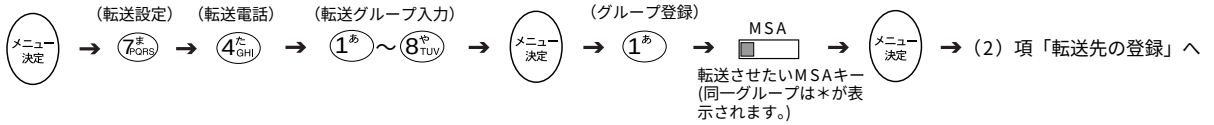
＜転送設定例2＞

INS 1本　MSA設定　MSAのみ追いかけ転送2カ所

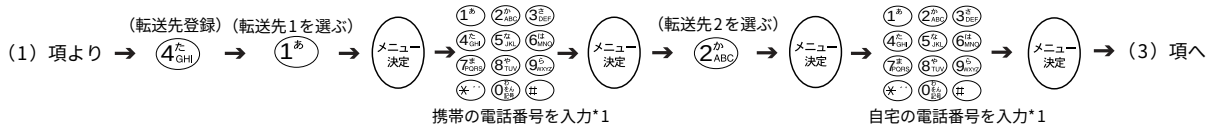
ご注意

［MSA］キーを作るのに設定が必要となります。また着信形式をDILのDGLに変更するにも設定が必要になります。詳しくは、販売店にご相談ください。

（1）転送させるMSAグループを選択する

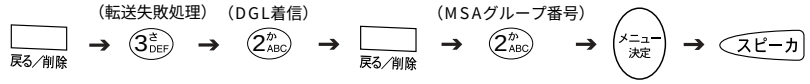


（2）転送先を登録する（転送先1に携帯の番号を、転送先2に自宅の電話番号を登録します）

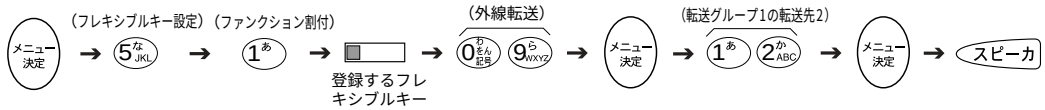


＊1：ダイヤルする以外にも以下の方法で簡単にダイヤルがコピーできます。
- 転送先外線の登録してある［ワンタッチダイヤル］キーを押す
- ［短縮］キー → 短縮番号を押す

（3）転送できなかった時の着信電話機を指定する（転送できなかった場合、MSAグループ2へ着信させます）



（4）フレキシブルキーに［外線転送12］キーを登録する（［外線転送11］キーは初期設定を使う）



（5）転送を開始する

①自宅に転送して応答しなければ携帯電話へ転送する（この後の着信から自動転送されます）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送12 □（ランプは橙点灯します）→ 外線転送11 □（ランプは赤点灯します）

※橙に点灯している転送先から転送されます。

②自宅への転送を停止する（この後の着信から転送先は携帯電話のみになります）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送12 □（外線転送12ランプは消灯し、外線転送11ランプは橙点灯します）

③転送を停止する（この後の着信から自動転送はされません）

（受話器を置いた状態で）→ 外線転送11 □（ランプは消灯します）

※全ての転送先のランプが消灯になると自動転送は停止です。

（6）便利な使い方

ダイヤルインやiナンバーでMSAグループを分けている場合、着信したMSAグループを知るために、着信したダイヤルイン番号やポート番号を転送先に通知することができます。

2 外線着信を手動で別の外線に転送するには

（外線手動転送）

通話中に空いている外線を使って他の外線に転送することができます。

▼操作手順

内線

1 外線通話中に外線転送することを伝え［内線］キーを押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑のままです。
- 相手には、保留音（メロディ）を送ります。

外線

2 空いている［外線］キーを押す

または

ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ

3 転送先の電話番号またはシステム短縮番号をダイヤルするか［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーを押す

4 転送先と通話する

外線転送xx

5 転送先に転送することを伝え［外線転送xx］キーを押す

- ［外線転送xx］キーが複数ある場合は、どの［外線転送xx］キーを押しても操作できます。
- 転送元と転送先が通話状態となります。
- 使用中の外線ランプは赤点灯となります。

6 受話器を戻す

補足

◇転送には、いろいろな転送があります。「転送に関する用語」（P.195）にまとめてありますのでご覧ください。

◇「便利な転送機能」の中にチェンジオーバー機能（P.119）がありますが、操作手順4までは全く同じです。
操作手順5で［内線］キーを押すとチェンジオーバーします。

◇フレキシブルキーに［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］キーを登録するには、P.44「フレキシブルキーに外線番号/内線番号を登録する」を参照してください。

◇フレキシブルキーに［外線転送××］キーを登録するには、P.99「フレキシブルキーに［外線転送xx］キーを登録する」を参照してください。

3 不在のメッセージを送る

（不在設定）

不在設定しておくと内線からの電話には、不在メッセージを相手の電話機に表示させることができます。

＜メッセージを選ぶには＞

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7ま PQRS

2 “７（転送設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

3 “３（不在設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 3さ DEF

4 不在設定（理由）を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- １：不在
- ２：外出
- ３：会議
- 登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。

スピーカ

5 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

＜不在設定にする＞

▼操作手順

不在設定

1 ［不在設定］キーを押す

- 不在設定ランプが赤点灯します。

＜不在設定を解除する＞

▼操作手順

不在設定

1 ［不在設定］キーを押す

- 不在設定ランプは消灯します。

参考

［不在設定］をした内線にかけると発信者の電話機にメッセージが表示されます。

補 足

◇不在転送と不在設定が同時に設定されている電話機では、不在転送が優先されます。
◇不在メッセージの内容は、お客様で好みのメッセージに変更することができます。販売店にご相談ください。

補 足

フレキシブルキーに［不在設定］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割付ける」を参照してください。

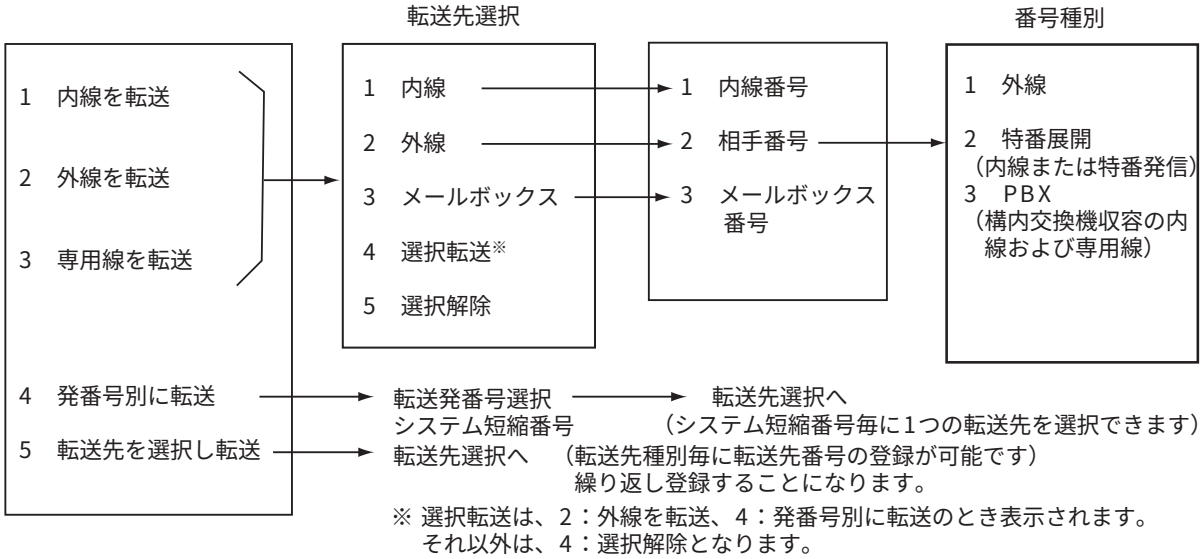
4 離席時に電話を転送する

（不在転送）

不在転送とは、個別着信時の転送機能です。
離席時に転送先の電話番号を登録すると、その後の着信は登録されている電話番号へ自動的に転送されます。

＜不在転送先登録の手順＞

★なにを転送しますか　→　★どこへ転送しますか　→　★相手先番号を決めましょう



＜不在転送先を登録する＞

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7ま PQRS

2 “ 7（転送設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 2か ABC

3 “ 1（不在転送）” または “ 2（不在転送一括）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 「不在転送一括」を選んだ場合、次の操作手順5に進みます。

補 足

◇転送には、いろいろな転送があります。「転送に関する用語」（P.195）にまとめてありますのでご覧ください。
◇フレキシブルキーに［不在転送］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇転送する種別（内線・外線等）を選ばず、全てを転送するには、操作手順3で「不在転送一括」を選んでください。
◇転送先の変更は、登録操作の中で上書きしてください。
◇転送先に転送した回線の発番号を通知することができます。
（初期設定：発番号通知あり）

ご注意

操作手順3で「不在転送一括」を選んだ場合または、すでに不在転送が設定してある場合に設定内容を確認したいときは、「不在転送」を選んでください。

4 何を転送するかを選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 5な JKL

1：内線転送　　4：発番号別転送
2：外線転送　　5：選択転送先
3：専用線転送

- 発番号別転送は操作手順8に進みます。
- 選択転送先を選んだ場合は、操作手順5で選択転送先を選んでください。（この場合は、選択転送の表示はありません）

補足

選択転送を設定する場合は、販売店にご相談ください。

5 転送先を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 5な JKL

1：内線　　4：選択転送
2：外線　　5：転送解除
3：メールボックス

6 登録する番号をダイヤルする

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ 0わ 記号 ＃

- メールボックスの場合は、メールボックス番号をダイヤルします。
- 「内線」「メールボックス」の場合は、操作手順9に進みます。

7 番号種別を選ぶ

1あ ～ 3さ DEF

1：外線
2：特番展開（内線）
3：PBX（構内交換機の内線および専用線）

- 操作手順9に進みます。

8 システム短縮ダイヤルNoをダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ 0わ 記号 ＃

メニュー 決定

```
転送発番号選択
短縮No:000
          0123456789
鈴木一郎
```

- △▽キーで検索することもできます。
- 操作手順5に戻ります。

9 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー 決定

10 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

スピーカ

＜不在転送先を解除する＞

▼操作手順

メニュー 決定　**1** ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7ま PQRS　**2** “ 7（転送設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ　**3** “ 1（不在転送）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 5な JKL　**4** 不在転送元（1～5）を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5な JKL　**5** “ 5（転送解除）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 内線転送、専用線転送、選択転送のときは“ 4（転送解除）”となります。

スピーカ　**6** ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

不在転送一括で登録した場合は、操作手順3で“ 2（不在転送一括 ”を選んでください。
その場合は、操作手順5にいきます。

＜不在転送／選択転送を有効とする＞

▼操作手順

不在転送　**1** ［不在転送］キーを押す

メニュー 決定　**2** ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 不在転送ランプは赤点灯します。

スピーカ　**3** ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

選択転送モードに登録すると、以前の不在転送の内容は、選択転送の内容に切替わります。（どちらかのモードでのみ働きます。）

＜不在転送を解除する＞

▼操作手順

不在転送　**1** ［不在転送］キーを押す

- 不在転送ランプは消灯します。

5 外出先から転送電話の設定などを変更するには

（PB保守）

外出先から転送電話などの設定を変更することができます。この機能を使うには、販売店にご相談ください。また、この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号を送ることができるものを使用してください。

▼操作手順

1 外出先から会社に電話をかける

- 付加番号DID/アナログダイヤルイン/留守PBでかけた場合は、操作手順2へ、着サブアドレスでかけた場合は、操作手順4へいきます。
- 着サブアドレスは、初期設定で“９２１２３４”となっています。

2 PB保守特番“９２”をダイヤルする

9 2

3 暗証番号“１，２，３，４”をダイヤルする

1 2
3 4

- 受話器から「ピー」という音が聞こえます。
- 暗証番号の初期設定は“１，２，３，４”です。変更している場合は、販売店にお聞きください。

1 2 3
4 5 6
7 8 9
* 0 #

4 自分の内線番号をダイヤルする

5 モード番号をダイヤルする

0
1
2
3
4
5
7
8
*

- モード番号は次のとおりです。

録音通知モードの変更	→0
転送電話の設定／解除	→1
転送電話の転送先変更	→2
PS圏外転送の設定／解除	→3
不在転送の設定／解除	→4
不在転送の転送先変更	→5
昼／夜設定	→7
転送電話の転送先短縮変更	→8
日付／時間の変更	→*

ご注意

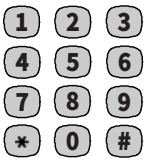
◇1：転送電話の設定／解除を行うには、あらかじめ［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに［外線転送］キーの設定が必要です。

◇7：昼／夜設定を行うには、あらかじめ［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに［夜間切替］キーの設定が必要です。

◇［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに［外線転送］キーまたは［夜間切替］キーを登録するにはP.４０「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

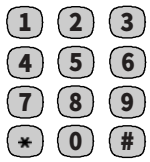
ダイヤル番号が

- 0 ：次に操作手順9，メールボックス番号を指定しないときは、操作手順11となります。
- 1 2 8 ：次に操作手順6となります。
- 3 4 ：次に操作手順11となります。
- 5 ：次に操作手順13となります。
- 7 ：次に操作手順10となります。
- ＊ ：次に操作手順15となります。



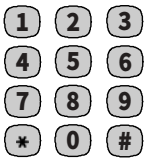
6 転送グループ番号をダイヤルする

- 転送電話の解除のときは、次に操作手順11となります。



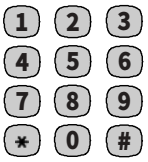
7 ［転送先］番号をダイヤルする

- 追いかけ転送の場合は、［転送先］番号を転送の優先の順番に連続してダイヤルします。
- 転送電話の転送先変更のときは、次に操作手順11となります。
- 転送電話の転送先短縮変更のときは、次に操作手順12となります。



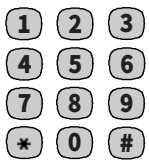
8 転送先電話番号をダイヤルする

- 次は、操作手順11となります。

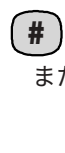


9 内線メールボックス番号／共通メールボックス番号をダイヤルする

- 次は、操作手順11となります。

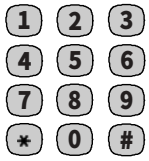


10 夜間グループ番号をダイヤルする



11 モード変更の設定／解除をする

- 設定のときは、“ ＃ ”をダイヤルします。
- 解除のときは、“ ＊ ”をダイヤルします。
- 続けて別の設定を操作するときは、操作手順5に戻ります。終了するときは、操作手順16となります。



12 システム短縮番号をダイヤルする

- 次は、別の操作をする場合は、操作手順5へ、終了する場合は、操作手順16へいきます。

1 ～ 4 **13** 転送元種別をダイヤルする

1：内線　　3：専用線
2：外線　　4：一括

0 または 2 **14** 番号種別をダイヤルする

0：外線　　2：PBX

- 次に操作手順8となります。

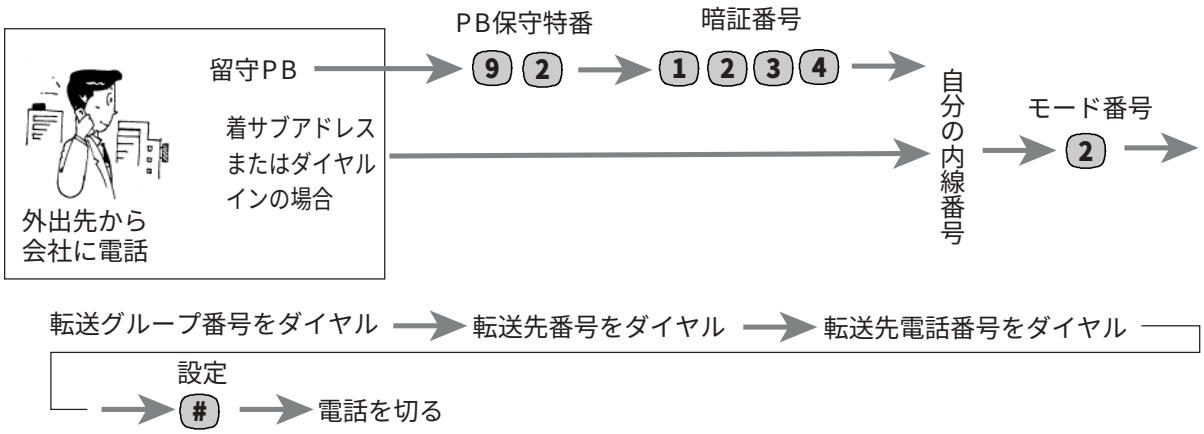
1 または 2 **15** 日付変更のとき“１”を、時間変更のとき“２”をダイヤルする

- 日付変更“１”をダイヤルしたとき
  例　2003年10月20日（月）
  「03102001」とダイヤルします。
  曜日
  00：日曜日　04：木曜日
  01：月曜日　05：金曜日
  02：火曜日　06：土曜日
  03：水曜日
- 時間変更“２”をダイヤルしたとき
  例　午後4時30分
  「1630」とダイヤルします。
- 次に操作手順11となります。

9 **16** “９”をダイヤルする

17 受話器を戻す

＜外出先から転送電話の設定例：転送先を変更する＞



3 その他の便利な機能

1 迷惑電話を拒否する

（着信拒否）

非通知やあらかじめ登録しておいた電話番号から電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。電話をかけてきた方には、「おとりつぎできない」旨ガイダンスを流すこともできます。非通知の場合は、ナンバーディスプレイ契約が必要です。詳しくは、販売店にご相談ください。

＜個別着信中に着信拒否登録する＞

▼操作手順

着信拒否

1 ［着信拒否］キーを押す

＜外線通話中に着信拒否登録する＞

▼操作手順

着信拒否

1 ［着信拒否］キーを押す

＜着信記録から登録する＞

▼操作手順

1 ▷キーを押す
- 着信記録が表示されます。

2 △▽キーで着信拒否をする着信記録を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー 決定

3 “４（着信拒否ｺﾋﾟｰ）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 た GHI

4 “２（ｴﾘｱ番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2 か ABC

5 △▽キーで空エリア番号を検索し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 登録ができた場合は、「ピー」と鳴ります。

メニュー 決定

6 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

スピーカ

補 足

◇フレキシブルキーに［着信拒否］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇個別着信中から着信拒否登録をしたときは、次の着信から着信拒否します。
◇ガイダンスは2種類あります。
・ガイダンス１：『申し訳ございませんがお繋ぎできません。おそれいりますが、電話番号の前に１８６をつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直しください。』
・ガイダンス２：『申し訳ございませんがお繋ぎできません。』

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補 足

操作手順1のかわりに
1．［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
2．△▽キーで“２（履歴表示）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
3．△▽キーで“２（着信記録）”を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
と操作してもできます。

補 足

◇非通知の電話の着信拒否は、システムのデータ設定が必要です。販売店にご相談ください。
◇登録できる電話番号は、システムで５０件、最大桁数は２０桁です。
◇ISDN回線の場合は、応答前に着信拒否しますが、アナログ回線は、モデムダイヤルイン以外は、自動応答後に切断します。
◇着信拒否する電話番号は、市外局番から登録してください。

＜着信拒否したい電話番号を登録する＞

▼操作手順

着信拒否

1 ［着信拒否］キーを押す

1あ

2 “ 1（相手番号）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ 2か 3さ 4た 5な 6は 7ま 8や 9ら ＊ 0わ ＃

3 相手番号をダイヤルし［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2か

4 “ 2（ｴﾘｱ番号）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

△▽

メニュー 決定

5 △▽キーで空エリア番号を検索し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

補足

操作手順1のかわりに
1．［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
2．△▽キーで“ 3（番号登録）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
3．△▽キーで “ 3（着信拒否登録）” を選び［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
と操作してもできます。

＜着信拒否登録の変更または削除＞

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

2 “ 1（番号検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4た

3 “ 4（着信拒否検索）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

△▽

メニュー 決定

4 △▽キーで登録を変更または削除する電話番号を検索し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 2か

5 “ 1（内容変更）”または“ 2（登録削除）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 登録削除を選んだときは、「ピー」と鳴り登録は削除されます。
- 続けて内容変更または登録削除するときは、次に操作手順4となります。終了するときは、操作手順10となります。

1あ

6 “１（相手番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

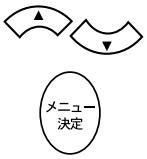
1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ﾞﾟ 0わ を ん 記号 ＃

7 電話番号を修正入力し、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 修正箇所まで　キーでカーソルを移動させ、［戻る/削除］キーで削除し、再入力します。

2か ABC

8 “２（ｴﾘｱ番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す



9 修正前の「エリア番号」または空エリア番号を選択し［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ

10 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

2 ナンバー・リクエストサービスを利用する

INSナンバー・リクエスト/ナンバー・リクエスト（アナログ回線）サービスとは、電話番号を通知しないでかけてきた相手に、電話番号を通知してかけ直すよう音声メッセージで応答するNTT（東／西）のサービスです。

＜利用を開始／停止する＞

▼操作手順

外線

1 契約している［外線］キーを押す

1あ 4た GHI 8や TUV

2 “１”“４”“８”をダイヤルする

『現在INSナンバー・リクエストが「停止/開始」しています。（アナログ回線の場合：現在このサービスは「停止/開始」しています。）サービスの停止は数字の“０”、サービスの開始は数字の“１”を押してください。』

補足

◇ナンバー・リクエストの契約にはナンバー・ディスプレイまたはナンバー・アナウンス（アナログ回線）の契約も合わせて必要です。

◇ナンバー・リクエストの音声メッセージの内容
『こちらは○○○△△△□□□□です。おそれいりますが、電話番号の前に、１８６をつけてダイヤルするなど、あなたの電話番号を通知しておかけ直しください。』

0（わ・ん・記号）
または
1（あ）

3 “ 0 ”または“ 1 ”をダイヤルする
0の時：『サービスを停止いたしました。』
1の時：『サービスを開始します。』

スピーカ

4 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

3 ナンバーディスプレイサービスを利用する

3.1 発番号対応着信

受信発番号ごとに着信形式を設定することで、着信先（昼／夜）を選択できます。

着信形式　① 一般
② 付加番号DID
③ DIL
④ 遠隔PB保守

登　録　システム短縮番号の登録が自動的に反映されます。
電話番号の登録は、市外局番から登録してください。

3.2 発番号別着信音選択

受信発番号ごとに着信音を選択することができます。

着信音　5種類の中から選択できます。

登　録　システム短縮番号の登録が自動的に反映されます。

3.3 ネームディスプレイ情報を表示する

アナログ回線、ISDN回線からのネームディスプレイで通知される情報を着信先の電話機に表示します。

〔着信中の表示イメージ〕

```
                外線01
10/20 Mon  am10:10
          0123456789
<株>鈴木商事営業一部
```

補 足

◇表示指定は、電話機ごとに設定可能です。詳しくは販売店にご相談ください。
◇短縮名称登録がある場合は、受信したネームディスプレイ情報は表示されません。
◇ネームディスプレイ情報に表示が不可能なコードが含まれる場合（第3/4水準の漢字は表示できません）　“※”にてコードを置換して表示します。

4 受話器を上げずにかける

（オンフックダイヤル）

受話器をあげずに外線、内線にダイヤルできます。相手が応答したら、受話器をあげて通話できます。

▼操作手順

1 ［外線］または［内線］キーを押す

- 外線にかける場合、［発信］キーまたは、外線ランプが消えている［外線］キーを押します。
- 内線にかける場合、［内線］キーを押します。

2 外線または内線の電話番号をダイヤルする

- ［短縮］キーを押した場合は、システム短縮番号をダイヤルします。

3 相手の応答する声が「ｽﾋﾟｰｶ」から聞こえたら、受話器をあげて通話する

補足

オフフック外線自動捕捉の場合は、操作手順1で［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押しても外線にかけられます。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

5 相手の音声をスピーカで聞く

（スピーカ受話）

受話器で通話中に、相手の声を「スピーカ」から聞くように切替えられます。

▼操作手順

1 通話中に［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

- スピーカ受話に切替わります。
- こちらの音声は、相手には聞こえなくなります。

2 受話器を戻す

- 受話器をあげるとスピーカ受話は解除され、通常の受話器による通話に戻ります。

補足

スピーカ受話中は ▼ ▲ キーでスピーカの音量が調節できます。

6 Lモード(インターネット)を利用するには

＜Lモード端末収容＞

市販のLモード対応の電話機を収容できます。Lモード対応の電話機を収容する場合は、販売店にご相談ください。

＜Lモード対応電話機の操作方法＞

▼外線発信手順

1 受話器をあげる

2 相手の電話番号をダイヤルする

3 相手が応答すると通話ができる

4 通話が終了したら受話器を戻す

▼内線発信手順

1 受話器をあげる

2 3秒以内にフッキングする

3 相手の電話番号ダイヤルする

4 相手が応答すると通話ができる

5 通話が終了したら受話器を戻す

補 足

◇この機能を使えるのはISDN回線を収容している場合のみです。
◇Lモードのサービスを受けるためには、Lモードサービスの契約が必要です。
◇Lモード対応の電話機を収容する場合は、オフフック外線自動捕捉の設定が必要です。

＜メッセージ到着のお知らせ＞

メールまたはメッセージの到着を多機能電話機で知ることができます。フレキシブルキーに、それぞれの契約番号に対応した［ｾﾝﾀｰﾒｰﾙ］キーを割り付けておく必要があります。

- マジックボックス
- Lモードサービス

(メッセージありの場合)
センターメールランプが赤点灯します。

（メッセージの確認）
［ｾﾝﾀｰﾒｰﾙ］キーを押すことにより確認できます。

センター番号1にメッセージあり

```
0123456789
ｾﾝﾀｰ:1
```

センター番号1，2にメッセージあり

```
0123456789
ｾﾝﾀｰ:12
```

全センターメッセージなし

```
0123456789
ﾒｯｾｰｼﾞﾅｼ
```

補足

◇［マジックボックス］［Lモードサービス］を受けるためには、それぞれのサービスの契約が必要です。
◇対応サービスは、次のように割り付けます。
・マジックボックス　センター1
・Lモードサービス　センター2

7　i・ナンバー機能、ダイヤルイン機能を利用する

この機能を利用するときには、NTTとのi・ナンバー契約またはダイヤルイン契約が必要です。この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

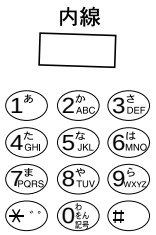
8 3人以上で通話する

電話機は通常1対1の通話で、他人が聞くことができない秘話になっています。
この秘話を解除することで3人以上で通話する会議通話、割込み通話ができます。

8.1 会議通話をする（会議通話）

外線または内線と通話中に電話をかけ、もう一人通話に加え会議通話ができます。会議通話は二人まで加えて4者による通話までできます。

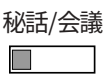
▼操作手順



1 通話相手に会議通話をはじめることを伝え、［内線］キーを押す

2 外線または、内線にダイヤルする

3 相手の応答に、会議通話に加わるよう伝える
- たとえば、「今○○の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。



4 了解を得てから［秘話/会議］キーを押す
- LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。
- 秘話/会議ランプは赤点灯します。
- 3者で会議通話ができます。

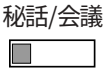
補足

◇フレキシブルキーに［秘話／会議］キーを登録するにはP.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇あらためてダイヤルして、4者による会議通話ができます。
◇外線2者と会議通話中に［外線転送xx］キーを押すことにより外線手動転送となります。

8.2 通話に3人目を加える（秘話解除）

外線との通話中に秘話を解除し、もう一人通話に加えて3者による通話ができます。

▼操作手順



1 通話にもう一人加えることを伝え［秘話/会議］キーを押す
- LCDディスプレイの2段目に、『会議通話』と表示されます。
- 秘話は解除されます。

2 通話に加わる人に口頭で呼びかける
- たとえば、「山川さん外線1番の通話に加わってください。」と呼びかけます。

補足

◇もう一人加えて、4者による通話ができます。
◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、呼びかけられた人は［外線］キーを押してから受話器をあげて通話します。

3 呼びかけられた人は受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線

4 通話中の［外線］キーを押す
- 3者での通話ができます。

8.3 通話中の外線に割込む（外線割込み通話）

通話中の外線に割込んで、通話に加わることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

割込

2 ［割込］キーを押す
- 割込みランプは赤点滅します。
- LCDディスプレイの2段目には「ワリコミサキ：」と表示されます。

3 通話中の［外線］キーを押す
- LCDディスプレイの2段目に、『割込通話』と表示されます。
- 通話中の内線電話機には、割込み音「ピー」が送られます。
- 割込みができ、3者通話ができます。

外線

補 足

◇フレキシブルキーに［割込］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、［内線］キーを押してから受話器をあげて通話します。

ご注意

割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

8.4 通話中の内線に割込む（内線割込み通話）

通話中の内線に割込んで、通話に加わることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする
- 受話器から「ツーッツーッ」と話中音が聞こえます。

割込

3 ［割込］キーを押す
- LCDディスプレイの2段目には、『割込通話』と表示されます。
- ダイヤルした内線番号の電話機には、割込み音「ピー」を送ります。
- 割込みができ、3者通話ができます。

補 足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、［内線］キーを押してから受話器をあげて通話します。

ご注意

割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

9 便利な転送機能

9.1 発信元と転送先を交互に通話する（チェンジオーバー）

転送者は発信元と（電話をかけてきた人と）、転送先の人と交互に通話することができます。また、かかってきた2本目の外線と交互に通話することができます。

▼操作手順

内線

1 通話相手に保留することを伝え［内線］キーを押す

- 受話器は「ツツツツ」の発信音に変わります。
- 内線ランプは赤点滅します。
- 外線ランプは緑のままです。
- 保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

外線

2 空いている［外線］キーを押す

3 転送先の電話番号をダイヤルする

4 転送先と通話する

内線

5 転送先に保留することを伝え［内線］キーを押す

- 転送先の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

6 電話をかけてきた人との通話に戻れる

- ［内線］キーを押すことで、通話相手を交互に変えることができます。

補足

◇かかってきた2本目の外線と交互に話すには、操作手順2で次にかかってきた2本目の［外線］キーを押し、通話します。チェンジオーバーするには、操作手順5にいきます。
◇転送先が内線の場合、操作1の次に3で内線番号をダイヤルします。
◇チェンジオーバー中に［外線転送xx］キーを押すと手動転送となります。（P.102）
◇転送者が［秘話/会議］キーを押すと、発信元と転送先との3者会議通話ができます。（P.117）

9.2 外線発信の依頼を受けたとき（外線依頼発信）

内線と通話中に外線に発信して、つながった外線を内線に転送できます。

▼操作手順

内線

1 外線発信の依頼を受けたときは、「受話器を戻さずにお待ちください」と伝え［内線］キーを押す

- 受話器は「ツツツツ」発信音に変わります。
- 発信依頼者には保留音（メロディ）を送ります。

外線

2 外線ランプが消えている、［外線］キーを押す

- 外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。

3 依頼された電話番号をダイヤルする

4 相手に用件を伝える

- たとえば「田中さんからの電話です。今おつなぎします。」と伝えます。

内線

5 ［内線］キーを押す

- 発信依頼者に、たとえば「中村さんとつながりました。」と伝えます。
- 相手には保留音（メロディ）を送ります。

6 受話器を戻す

- 発信依頼者と田中さんの電話はつながります。

メモ

応接室や倉庫など「外線発信」できない電話機および自分の席に戻らないと外線番号がわからないなどのとき便利です。

10 ボイスワープを利用する

NTTとサービス契約している外線を押すだけで、ボイスワープのサービスを受けられます。なお、不在転送、代表スライドの機能を使っている場合は、＜ボイスワープの運用を優先する＞操作（P. 123）をしてください。
ボイスワープ運用を優先するとは、不在転送、代表スライドを設定していてもボイスワープを優先する機能です。不在転送、代表スライドを設定していない場合は、この操作は必要ありません。
※転送先の登録／転送先リスト指定／転送サービスの開始／停止を行うときは、PB信号ランプの消灯を確認してください。

＜ボイスワープのサービスを受けるための操作手順＞

この操作手順は、本システムを使ってNTTのサービスであるボイスワープのサービスを受けるための操作手順です。ご利用の際は、NTTの「ボイスワープ使用説明書」を併せてお読みください。

※［外線］：サービスを契約している外線を押します。
操作手順ごとに「ガイダンス」が流れます。

項目		操作手順
転送先番号登録	転送先リスト0への登録	外線 → （サービス番号）1 4 2 2 → （転送先電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → スピーカ
	転送先リスト1～4への登録	外線 → （サービス番号）1 4 2 4 → 0 → （リスト番号）1～4 → （転送先電話番号）1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 # → 9 → スピーカ
転送先リストの指定 （登録されているリストから実際に転送される相手を1つ指定します。）		外線 → （サービス番号）1 4 2 4 → 1 → （リスト番号）0～4 → 9 → スピーカ ※転送先リストを指定しない場合はリスト0が転送先となります。
転送サービスの開始のしかた （転送先電話番号の登録および転送先リストの指定を行った上で、ボイスワープの開始を行ってください。）		外線 → （サービス番号）1 4 2 1 → （転送方法番号）※ 1～4 → スピーカ ※アナログ回線でご契約の場合は、転送方法番号入力は必要ありません。 転送方法番号 1：無条件転送 2：無応答時転送 3：話中時転送 4：無応答および話中時転送
転送サービスの停止のしかた		外線 → （サービス番号）1 4 2 0 → スピーカ

項　目	操　作　手　順
無応答時転送の起動時間の設定 （無応答時転送を指定した場合に転送元が何秒後応答しなかった時点で転送を行うかを指定します。）	外線 → （サービス番号）1 4 2 3 → （転送時間番号）※ 0 ～ 1 1 → スピーカ 転送時間番号 0：5秒　1：10秒　2：15秒　3：20秒 4：25秒　5：30秒　6：35秒　7：40秒 8：45秒　9：50秒　1 0：55秒　1 1：60秒 ※アナログ回線でご契約の場合は、「呼び出し回数」0～9となります。転送元の電話を呼び出さずに転送先に転送します。
転送通知用トーキの設定のしかた	外線 → （サービス番号）1 4 2 4 → 2 → （トーキ番号）※ 0 ～ 3 → スピーカ トーキ番号 0：アナウンスなし 1：「ただいまより電話を転送いたします」 2：「ただいまより電話を転送いたします。転送先までの電話料金は当方で負担いたします」 3：「ただいま電話を呼び出しております」 ※アナログ回線でご契約の場合は、トーキ番号の後に 9 を入力します。
転送元案内トーキ（転送先へのアナウンス）の設定のしかた	外線 → （サービス番号）1 4 2 4 → 4 → （トーキ番号）※ 0 ～ 1 → スピーカ トーキ番号 0：アナウンスなし 1：「この電話は（転送元電話番号）から転送されました」 ※アナログ回線でご契約の場合は、トーキ番号の後に 9 を入力します。
現在の設定状況の確認	外線 → （サービス番号）1 4 2 8 → （確認番号）※ 0 ～ 4 → スピーカ 確認番号 0：転送先リストの登録内容確認 1：転送トーキの指定状況確認 2：リモートコントロールの指定状況確認 3：転送元案内の指定状況確認 4：応答後転送の指定状況確認 ※アナログ回線でご契約の場合は、確認番号 4 がありません。
リモートコントロール機能 暗証番号の設定 （リモートコントロール機能を利用して本システム外の電話からでもボイスワープの開始、停止および転送先変更操作ができます。）	外線 → （サービス番号）1 4 2 4 → 3 → ※ 1 → （暗証番号（数字4桁））0～9 → スピーカ ※ 1 の替わりに 0 を押すと、リモートコントロール機能を「利用しない」設定となり、スピーカ で操作完了となります。
リモートコントロール機能 リモートコントロールの操作のしかた	（外出先から電話をかける） → （サービス番号）1 4 2 7 → ［PB信号］→ （電話番号）0～9 * # → （電話番号）0～9 * # → （操作の種類番号）0 ～ 2 → 操作の種類番号 0：転送サービスの停止 1：転送サービスの開始 2：転送先リストの変更 転送先リストの変更をする場合は、操作の種類番号の後、転送先リスト番号 0 ～ 4 を押してください。 ※暗証番号を4回連続して間違えると、それ以降の操作ができなくなります。この場合、暗証番号を再度登録し直す必要があります。

＜ボイスワープの運用を優先する＞

この機能が使えるのは、ISDN回線の外線個別着信が「DIL/着番号DID/着サブアドレスDID/ i・ナンバー」に設定しているときです。またボイスワープのサービスが①話中転送または②無応答転送と話中転送の併用のとき、③対象内線が塞がっているときに限られます。
ボイスワープのサービスが無条件転送、無応答転送のみのとき、対象内線が塞がっていないときや外線個別着信が「DIL/着番号DID/着サブアドレスDID/ i・ナンバー」以外に設定しているときは、このサービスが受けられませんのでご注意ください。

▼操作手順

ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ

1 ［ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ］キーを押す

- ボイスワープランプが赤点灯し、ボイスワープの運用を優先する状態になります。

補足

◇この機能は設定した電話機のみ運用となります。
◇PB信号ランプが消えている時は［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーが有効になります。
◇フレキシブルキーに［ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ］キーならびに［ｷｰﾊﾟｯﾄﾞ］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

＜ボイスワープの運用の優先を停止する＞

▼操作手順

ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ

1 ［ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ］キーを押す

- ボイスワープランプが消灯し、ボイスワープの運用の優先を停止します。

ご注意

◇この機能を使用する場合、販売店にご相談ください。
◇この機能を利用するにはNTTとの契約が必要です。

11 キャッチホンと表示されたときは

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、LCDディスプレイに「キャッチホン」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。

▼操作手順

通話中に着信を受けた状態
LCDディスプレイの1段目に『キャッチホン』と表示されます。

内線

1 通話中の相手に保留することを伝え、［内線］キーを押す

- かかってきた内線電話とつながります。
- 通話中だった相手には、保留音（メロディー）を送ります。
- 内線ランプが赤点滅します。

補足

操作手順1で［内線］キーのかわりにフッキング操作（P.29）でも行うことができます。

内線

2 前の相手に戻るときは、［内線］キーを押す

- 相手が受話器を戻すまでは、［内線］キーで繰返し相手を変えて通話できます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

12 相手が内線通話中に特番操作で終話をうながすには

（通話中着信）

相手内線が通話中のとき、特番をダイヤルすることによって相手内線に通話中着信表示を行い、終話をうながすことができます。また、相手内線は［内線］キー（単独電話機はフッキング）によって、呼出内線と通話することができます。

＜内線通話中の相手を呼び出すには＞

▼操作手順

■ 呼び出す側

1 受話器をあげる

- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルする

- 受話器から「ツーッツーッ」が聞こえます。

3「通話中着信特番」をダイヤルする

- 相手が［内線］キーを押すか、またはフッキング操作によって応答すると、通話できます。

補 足

この機能を使う場合は、「話中着信音」を「あり」にしてください。詳しくは販売店にご相談ください。

ご注意

この機能を使用する場合は、内線キャッチホン、シリーズコールとの併用はできません。いずれか1つの機能だけ使用できます。

■ 呼び出される側

通話中に着信を受けた状態
受話器から「ピ ー・・・ピー」と音が聞こえます。

1 通話中の相手に保留することを伝え、［内線］キーを押す

- かかってきた内線電話とつながります。
- 通話中だった相手には、保留音（メロディー）を送ります。
- 内線ランプが赤点滅します。

2 前の相手に戻るときは、［内線］キーを押す

- 相手が受話器を戻すまでは、［内線］キーで繰返し相手を変えて通話できます。

補 足

ＰＢ通話中、メモダイヤル中も通話中着信が入ります。

13 ［DSS］キーで電話をかける

フレキシブルキーは相手電話機の使用状態がわかる［DSS］（内線番号）キーとして使うことができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

DSS

2 ［DSS］キーを押す
- DSSランプは赤点灯します。
- DSSランプが点灯している場合は、相手電話機は使われています。

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

補足

◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に［DSS］キーを押します。
◇フレキシブルキーに［DSS］キーを登録するには、P.47「フレキシブルキーにDSSキーを登録する」を参照してください。

14 プッシュホン信号を送る

（PBエンド・ツー・エンド通信）

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン（PB）信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。通話が終わり受話器を戻すと、電話機は元のダイヤル回線に戻ります。

▼操作手順

PB信号

1 外線と通話中に［PB信号］キーを押す
- PB信号ランプは赤点灯します。

2 ダイヤルするとプッシュホン信号を送る

補足

◇フレキシブルキーに［PB信号］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇内線や専用線にもPB信号を送ることができます。
◇相手が応答すると自動的にPB信号を送れるようにすることができます。また、オートダイヤル（ワンタッチダイヤル）の中にPB信号を含めて登録することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

１５　ポーズ信号を自動的に挿入する

（オートポーズ）

ボタン電話装置に接続されている電話機では外線に発信する場合、システムで自動的にポーズ信号が挿入されます。このような場合、わざわざ外線とつながるまでの間にポーズを入れなくても電話がかけられます。
ただし、ISDN回線、VOIP専用線をお使いの場合は、オートポーズは挿入されません。

１６　指定外線から直接内線に着信させる

（付加番号DID）

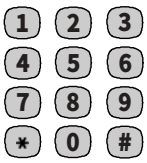
指定外線にかけPB信号で内線番号をダイヤルすることにより、内線を直接呼び出すことができます。

▼操作手順

■ 外出先から

1 外出先から会社に電話をかける
- 次のメッセージがアナウンスされます。

例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』



2 内線番号をダイヤルする

■ 社内

1 ハンドセットをあげる
- ハンドセットをあげるだけで応答できます。

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

17 停電について

17.1 停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりできます。通常の使用状態では約10分間、電話の機能を維持することができます。

フレキシブルキーに［停電］キーを登録しておくことにより、停電バッテリーに切り替わったとき赤点滅します。停電バッテリーからAC電源復旧によりランプは消灯します。

ご注意

停電時にバックアップされる機能は全機能です。機能または端末ごとの制限はできません。

17.2 停電用電話機について

停電用電話機を接続すれば、バッテリーが切れても外線と直通となっている停電用電話機で、通常通り電話をかけたり、受けたりできます。

停電用電話機としてアナログ用停電電話機とデジタル用停電電話機を用意しています

ご注意

停電の対策は、販売店にご相談ください。

18 長電話を知らせる

（長時間通話警告）

外線発信には長電話を防ぐため、一定時間が過ぎると長時間通話警報音を鳴らします。外線に発信してから2分30秒後に1回目の警告音を鳴らし、その後3分ごとに警告音を鳴らします。

（警報音の送出は、課金表示有の時だけ行なわれます。）

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

19 秘書機能について

幹部と秘書電話機を登録することにより、秘書機能が使用できます。
秘書機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

19.1 幹部電話を設定する

工事設定をします。

19.2 幹部電話機が話中の場合には（話中転送）

幹部電話機が話中の場合に着信があると、自動的に秘書電話機に転送されます。

19.3 幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送）

幹部電話機の在席/離席ランプが消灯している場合、すべての着信は秘書電話機に転送されます。

＜[離席] にするには＞

▼操作手順

在席/離席

1 幹部電話機で[在席/離席]キーを押す
- 在席/離席ランプは消灯します。
- 秘書電話機の幹部ＤＳＳランプも消灯します。

＜[在席] にするには＞

▼操作手順

在席/離席

1 幹部電話機で[在席/離席]キーを押す
- 在席/離席ランプは緑点灯します。
- 秘書電話機の幹部ＤＳＳランプも緑点灯します。

補足

◇転送には、いろいろな転送があります。「転送に関する用語」（P.195）にまとめてありますのでご覧ください。
◇フレキシブルキーに［在席/離席］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。

19.4 幹部電話機が着信拒否をした場合には（着信拒否転送）

幹部電話機が着信鳴動中に［在席/離席］キーを押した場合は、幹部電話機の鳴動は停止し秘書電話機が着信鳴動になります。

19.5 幹部電話機の在席／離席を代行するには（代行操作）

秘書電話機で幹部電話機の在席/離席が設定できます。また、幹部電話機を呼出すことができます。
秘書電話機の［幹部ＤＳＳ］キーで幹部電話機の在席、在席転送、離席を登録できます。
幹部ＤＳＳランプは在席で緑点灯、在席転送で橙点灯、離席で消灯します。

19.6 幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送）

幹部電話機が着信に対して一定時間応答しない場合は、秘書電話機に転送されます。

20 主装置で設定する機能

主装置で設定する機能の詳細は、販売店にご相談ください。

20.1 外線発信を規制するには（発信テナント）

電話機ごとに指定された外線と、つながらないように規制できます。

20.2 市外発信を規制するには（市外発信規制）

電話機ごとに市外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.3 指定市外のみ発信させるには（帯域市外発信規制）

指定の市外のみ発信でき、それ以外の市外発信はできません。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.4 海外発信を規制するには（国際発信規制）

電話機ごとに海外発信を規制できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.5 特定の海外(国)のみに発信させるには（特定国際発信規制）

特定の海外にはかけられる電話機を指定できます。ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

20.6 内線番号を登録するには（ナンバーグループ）

お客様の運用に応じて1桁から4桁までの内線番号を混在して設定できます。

20.7 発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信）

NTTのナンバーディスプレイサービス契約回線より受信した発信者番号別に、着信先、着信方法、着信時の着信音（音色）を指定できます。

20.8 一般着信時の着信先が塞がっているときに着信を規制するには（使用中着信規制）

一般着信時、着信先が使用中のときに、着信を規制するかどうかを指定できます。

第7章

音声メールの使い方

1. 音声メールの基本的な使い方……132
1 音声メール取扱上の注意……132
2 音声メールの用語と機能……133
3 音声メールの機能とメールボックス……134
4 音声メールのメッセージ状況表示……134
5 音声メールの検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け ……135
6 パスワードを設定する……136
7 通話録音機能を利用する……140
8 メールサービスを利用する……144
2. 音声メールの応用的な使い方 ……152
1 メッセージ録音通知で外出先の電話を呼び出す……152
2 不在代行／留守録音（着信代行）サービス……156
3 メールサービスの便利な使い方……165

1 音声メールの基本的な使い方

1 音声メール取扱上の注意

※機能によってはシステムのデータ設定が必要です。販売店にご相談ください。
※音声メール装置は標準装備です。増設してお使いの場合は、次の点にご注意願います。
1．標準装備の音声メール装置とは併設利用となります。テナントを分けて（例えば、自宅と店舗または営業部門と管理部門）お使いください。
2．1つの電話機に両方の音声メール装置の機能(通話録音、伝言録音など)を割り付けることはできません。
3．1つの電話機に両方の音声メール装置の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを割り付ければ、両方のメールサービスを受けられます。

●録音されているメッセージについて
本製品で万一故障が発生した場合、録音されているメッセージが再生できないことがありますのでご了承ください。

●無断で通話録音しないこと
通話録音は、必ず相手の了解を得てから録音をはじめてください。個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。
相手の了解を得られない場合は、［通話録音］をしないでください。

●外出先からはプッシュホンでかける
外出先から音声メールにアクセスする場合はプッシュホン電話機または、回転ダイヤル式電話機でトーン信号（PB）に切り替えられる電話機をお使いください。

●メールボックスの指定は忘れずに
通話録音中に録音先のメールボックスの指定を忘れると、メッセージは自分のメールボックスに録音されます。このときは、「他の人にメッセージを転送する」（P.165）の項を参照し、メッセージを転送します。

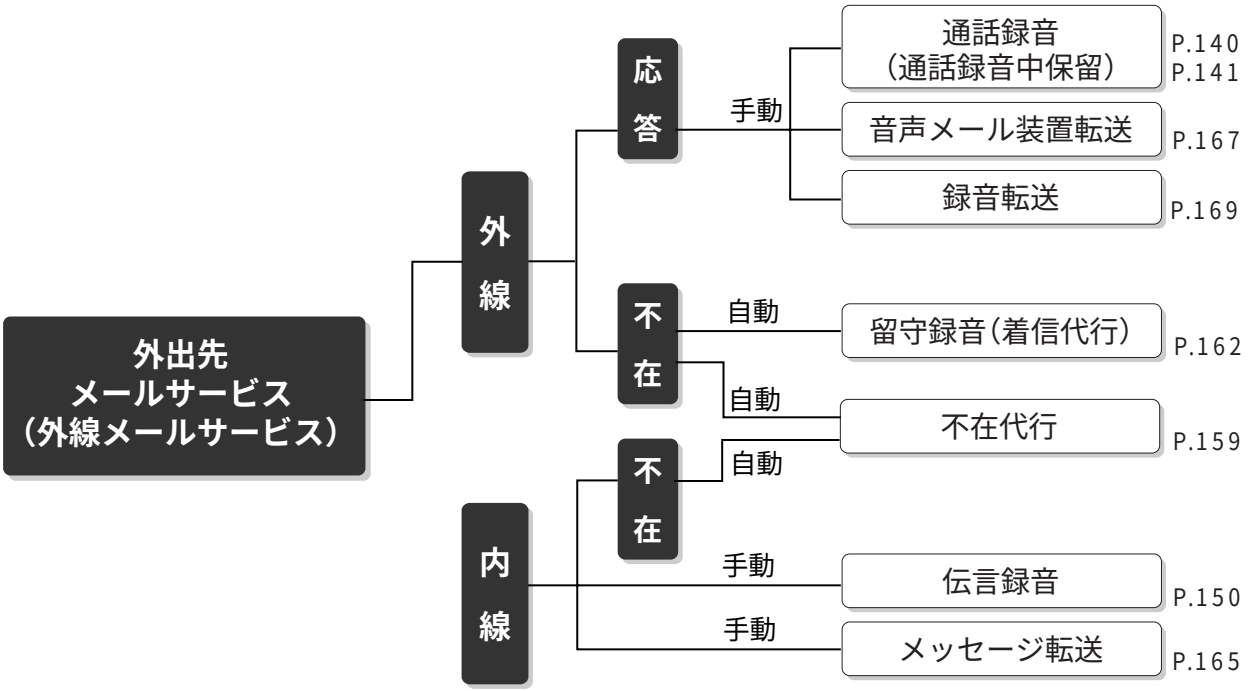
●専用コードレスホン、単独電話機についての注意
専用コードレスホンまたは単独電話機（表示器付）には、表示器に音声メールに関する表示はでません。
専用コードレスホンまたは単独電話機では、メールボックスの状態表示はできません。ボタン電話機に専用コードレスホンまたは、単独電話機用の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを作ると便利です。

●音声メールは、同時に２人以上では使用できません。
音声メールは、１人が使用中の場合、その他の人の使用はできません。
効率よい使い方を心がけましょう。

●録音時間はシステムで管理
１メッセージあたり、標準で15分間録音できます。15分以上のメッセージは録音されません。
システムで1分単位に録音時間を変えることができます。（最大15分）

●メールボックスはスリムに
メールボックス１個には、最大128（全部のメールボックスあわせて128）のメッセージが録音できます。録音時間は、全てのメッセージあわせて約1時間です。
不要なメッセージは、消去するよう常に心がけましょう。

2 音声メールの用語と機能



■通話録音
キー操作により通話録音ができる機能。（通話録音中に一時録音を中断／再開させる機能）

■音声メール装置転送
内線からの操作により外線側からメールサービスを受けられる機能。（再生、消去、伝言録音、内線呼出）

■録音転送
内線からの操作により外線側からメッセージを指定したメールボックスに転送し、伝言などを録音する機能。

■留守録音（着信代行）
夜間・休日の外線からの着信を音声メールが応答録音する機能。

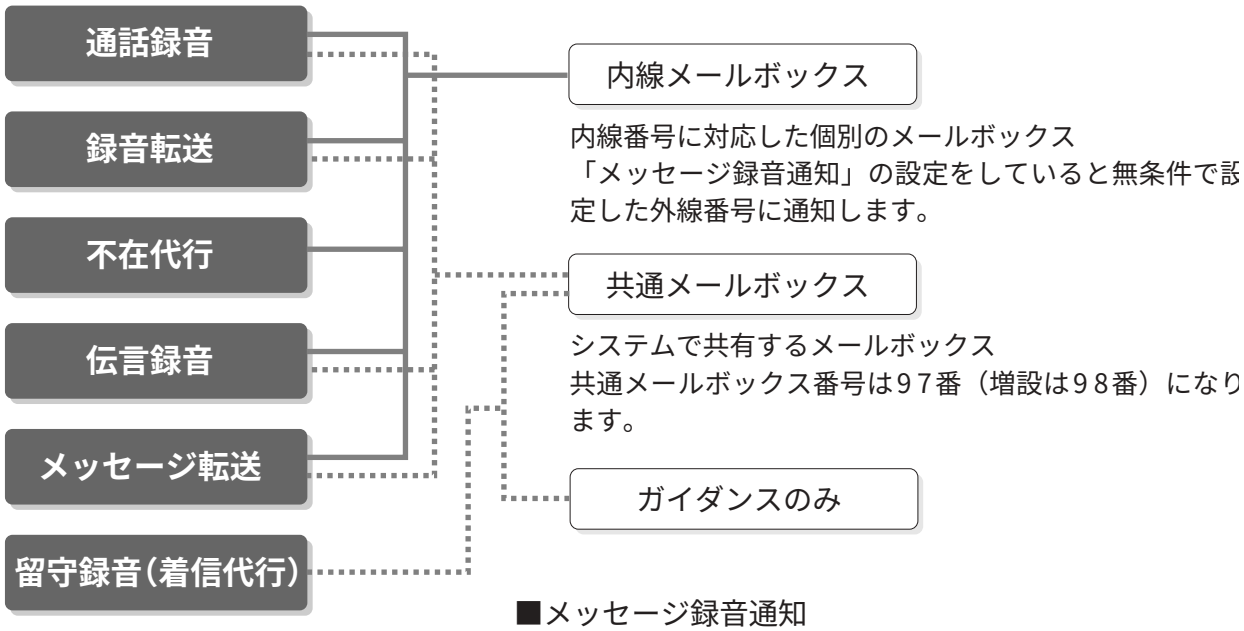
■不在代行
外線／内線の個別着信を音声メールが応答録音する機能。

■伝言録音
指定した1個のメールボックスにメッセージを録音する機能。

■メッセージ転送
自分のメールボックスに入っているメッセージを他の人に転送する機能。

■外出先メールサービス
留守録音（着信代行）、不在代行中の電話番号に電話をかけるメールサービスを受けられる機能。（再生、消去、伝言録音、内線呼出）

3 音声メールの機能とメールボックス



■メッセージ録音通知

内線メールボックスへメッセージが録音された場合、あらかじめ指定した外線へ発信して、「内線メールボックスにメッセージがある」ことを通知する機能。通知された外線は、応答操作によりメッセージを聞くことができます。

4 音声メールのメッセージ状況表示

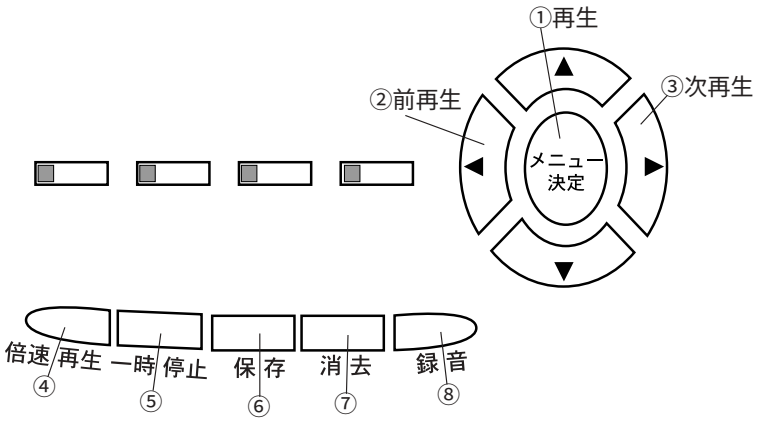
メールボックスに録音されているメッセージの聴取状況をメールボックスランプ表示およびメッセージランプで確認できます。

メッセージ聴取状況	メールボックスランプ表示	メッセージランプ表示
未聴取メッセージあり	緑点滅	赤点灯
全メッセージ聴取済み	赤点灯	消　灯
メッセージなし	消　灯	消　灯
録音不可のとき	赤点滅	消　灯

5 音声メール検索キー・機能キーの割付け、録音・再生機能の自動割付け

5.1 音声メール検索キー・機能キーへの録音・再生機能の自動割付け

録音されたメッセージの再生中（メールボックスにアクセスしている場合）は、検索キーと機能キーは自動的に次の機能に変更されます。メールサービスを終了すると自動的にもとの機能に戻ります。



①再生
メッセージを再生します。

②前再生
再生中のメッセージを中止し、1つ前のメッセージを再生します。

③次再生
再生中のメッセージを中止し、次のメッセージを再生します。

④倍速再生
標準スピードで再生中のメッセージを2倍のスピードで再生します。もう一度同じ操作で標準スピードに戻ります。

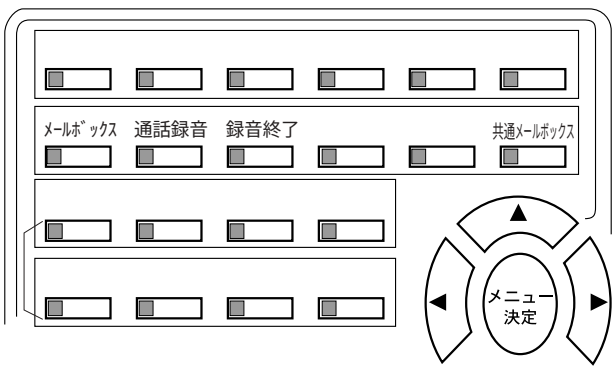
⑤一時停止
メッセージ再生を一時停止します。一時停止中の場合は、もう一度同じ操作で再生を再開します。再生再開時は、標準スピードになります。

⑥保存
再生中のメッセージを保存します。再生終了後でも同じ働きをします。

⑦消去
再生中のメッセージをメールサービス終了時に消去します。再生終了後でも同じ働きをします。

⑧録音
応答メッセージの録音をはじめます。

5.2 初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け



補 足

◇初期立上げ時のフレキシブルキーの機能割付けを変更する場合に、「1.2　フレキシブルキーに機能を割り付ける」（P.40）必要があります。

◇フレキシブルキーの機能割付けを確認するには、［保留］＋0のあとに調べるキーを押すことにより、ディスプレイに機能を表示させることができます。

6 パスワードを設定する

メールボックスごとにパスワードを持つことができます。パスワードにより他人が無断で、あなたのメールボックスのメッセージを聞くことを防げます。パスワードの新規登録/変更/消去する場合の操作手順を説明します。

6.1 パスワードの新規登録

▼操作手順

メニュー決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “ 8（その他設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

3 “ 1（内線設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2か ABC

4 “ 2（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

システム管理電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ:10--
```

一般電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :-----
```

- 一般の電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。

1あ 2か ABC 3さ DEF / 4た GHI 5な JKL 6は MNO / 7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ / ＊ ゛゜ 0わ をん 記号 ＃

5 パスワードを登録するメールボックス番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー決定

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :-----
```

1あ 2か ABC 3さ DEF / 4た GHI 5な JKL 6は MNO / 7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ / ＊ ゛゜ 0わ をん 記号 ＃

6 新しいパスワードを数字4桁ダイヤルする

補足

◇この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。
◇操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号（内線番号）が表示されます。
◇メールボックス番号を入力する場合は、［戻る/削除］キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。

7 手順6で入力したパスワードを再度ダイヤルする

- 設定できた場合は「ピー」と鳴ります。
- 手順6で入力したパスワードと異なると、エラー音が鳴ります。もう一度手順6からやり直してください。

8 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

6.2 パスワードの変更

一度登録したパスワードを変更します。パスワードは、セキュリティーのため状況に応じて変更されることをお勧めします。

▼操作手順

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 “8（その他設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

3 “1（内線設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

4 “2（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

システム管理電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ:10--
```

一般電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
旧ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :----
```

- 一般の電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。

5 パスワードを変更するメールボックス番号をダイヤルし、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
旧ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :----
```

補足

◇この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。
◇操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号（内線番号）が表示されます。
◇メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除] キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。

6 旧パスワード／新パスワード／確認（新パスワード）の順でダイヤルする

- 設定できた場合は「ピー」と鳴ります。
- 旧パスワード入力時、入力したパスワードと旧パスワードが異なる場合は、エラー音が鳴り元に戻ります。もう一度手順6からダイヤルし直してください。
- 新パスワードと確認のパスワードが異なる場合は、エラー音が鳴りますので新しいパスワードから、もう一度入力してください。

7 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

6.3 パスワードの消去

登録したパスワードを消去します。

▼操作手順

1 [ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

2 “8（その他設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

3 “1（内線設定）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

4 “2（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ）”を選び、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

システム管理電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ:10--
```

一般電話機の場合

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
旧ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :----
```

- 一般の電話機からの操作の場合は、操作手順4の次に6に行きます。

5 パスワードを削除するメールボックス番号を入力し、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
旧ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :----
```

補足

◇この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。
◇操作手順4でシステム管理電話機の場合、操作している電話機のメールボックス番号（内線番号）が表示されます。
◇メールボックス番号を入力する場合は、[戻る/削除] キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。

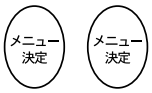
ご注意

◇パスワードを一度登録しますと、メールボックスへ録音されたメッセージを再生するためにはパスワードが必要になります。
◇パスワードはメールボックスの機密性保持のため、参照することはできません。
◇パスワードがわからなくなった場合、登録モードではパスワードの解除はできません。わからなくなった場合は、販売店にご相談ください。

6 現在のパスワードをダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- パスワードと異なると、エラー音が鳴ります。もう一度ダイヤルし直してください。

```
ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
旧ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:****
新ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:----
確認      :----
```



7 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを2回押す

- 消去できた場合は「ピー」と鳴ります。

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

7 通話録音機能を利用する

音声メールに、かかってきた電話（外線）との通話内容（相手と自分の声）を録音することができます。

7.1 通話中に録音を開始する（通話録音）

フレキシブルキーにあらかじめ割付けてある［通話録音］キーで、通話中の会話を録音することができます。録音先は（内線メールボックス）または（共通メールボックス）を指定できます。通話録音を開始する前に、通話内容を録音することの了解を相手方から必ず得てください。

▼操作手順

通話録音

1 通話中に［通話録音］キーを押す

- ［通話録音］キーを押すと受話器から録音開始の「ピー」音が鳴り録音をはじめます。
- 通話録音ランプは緑点灯します。

メｰﾙﾎﾞｯｸｽ

または

2 ［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーまたはメールボックス番号を押す

- ［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーまたはメールボックス番号を押さなかった場合は、自分の内線メールボックスへ録音されます。

または
録音終了

3 通話が終了したら受話器を戻す

- 通話録音は、［録音終了］キーを押しても終了できます。
- 通話相手の切断、キャッチホンへの応答、または受話器を戻すことにより、通話録音を終了します。

補足

◇［通話録音］キー、［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キー、［録音終了］キーは初期でフレキシブルキーに登録されています。P．135「2.2　初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。
◇フレキシブルキーに新たに［通話録音］、［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーおよび［録音終了］キーを登録するにはP.46またはP.40を参照してください。
◇内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
　97：初実装のとき
　98：増設のとき
◇メールボックス番号入力中に“＊”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。
◇音声メールの録音時間が無くなったとき、通話録音を終了します。

参考

［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに割付けるメールサービス関連の機能

No.	機能	ディスプレイ表示
07	夜間切替	夜間切替
10	自己保留	自己保留
12	PB信号	PB信号
15	不在転送	不在転送

No.	機能	ディスプレイ表示
27	通話録音	通話録音
29	録音終了	録音終了
50	ガイダンス切替	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替
65	メールボックス	MBX

7.2 通話録音中に保留する

通常の電話機と同じ操作で保留ができます。保留中は録音を一時停止し、保留を解除すると録音を再開します。
他の電話機で保留を解除した場合は、保留までの通話録音は保留操作をする前に指定したメールボックスに録音されます。解除後の録音は解除した電話機で［通話録音］キーを押し、メールボックスを指定します。

＜自己の電話機で保留／解除する＞

▼操作手順

保 留
または
自己保留

1 通話録音中の相手に保留することを伝え、［保留］または［自己保留］キーを押す
- 録音を一時停止し、保留状態になります。
- 保留中は通話録音ランプは、消灯になります。
- 保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

補足
フレキシブルキーに新たに［自己保留］キーを登録するにはP.40を参照してください。

外線

2 保留の解除は、保留した［外線］キーを押す
- 保留を解除し通話ができる状態に戻ると同時に通話録音が再開されます。

★録音の取消は、前項の3の操作で［通話録音］キーを押します。

＜他の電話機で保留を解除する([保留]キーでの保留時)＞

▼操作手順

1 解除する電話機の受話器をあげる
- 受話器は「ツーツー」の発信音が聞こえます。

外線

2 外線ランプが点滅している［外線］キーを押す
- 通話ができる状態になります。
- 通話録音は終了します。

3 通話終了後に、受話器をおく

7.3 通話録音中に転送する

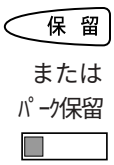
通常の電話機と同じ操作で口頭転送、内線ダイヤル転送で転送ができます。転送までのメッセージは転送操作をする前に指定したメールボックスに録音されます。転送を受けた電話機で録音する場合は、［通話録音］キーを押しメールボックスを指定します。

＜転送先に呼びかけて転送する＞（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。

■ 転送元

▼操作手順



1 通話録音中の相手に転送することを伝え、［保留］または［ﾊﾟｰｸ保留］キーを押す

- 転送するまで録音された会話は、転送操作をする前に指定されたメールボックスに録音されます。
- 通話録音ランプは、消灯になります。
- 保留の相手には、保留音(メロディ)を送ります。

2 受話器をおき、転送先の人に口頭で呼びかける

補足

フレキシブルキーに新たに［ﾊﾟｰｸ保留］キーを登録する場合は、販売店にご相談ください。

■ 転送先

1 呼びかけられた人が受話器をあげる

2 点滅している［外線］キーを押し転送に応答する

- 転送元の通話録音は終了します。
- 応答した人が通話録音をする場合は、その人の電話機の［通話録音］キーを押すと、転送後の通話が録音できます。

3 通話が終了したら、受話器を戻す

- 受話器を戻すと、通話録音も終了します。

参考

◇転送先が一定時間内に応答しない場合は、保留した電話機に保留警告音（約60秒）が鳴ります。この場合、点滅している［外線］キーを押すと、保留は解除され相手との通話に戻り、通話録音も再開されます。
◇受話器をあげると自動的に外線につながる設定をしている場合、受話器をあげないで［外線］キーを押し、その後、受話器をあげてください。

＜内線にダイヤルして転送する＞

内線番号をダイヤルして転送します。

▼操作手順

1 通話録音中の相手に転送することを伝え、［内線］キーを押す

2 転送先の内線番号をダイヤルする

- 転送するまで録音された会話は、転送操作をする前に指定されたメールボックスに録音されます。

3 転送先が出たら受話器を戻すと、転送される

- 応答した人が通話録音をする場合は、その人の電話機の［通話録音］キーを押すと、転送後の通話が録音できます。

8 メールサービスを利用する

8.1 自分あてのメッセージを聞き出す（メッセージ再生）

自分あてのメールボックスに録音されているメッセージを聞き出し(再生)、そのメッセージを保存、または消去することができます。
また、再生中のメッセージを他の人のメールボックスに転送することができます。詳しくは、「他の人にメッセージを転送する」（P. 165）を参照してください。

＜自分あてのメッセージを聞く＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

メｰﾙﾎﾞｯｸｽ

2 自分の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを押す

- メールボックス番号指定特番「74」＋メールボックス番号でも指定できます。
- パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。パスワードを設定していない場合は、手順3のメッセージがアナウンスされます。
『暗証番号を入力してください。』

3 パスワードをダイヤルする

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。

☆未聴取メッセージがある場合『新しいメッセージがＸＸ件あります。メッセージを再生します』未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合は ＃ を押してください。
終了するときは、操作手順5へいきます。

☆聴取済メッセージがある場合『保存されたメッセージがＸＸ件あります。サービス番号をどうぞ。』操作手順4へいきます。

☆メッセージがない場合『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

補足

◇［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーは初期でフレキシブルキーに登録されています。P.135「2.2　初期立上げ時のフレキシブルキーへの機能割付け」を参照してください。
◇フレキシブルキーに新たに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。
◇内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
　97：初実装のとき
　98：増設のとき
◇メールボックス番号入力中に“ ＊ ”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

5な JKL
または
応答

4 サービス番号“5”（録音再生）をダイヤルするか［応答］キーを押す

- サービス番号“5”をダイヤルすると聴取済みメッセージの新しいものから再生します。
- ［応答］キーは押すごとにメッセージがスクロールし表示します。
- 再生中の画面です。
- 再生中にメッセージの消去または、保存の指定ができます。詳しくは、「5.2　メッセージの消去と保存」(P.149)を参照してください。

```
内線10              再生
10/20  10:23        保存
田中
17:音量増 18:音量減
```

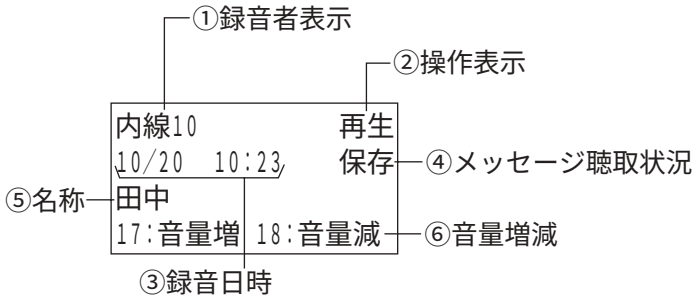
9ら WXYZ

5 サービス番号“9”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

参考

再生中に、倍速再生など便利な機能が利用できます。詳しくは、「メールアクセス中にできる操作と内容」（P.147）を参照してください。

＜メッセージの状態表示＞



①録音者表示
　メッセージの録音者が内線時：内線番号を表示します。
　メッセージの録音者が外線時：「外線」と表示します。
②操作表示
　停止 ：メッセージを再生していない状態です。
　再生 ：メッセージ再生中の状態です。
③録音日時
　録音開始の日時を表示します。
④メッセージ聴取状況
　新規 ：未聴取メッセージです。
　保存 ：保存指定をしたメッセージです。
　消去 ：消去指定をしたメッセージです。
⑤名称
　①の内線の名称を表示します。
⑥音量増減
　録音再生中に17を押すとボリュームアップ、18を押すとボリュームダウンすることを表示します。

補 足

◇メールボックスにアクセスしたとき、メールボックスの状態により次のようなアナウンスがあります。

メールボックス状態		アナウンス内容
未聴取メッセージ	保存メッセージ	
無し	無し	『メッセージはありません。』 『サービス番号をどうぞ。』
無し	有り	『保存されたメッセージが、xx件あります。』 『サービス番号をどうぞ。』
有り	無し	『新しいメッセージが、xx件あります。』 『メッセージを再生します。』
有り	有り	

◇メールボックスにアクセスしたとき、未聴取メッセージがあると自動的に全ての未聴取メッセージを新しい順に連続再生します。
◇メールボックス内に複数のメッセージが録音されている場合、［応答］キーを押すことにより、メッセージが順にスクロール表示されます。

＜メールアクセス中にできる操作と内容＞

(1) メッセージ再生前と再生後にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
メッセージ検索	応答	次のメッセージの状態表示をします。 次のメッセージがあれば、応答キーを押すごとにそのメッセージの状態表示をします。
前メッセージ再生	◀ または 1あ 5な JKL	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。
次メッセージ再生	▶ または 5な JKL	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。 応答キーによるメッセージ検索をした場合は、次のメッセージを再生します。
頭から再生	メニュー 決定 または 1あ 2か ABC	件数表示中の場合は、先頭のメッセージを再生します。応答キーによるメッセージ検索をした場合は、そのメッセージを再生します。
メッセージ消去	内線 または 3さ DEF	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを消去指定にします。
メッセージ保存	短縮 または 7ま PQRS	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを保存指定にします。
メッセージ転送	1あ 3さ DEF	応答キーによるメッセージ検索をした場合、そのメッセージを転送します。
応答メッセージ変更	1あ 4た GHI ＋ 0わをん 記号 ～ 2か ABC ↓ 3さ DEF 5な JKL 6は MNO 消去　再生　録音 ↓ # 登録終了 ↓ 9ら WXYZ アクセス終了	外線着信代行時および不在代行時の応答メッセージをメールボックス毎に録音・消去・再生することができます。 “１”“４”の次の数字は次の内容です。 0：不在代行用 1：外線着信代行用（パターン1） 2：外線着信代行用（パターン2） 応答メッセージの録音により、アクセス中のメールボックスの応答メッセージを変更することができます。

(2) メッセージ再生中にダイヤルキーでできる機能です。

操作	対応キー	サービス内容
前メッセージ再生	◀ または 1あ 5な JKL	再生中のメッセージの１つ前のメッセージを再生します。再生中のメッセージが最新のメッセージの場合は、最新のメッセージを最初から再生します。
次メッセージ再生	▶ または 5な JKL	再生中のメッセージの次のメッセージを再生します。再生中のメッセージが最後のメッセージの場合は、最後のメッセージを最初から再生します。
頭から再生	メニュー 決定 または 1あ 2か ABC	再生中のメッセージを最初から再生し直します。
メッセージ転送	1あ 3さ DEF	再生中のメッセージを他のメールボックスに転送します。
メッセージ消去	内線 または 3さ DEF	再生中のメッセージを消去指定にします。
メッセージ保存	短縮 または 7ま PQRS	再生中のメッセージを保存指定にします。
倍速再生	代理応答 または 1あ ＊	再生中のメッセージを倍速で再生します。倍速再生中の場合は、普通の再生速度に戻します。
一時停止	リダイヤル または ＊	再生中のメッセージを一時停止します。一時停止していた場合は、再生を始めます。
再生終了	#	メッセージの再生を終了します。
ボリュームアップ	1あ 7ま PQRS	再生中の音量を大きくします。
ボリュームダウン	1あ 8や TUV	再生中の音量を小さくします。
アクセス終了	9ら WXYZ	アクセスを終了します。

8.2 メッセージの消去と保存

メッセージ再生後にそのメッセージを消去指定、または保存指定することができます。

＜再生後メッセージを消去する＞

メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを消去指定できます。

▼操作手順

1 メッセージ再生後にサービス番号“３”(消去)をダイヤルする

- ディスプレイ右下に［消去］と表示されます。

```
内線10              再生
10/20  10:23        消去
田中
17:音量増  18:音量減
```

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去します。サービス番号をどうぞ。』

2 サービス番号“９”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

- 『終了します。』

```
ｻｰﾋﾞｽ終了
```

↓

```
                Tel.10
10/20 Mon   am11:00
```

補 足

◇メッセージを聞き出す方法(再生)は、(P.144)を参照してください。
◇メッセージの消去は、再生中に“３”をダイヤルしてもできます。
◇未聴取メッセージを最後まで聴取したとき、消去指定／保存指定の操作をしないと、自動的に保存または消去指定になります。自動的に消去または保存指定にするか変更したい場合は、販売店にご相談ください。

＜再生後メッセージを保存する＞

メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを保存指定できます。

▼操作手順

1 メッセージ再生後にサービス番号“７”(保存)をダイヤルする

- ディスプレイ右下に［保存］と表示されます。

```
内線10              再生
10/20  10:17        保存
田中
17:音量増  18:音量減
```

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを保存します。サービス番号をどうぞ。』

2 サービス番号“９”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

- 『終了します。』

```
ｻｰﾋﾞｽ終了
```

↓

```
                Tel.10
10/20 Mon   am11:00
```

補足

◇メッセージを聞き出す方法(再生)は、(P. 144)を参照してください。
◇メッセージの保存は、再生中に“７”をダイヤルしてもできます。
◇未聴取メッセージを最後まで聴取したとき、消去指定／保存指定の操作をしないと、自動的に消去指定になります。自動的に保存指定にする場合は、販売店にご相談ください。

8.3 メールボックスにメッセージを録音する（伝言録音）

メールボックスを指定して、そのメールボックスに伝言メッセージを録音することができます。

＜伝言メッセージの録音＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

通話録音

2 ［通話録音］キーを押す

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを録音します。転送先メールボックス番号を入力してください。』

補足

次の場合、通話録音ランプが赤点滅し、伝言録音できません。
- 音声メールの総録音時間の不足
- 音声メールの録音件数満杯

（音声メールが総時間不足、件数満杯以外の場合、通話録音ランプは赤点滅になりません。）

3 メールボックス番号をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージをどうぞ。ピー。』

★録音をはじめる合図、ピー音が聞こえたら受話器からメッセージを録音します。［通話録音］ランプは緑点灯します。

★メールボックス番号を間違えた場合は、『転送先メールボックス番号を入力してください。』のアナウンスがありますので、正しいメールボックス番号を再入力してください。

★メールボックス番号を入力しないと、約30秒で伝言録音サービスを終了します。

4 録音を終了する場合は、“ ＃ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『ピー。メッセージを転送しました。』
- 受話器を戻しても録音は終了できます。

録音を取消す場合は、“ ＊ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去しました。』

補 足

◇内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
　97：初実装のとき
　98：増設のとき

◇メールボックス番号入力中に“ ＊ ”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

◇音声メールの録音時間が無くなった場合、伝言録音は終了します。

＜メッセージ録音中にできる操作＞

(1) 録音先メールボックス指定中にダイヤルキーでできる機能です。

操　作	対応キー	サービス内容
録音先の取消	＊	メールボックスが指定されていないときは、入力途中のダイヤルを取消します。

(2) メッセージ録音中にダイヤルキーでできる機能です。

操　作	対応キー	サービス内容
終　了	＃	メッセージ録音を終了します。
取　消	＊	録音中のメッセージを消去して終わります。

2 音声メールの応用的な使い方

1 メッセージ録音通知で外出先の電話を呼び出す

メールボックスへメッセージが録音されたとき、あらかじめ指定した外線へ発信して通知することができます。メッセージ録音通知を受けた人は、通知を受けた時にメッセージを開くか、あらためて電話をかけ、メッセージを聞くことができます。

1.1 メッセージを外線に通知する

メッセージを外線に通知するには、メールボックス番号、電話番号、メッセージ通知の通知時間帯と通知間隔を登録しておきます。

＜メッセージ通知先の登録＞

この登録操作で同時に開始または終了の設定も行います。
★電話機からメッセージ通知先電話番号を登録します。
★受話器はそのまま（オンフック状態）で登録操作ができます。

▼操作手順

メニュー 決定 **1** ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7 まPQRS **2** “７（転送設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 なJKL **3** “５（ﾒｯｾｰｼﾞ録音通知）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- システム管理電話機以外は、操作手順6にいきます。

1 あ **4** “１（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ 2 かABC 3 さDEF / 4 たGHI 5 なJKL 6 はMNO / 7 まPQRS 8 やTUV 9 らWXYZ / ＊ ゛゜ 0 わをん記号 ＃ **5** メールボックス番号をダイヤルし［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2 かABC **6** “２（通知時間帯）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

ご注意

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

補足

◇通話時間帯は００:００～２３:００の間で指定します。２４時間を指定する場合は００:００～００:００とします。
◇この手順は、システム管理電話機からの操作手順です。他の内線の設定もできます。
◇メールボックス番号を入力する場合は、［戻る/削除］キーで表示されているメールボックス番号をクリアしたのち、新しいメールボックス番号をダイヤルします。
◇操作手順１～５の替りに保留＋メールボックスキーでも行えます。

参考

◇メッセージ録音通知をすることができる通知先は、「外出先電話」、「携帯電話」、「PHS」、「ポケットベル」　などです。
◇ポーズ信号は、時間の変更ができます。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

7 時間をダイヤルし［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8 “ 3（通知間隔）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

9 通知間隔(○○分)をダイヤルし［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 通知間隔の設定できる範囲は10分～60分です。

10 “ 4（通知先番号）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

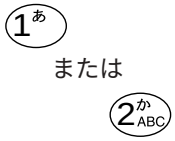
11 相手番号をダイヤルし［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 最大32桁までの電話番号が入力できます。

12 番号種別を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1．外線
2．特番展開（内線、特番発信）
3．PBX

13 “ 5（開始/終了）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す



14 “ 1（開始）”または“ 2（終了）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 登録が完了すると「ピー」音が鳴ります。

15 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

通知間隔は初期設定が15分です。設定は1分単位でできます。

補足

設定内容を変更する場合、変更項目のみを選び修正できますが、最後に必ず操作手順14で“ 1（開始）”キーを押してください。“ 1（開始）”キーを押さないとデータ内容が更新されません。

＜メッセージ録音通知の開始の設定＞

★電話機からメッセージ録音通知機能を設定します。
★受話器はそのまま（オンフック状態）で登録操作ができます。

▼操作手順

メニュー 決定　**1** ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7ま PQRS　**2** “７（転送設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5な JKL　**3** “５（ﾒｯｾｰｼﾞ録音通知）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5な JKL　**4** “５（開始/終了）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ　**5** “１（開始）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す
- 登録が完了すると「ピー」音が鳴ります。

スピーカ　**6** ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

参考

◇メッセージ録音通知を行う転送動作は、回線および音声メールが共に空きでない場合は、1分後に再度転送動作を行います。
◇転送先が話中またはOFF状態の場合、15分後（初期設定）に再度転送動作を行います。
◇通知先の外線が応答することにより、通知完了となります。
◇通知先の外線は、応答後メールボックスのパスワードを入力することによりメッセージを聞くことができます。（パスワードの登録がない場合は、パスワードの入力はありません。）

＜メッセージ録音通知の解除＞

★電話機からメッセージ録音通知機能を解除します。
★受話器はそのまま（オンフック状態）で解除操作ができます。

▼操作手順

1～4 ＜メッセージ録音通知の開始の設定＞と同じです

2か ABC　**5** “２（終了）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ　**6** ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

1.2 メッセージ録音通知で外出先からメッセージを聞き出す

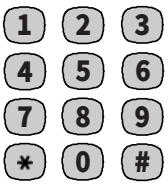
メッセージ録音通知で呼び出された外出先の電話からそのまま、メッセージを聞くことができます。

＜メッセージ録音通知先の電話からメッセージを聞く＞

▼操作手順

1 着信に応答する

- パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。
『メールボックス番号ＸＸの新しいメッセージを転送します。』
『暗証番号を入力してください。』
- パスワードを設定していない場合は、次のメッセージがアナウンスされ、メッセージを自動再生します。
『メールボックス番号ＸＸの新しいメッセージを転送します。』
『新しいメッセージがＸＸ件あります。メッセージを再生します。』



2 パスワードをダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされ、メッセージを自動再生します。
『新しいメッセージがＸＸ件あります。メッセージを再生します。』
- 未聴取メッセージがなくなったとき、次のメッセージがアナウンスされます。
『タイムスタンプメッセージ』
『保存、消去の選択メッセージ』
『選択後のメッセージ』
『サービス番号をどうぞ。』
- パスワードの入力に誤りがあると、次のメッセージがアナウンスされます。
『もう一度、暗証番号を入力してください。』
- パスワードを3回間違えた場合、次のメッセージがアナウンスされます。
『終了します。』
『サービス番号をどうぞ』
操作手順4にいきます。

3 終了は、“９”をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
『終了します。』『サービス番号をどうぞ。』

4 受話器を戻す

- 携帯電話の場合は、［切］キーを押します。

補足

◇フレキシブルキーに新たに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。
◇パスワード未入力の状態が30秒経過すると、『終了します。』のメッセージがアナウンスされたあと切断予告音（ピーピー）を送出して切断します。
◇メッセージの内容は次のとおりです。
・タイムスタンプメッセージ：
『xx月xx日午前xx時xx分です。』
・保存、消去の選択メッセージ
『メッセージを保存する時は7を消去するときは3を押してください。』
・選択後のメッセージ
『メッセージを保存します』
『メッセージを消去します』

ご注意

メッセージを聞く電話機は、プッシュ信号を送ることができるものを使用してください。

2 不在代行/留守録音(着信代行)サービス

外出・離席など不在のときに内線からかかってきた電話、また、夜間および休日など外線からかかってきた電話に不在を知らせ、メッセージを録音する機能です。

2.1 応答メッセージを録音する

夜間・休日の外線着信に音声メール装置が応対する応答メッセージを録音します。応答メッセージが録音されていない場合は、音声メール装置の固定メッセージで応対します。録音しない留守応答に使う応答メッセージはP. 89をご覧ください。

＜応答メッセージの録音＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

メールボックス

2 応答メッセージ用に使用する［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを押す

- メールボックス番号指定特番「74」+メールボックス番号でも指定できます。
- パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。パスワードを設定していない場合は、手順3のメッセージがアナウンスされます。

『暗証番号を入力してください。』

3 パスワードをダイヤルで入力する

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。

☆未聴取メッセージがある場合、『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合は(#)を押してください。

☆聴取済メッセージがある場合、『保存されたメッセージがXX件あります。サービス番号をどうぞ。』

☆メッセージがない場合、『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

補足

◇フレキシブルキーに新たに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。

◇操作手順2のメールボックス番号は、不在代行のときは、内線番号を、留守番応答のときは、共通メールボックス番号（97：初実装のとき、98：増設のとき）となります。

4 機能種別をダイヤルする

1あ 4た GHI 0わ ：不在代行

1あ 4た GHI 1あ ：着信代行　パターン1

1あ 4た GHI 2か ABC ：着信代行　パターン2

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『応答メッセージを変更します。録音は“ 6 ”を、再生は“ 5 ”を、消去は“ 3 ”を押してください。終了するときは、シャープ（＃）を押してください。』

5 サービス番号「6」(録音)をダイヤルするか、［録音］キーを押す

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『メッセージを録音します。録音を終了するときは、シャープ(＃)を押してください。』
- 録音をはじめる合図、ピー音が聞こえます。

6 受話器からメッセージを録音する

7 「＃」（録音終了）をダイヤルする

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『ピー。録音を終了しました。録音は“ 6 ”を、再生は“ 5 ”を、消去は“ 3 ”を押してください。終了するときは、シャープ(＃)を押してください。』

8 「＃」（登録終了）をダイヤルする

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『サービス番号をどうぞ。』

9 サービス番号「9」(終了)をダイヤルし受話器を戻す

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『終了します。』

ご注意

◇内線個別の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーには、不在代行のメッセージ録音ができます。

◇共通メールボックスの［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーには、着信代行のメッセージ録音ができます。

＜応答メッセージの消去＞

▼操作手順

1 受話器をあげる

メールボックス

2 応答メッセージ用に使用する［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを押す

- メールボックス番号指定特番「74」+メールボックス番号でも指定できます。
- パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。パスワードを設定していない場合は、手順3のメッセージがアナウンスされます。
  『暗証番号を入力してください。』

3 パスワードをダイヤルで入力する

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。
- 未聴取メッセージがある場合、『新しいメッセージがXX件あります。メッセージを再生します。』未聴取メッセージが自動再生されます。停止したい場合はを押してください。
- 聴取済メッセージがある場合、『保存されたメッセージがXX件あります。サービス番号をどうぞ。』
- メッセージがない場合、『メッセージはありません。サービス番号をどうぞ。』

4 機能種別をダイヤルする

1 4 0：不在代行

1 4 1：着信代行　パターン1

1 4 2：着信代行　パターン2

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『応答メッセージを変更します。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ（#）を押してください。』

5 「3」（消去）をダイヤルする

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『消去しました。録音は“6”を、再生は“5”を、消去は“3”を押してください。終了するときは、シャープ(#)を押してください。』

補足

◇フレキシブルキーに新たに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。

◇操作手順2の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーは、不在代行のときは、各内線に対応する［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーです。留守番応答のときは、共通メールボックス用の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーです。

◇操作手順2の説明書きのメールボックス番号は、不在代行のときは、内線番号を、留守番応答のときは、共通メールボックス番号（97：初実装のとき、98：増設のとき）となります。

ご注意

パスワードを設定していない場合は、次の操作4を行ってください。

6「＃」（登録終了）をダイヤルする

- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『サービス番号をどうぞ。』

7 サービス番号「9」(終了)をダイヤルし受話器を戻す

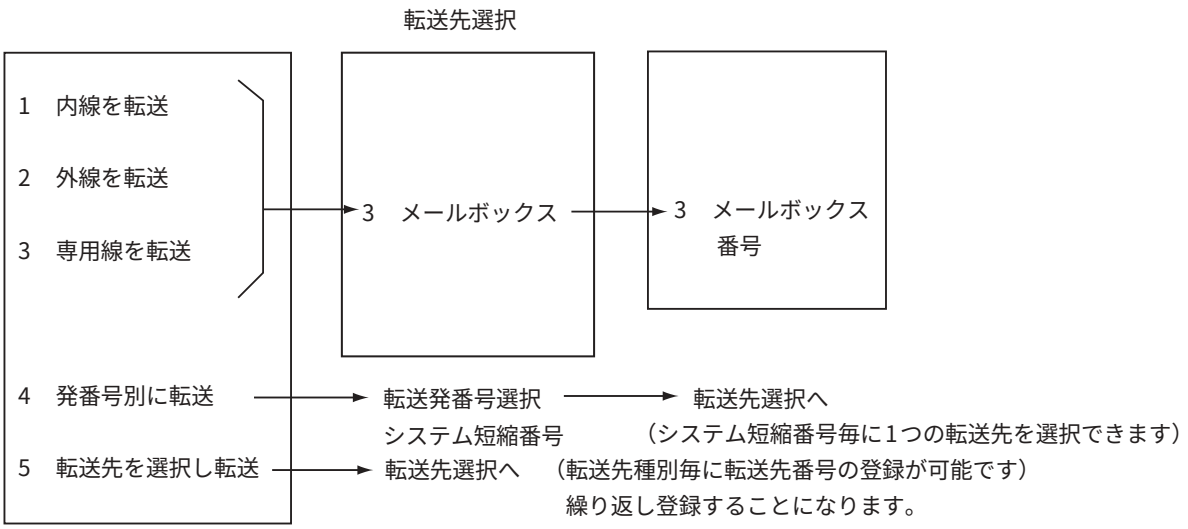
- 受話器から次のメッセージがアナウンスされます。『終了します。』

2.2 外出・離席中にかかってきた電話（個別着信のとき）（不在代行）

外出・離席中にかかってきた内線電話に音声メールが代わって不在であることを知らせ、メッセージがあれば指定のメールボックスに録音してもらうことができます。また、メールボックスに「応答メッセージを録音する」(P.156)で、自作の応答メッセージを録音しておくこともできます。

＜不在代行登録の手順＞

★なにを転送しますか　→　★どこへ転送しますか　→　★相手先番号を決めましょう



＜不在代行の登録＞

不在のときの転送先をメールボックスに設定します。あらかじめ［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに［不在転送］機能を登録しておきます。

★受話器はそのまま（オンフック状態）で登録操作ができます。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

7 まPQRS

2 “７（転送設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ

3 “１（不在転送）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4 △▽キーで何を転送するかを選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ ～ 5 なJKL

1：内線転送　　4：発番号別転送
2：外線転送　　5：選択転送先
3：専用線転送

- 発番号別転送は操作手順9に進みます。
- 選択転送先を選んだ場合は、繰り返し転送先番号の登録が可能です。

3 さDEF

5 “３（ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1 あ 2 かABC 3 さDEF
4 たGHI 5 なJKL 6 はMNO
7 まPQRS 8 やTUV 9 らWXYZ
＊ ゛゜ 0 わをん記号 ＃

6 メールボックス番号をダイヤルする

- 選択転送を選んだ場合は、「選択転送先」に進みます。操作手順5で選択転送先を選んでください。

メニュー 決定

7 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

スピーカ

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

フレキシブルキーに新たに［不在転送］キーを登録するにはP.40を参照してください。

9 システム短縮番号をダイヤルし、[ﾒﾆｭｰ/決定] キーを押す

```
転送発番号選択
短縮No:000
          0123456789
鈴木一郎
```

- △▽キーで検索することもできます。
- 操作手順5に戻ります。

＜不在代行の設定（解除中からの設定）＞

外線／内線の個別着信などに対して音声メールが応答し、応答ガイダンスにより不在であることを通知した後、伝言を録音します。

▼操作手順

不在転送

1 [不在転送] キーを押す

```
                Tel.10
転送ﾓｰﾄﾞ/ﾌｫﾛﾐｰ
```

保 留

2 [保留] キーを押す

- この時点で不在代行サービス状態になります。
- 不在転送ランプは赤点灯します。
- 設定できた場合は「ピー」という音が鳴ります。

スピーカ

3 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

```
                Tel.10
転送登録
```

＜不在代行の解除＞

▼操作手順

不在転送

1 [不在転送] キーを押す

- 不在転送ランプは消灯します。
- 設定解除できた場合は「ピー」という音が鳴ります。

補足

フレキシブルキーに新たに［不在転送］キーを登録するにはP.40を参照してください。

参考

◇代行用メールボックスを「メッセージ通知」に設定しておくと、メッセージが入った場合、自動的にポケベルなどを呼び出すことができます。

◇応答ガイダンスの切替は、P.163を参照してください。

◇応答メッセージ後に、メッセージを録音するかしないかを「不在代行と着信代行で録音するか、しないかを設定」（P.164）で設定できます。

◇不在代行により音声メールに接続したとき、音声メールのメッセージが満杯の場合、応答メッセージ送出後、外線を切断します。

◇独自の応答メッセージが録音されている場合は、その独自の応答メッセージをアナウンスします。

◇音声メールの録音時間が無くなった場合、『ピー。録音を終了しました。』をアナウンスし録音を終了し外線を切断します。

◇外線を切断する前に、切断予告音（ピーピー）を送出します。

2.3 夜間・休日にかかってきた電話（夜間切替のとき）（着信代行）

夜間・休日の外線着信を音声メールで応答することができます。応答するメッセージは「応答メッセージを録音する」(P.156)であらかじめ録音しておきます。登録をしていない場合は、音声メールの固定メッセージで応答します。固定メッセージには2種類あり、選ぶことができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

＜着信代行の設定（解除中からの設定）＞

外線からの着信を音声メールが応答し、応答ガイダンスにより留守であることを知らせた後、メッセージを録音することができます。メッセージを録音できるメールボックスは、共通メールボックス（97：初実装のとき、98：増設のとき）です。

▼操作手順

夜間切替

1 ［夜間切替］キーを押す

- この時点で着信代行状態になります。
- 「ピー」音が鳴り夜間切替ランプは赤点灯します。

補足

フレキシブルキーに［夜間切替］キーを登録するにはP.40を参照してください。

＜着信代行の解除＞

▼操作手順

夜間切替

1 ［夜間切替］キーを押す

- 夜間切替ランプは消灯します。

ご注意

◇この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
◇着信代行を行うためには、着信形式をメール代行に設定する必要があります。

＜応答ガイダンス（固定）＞

(1) 用件を録音する場合

機能種別名	ダイヤル番号	ガイダンス内容
パターン1（不在系）	0（わをん記号）	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、ただいま不在です。メッセージを承ります。ピーという音の後に、お名前とご用件をお話ください。ピー。』
パターン2（夜間系）	1（あ）	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという音の後に、お名前とご用件をお話ください。ピー。』

(2) 用件を録音しない場合

機能種別名	ダイヤル番号	ガイダンス内容
パターン1（不在系）	0（わをん記号）	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、ただいま不在です。後程お電話いただきますようお願いいたします。』
パターン2（夜間系）	1（あ）	『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。後程お電話いただきますようお願いいたします。』

＜応答ガイダンスの切替＞

外線からの着信に音声メールが応答しますが、応答ガイダンスには「パターン1」と「パターン2」の２種類のタイプがあります。この切替には、[ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替] キーを使用します。

▼操作手順

ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替

1 [ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替] キーを押す

- 現在設定してあるガイダンスのタイプ番号を表示します。
  応答ガイダンスが「パターン１」に設定されている場合：

```
              Tel.10
ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ ｷﾘｶｴ        0
```

応答ガイダンスが「パターン2」に設定されている場合：

```
              Tel.10
ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ ｷﾘｶｴ        1
```

0（わをん記号）
または
1（あ）

2 応答メッセージ番号“ 0 ”または“ 1 ”をダイヤルする

- ダイヤルした応答ガイダンス番号に表示が切り替わります。
- 設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。

スピーカ

3 [ｽﾋﾟｰｶ] キーを押す

補 足

フレキシブルキーに[ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ切替] キーを登録するにはP.40を参照してください。

参考

◇外線着信代行により音声メールに接続したとき、音声メールのメッセージが満杯の場合、応答メッセージと切断予告音「ピーピー」を送出後、外線を切断します。
◇応答メッセージ後に、メッセージを録音するかしないかを、「不在代行、着信代行で録音するか、しないかを設定」(P.164)で設定できます。
◇音声メールの録音時間が無くなった場合、『ピー。録音が終了しました。』をアナウンスし録音を終了し、切断予告音「ピーピー」を送出後、外線を切断します。
◇独自の応答メッセージが録音されている場合は、その独自の応答メッセージをアナウンスします。
◇音声メールが塞がっているときは初期設定では、切断となります。設定変更により一般着信となり、音声メールが空き次第応答メッセージの送出となります。詳しくは、販売店にご相談ください。

＜不在代行・着信代行で録音するか、しないかを設定＞

不在代行・着信代行サービスで着信したとき、応答ガイダンスで「不在」または「業務終了」を知らせるだけにするのか、伝言を録音するのかを設定します。システムでどちらかに設定することになります。（初期設定は、「録音する」です。）

▼操作手順

保留

1 ［保留］キーを押す

内線

2 ［内線］キーを押す

```
ｵﾝﾗｲﾝﾃﾞｰﾀ ｾｯﾃｲ
ﾃﾞｰﾀﾊﾞﾝｺﾞｳ>---
```

4 GHI　7 PQRS　0 わをん 記号

3 データ番号“ 470 ”をダイヤルする

4 キーを3回押す

0 わをん 記号
または
1 あ

5 “ 0 ”または“ 1 ”(不在代行)をダイヤルする

0：録音しない
1：録音する

初期設定は、“ 1 ”(録音する)になっています。

6 キーを押す

- 設定を変更したとき、設定が正常にできた場合は「ピー」と鳴ります。

0 わをん 記号
または
1 あ

7 “ 0 ”または“ 1 ”(外線着信代行)をダイヤルする

0：録音しない
1：録音する

初期設定は、“ 1 ”(録音する)になっています。

8 キーを押す

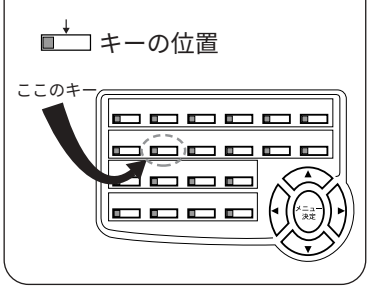
- 設定を変更したとき、設定が正常にできた場合は「ピー」と鳴ります。

スピーカ

9 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

キーの位置



メモ

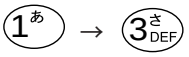
不在代行を録音するか、しないかの設定を変更すると、システム全体（全部の電話機）の変更となります。

3 メールサービスの便利な使い方

3.1 他の人にメッセージを転送する

あなたのメールボックスに入っているメッセージを、他の人のメールボックスに転送することができます。メッセージ検索中も同じ操作でメッセージを転送できます。

▼操作手順



1 メッセージ再生中に“ 1 ”、“ 3 ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを転送します。転送先メールボックス番号を入力してください。』

2 転送先の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを押すかメールボックス番号をダイヤルする

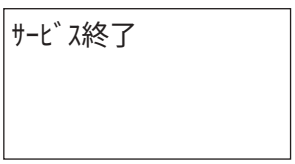
- 次のメッセージがアナウンスされます。『転送してよければ、シャープ(＃)を押してください。』

3 “ ＃ ”をダイヤルする

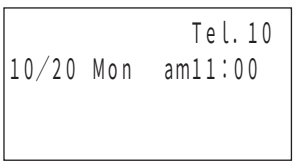
- 次のメッセージがアナウンスされます。『メッセージを転送しました。』
  『サービス番号をどうぞ。』

4 サービス番号“ 9 ”(終了)をダイヤルし、受話器を戻す

- 『終了します。』のアナウンスがあり、この操作を終了します。



↓



補足

フレキシブルキーに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。

ご注意

初期実装されている音声メール装置と増設した音声メール装置をまたがるメールボックスへのメッセージ転送はできません。

3.2 外出先からメッセージを聞き出す

メールボックスにメッセージが入ったことをメッセージ通知で知ることができます。メッセージ通知を受けるには、「メッセージを外線に通知する」(P.152)を参照してください。

＜音声メールに直接電話する＞

▼操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  例、「着信代行」で固定メッセージの場合
  『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

(#)

2 メッセージ再生中に“＃”をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『サービス番号をどうぞ』

(#)

3 “＃”(自分のメールボックス利用)をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『メールボックス番号を入力してください。』

(1)(2)(3)
(4)(5)(6)
(7)(8)(9)
(*)(0)(#)

4 あなたのメールボックス番号を押す

- パスワードを設定している場合は、次のメッセージがアナウンスされます。パスワードを設定していない場合は、手順5のメッセージがアナウンスされます。
  『暗証番号を入力してください。』

(1)(2)(3)
(4)(5)(6)
(7)(8)(9)
(*)(0)(#)

5 パスワードをダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。『新しいメッセージが××件あります。メッセージを再生します。』
- メッセージが自動再生します。
- 未聴取メッセージがなくなったとき次のメッセージがアナウンスされます。
  『サービス番号をどうぞ。』

(9)

6 サービス番号“9”(終了)をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『終了します。』『サービス番号をどうぞ。』

7 受話器を戻す

- 携帯電話の場合は、「切」キーを押します。

ご注意

◇メッセージを聞き出す電話機は、PB信号を送出する電話機でなければ聞き出すことはできません。
◇音声メールに直接電話をかけられるのは、「着信代行」又は「不在代行」を設定している場合にかぎられます。

補足

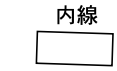
◇内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
　97：初実装のとき
　98：増設のとき
◇メールボックス番号入力中に“＊”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

＜外線を音声メールへ転送する＞

外線着信に内線が応答した後、音声メールに転送することができます。

▼操作手順

1 外出先からの電話を内線が応答する
- 応答した人に音声メールへの転送を依頼する。



2 ［内線］キーを押す
- 相手にメール転送することを伝え［内線］キーを押す。

3 メール転送特番（71）をダイヤルする
- 音声メールと接続され、外線側の人には次のメッセージがアナウンスされます。
  『サービス番号をどうぞ。』

4 受話器を戻す

補足

音声メールが塞がっている、あるいは録音満杯の場合は、内線に話中音「プープー」が返ります。［内線］キーを押す、あるいは切断後の呼び返しに応答することにより、元の外線通話に戻れます。

＜メッセージを聞いた後、内線に接続する(内線呼出)＞

メールボックスのメッセージを聞いた後、内線を呼び出すことができます。

▼操作手順

1 メッセージ終了後または再生中に“９”をダイヤルする
- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『終了します。』
  『サービス番号をどうぞ。』

2 内線番号をダイヤルする
- 相手が応答すると、通話ができます。

3.3 外出先からメッセージを録音する

外出先からメールボックスを指定してメッセージを録音することができます。

＜代行応答中から録音する(外線メールサービス中伝言録音)＞

▼操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  例、「着信代行」で固定メッセージの場合
  『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

(#) **2** メッセージ再生中に“ ＃ ”をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『サービス番号をどうぞ』

(＊) **3** アナウンス中に“ ＊ ”(伝言録音)をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。
  『メッセージを録音します。転送先メールボックス番号を入力してください。』

(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)(＊)(0)(#) **4** メールボックス番号をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。
  『メッセージをどうぞ。ピー。』

★録音をはじめる合図、ピー音が聞こえたら受話器からメッセージを録音します。
★メールボックス番号を間違えた場合は、『転送先メールボックス番号を入力してください。』のアナウンスがありますので、正しいメールボックス番号を再入力してください。

録音終了時 (#) **5** 録音を終了する場合は、“ ＃ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。
  『ピー。メッセージを転送しました。サービス番号をどうぞ。』

録音取消時 (＊) 録音を取消す場合は、“ ＊ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。
  『メッセージを消去しました。』

6 受話器を戻す

ご注意

◇外出先からメッセージを録音するためには、PB信号を送出する電話機でなければ、このサービスは受けられません。
◇音声メールに直接電話をかけられるのは、「着信代行」または「不在代行」を設定している場合にかぎられます。

補足

◇内線メールボックスのメールボックス番号は1～4桁。共通メールボックス番号は
　97：初実装のとき
　98：増設のとき
◇メールボックス番号入力中に“ ＊ ”をダイヤルすると、指定途中のメールボックス番号はクリアされます。

＜通話中から録音する(録音転送)＞

外線着信に内線が応答した後、外線を音声メールに転送して、メッセージを録音することができます。

▼操作手順

■ 内線側

内線

1 外線と通話中の内線で、録音転送することを通話中の相手に伝え［内線］キーを押す

メールボックス

2 録音先の［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを押す

- 外線が音声メールに転送され、外線に次のメッセージがアナウンスされます。
  操作した内線には“ ププププ・・・ ”音が聴こえます。『メッセージをどうぞ。ピー。』

3 受話器を戻す

■ 外線側

録音終了時

1 録音を終了する場合は、“ ＃ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『ピー。メッセージを転送しました。終了します。ピーピー』

録音取消時

録音を取消す場合は、“ ＊ ”をダイヤルする

- 次のメッセージが受話器からアナウンスされます。『メッセージを消去しました。終了します。ピーピー』

2 受話器を戻す

補足

◇音声メールが塞がっている、あるいは録音満杯の場合は、内線に話中音「プープー」が返ります。［内線］キーを押す、あるいは切断後の呼び返しに応答することにより、元の外線通話に戻れます。

◇［ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ］キーに新たに［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを登録するにはP.46を参照してください。

ご注意

［ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ］キーを割付けていないメールボックスへの録音転送はできません。

3.4 外出先から内線を呼び出して通話する

外出先から内線番号を指定し、呼び出して通話することができます。

＜代行応答中から内線を呼び出す（内線呼出サービス）＞

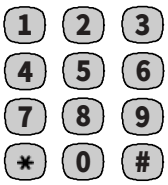
▼操作手順

1 「着信代行」「不在代行」中の電話番号へ電話をかける

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  例、固定メッセージの場合
  『お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを受け承ります。ピーという音のあとにお名前と用件をお話しください。』

2 メッセージ再生中に“＃”をダイヤルする

- 次のメッセージがアナウンスされます。
  『サービス番号をどうぞ』



3 内線番号をダイヤルする

- 受話器から「プルルルー」と相手を呼び出す音が聞こえます。

相手が応答すると、通話できます。

4 受話器を戻す

ご注意

内線呼出時、下記操作は行えません。
・呼出先内線への音声呼出
・代理応答

3.5 外出先からいろいろな設定を変更する（PB保守）

外出先からメッセージ録音通知の設定と解除や不在代行の設定と解除をすることができます。この機能を使うには、外線を留守PB応答の状態にしておく必要があります。（詳しくは、販売店にご相談ください。）また、この機能を使う時に使用する電話機は、プッシュ信号を出力できる電話機に限ります。

＜メッセージ録音通知の設定と解除＞

▼操作手順

1 外出先から会社に電話をかける
- 留守応答メッセージが受話器からアナウンスされます。

9 2

2 PB保守特番“ 92 ”をダイヤルする

1 2 3 4

3 暗証番号“ 1234 ”をダイヤルする
- 受話器から『ピー』という音が聞こえます。
- 暗証番号の初期値は1234です。変更している場合は、販売店にお聞きください。（省略させることもできます。）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #

4 自分の内線番号をダイヤルする

0

5 メッセージ録音通知変更モード“ 0 ”をダイヤルする

1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #

6 メッセージ録音通知の設定、解除を行うメールボックス番号（内線番号）をダイヤルする
- 自分のメールボックスを変更する場合は省略できます。

ご注意

◇留守応答メッセージの録音は、P.89を参照してください。
◇この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

(#) または (＊)

7 設定“ ＃ ”または“ ＊ ”の指示をダイヤルする

- “ ＃ ”をダイヤルするとメッセージ録音通知の設定、“ ＊ ”をダイヤルするとメッセージ録音通知の解除になります。
- 設定解除できた場合は「ピー」と鳴ります。

(9)

8 “ 9 ”をダイヤルする

9 受話器を戻す

＜不在代行の設定と解除＞

▼操作手順

1 外出先から会社に電話をかける

- 留守応答メッセージが受話器からアナウンスされます。

(9) (2)

2 PB保守特番“ 92 ”をダイヤルする

(1) (2) (3) (4)

3 暗証番号“ 1234 ”をダイヤルする

- 受話器から『ピー』という音が聞こえます。
- 暗証番号の初期設定は1234です。変更している場合は、販売店にお聞きください。

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (＊) (0) (#)

4 自分の内線番号をダイヤルする

(4)

5 不在代行変更モード“ 4 ”をダイヤルする

ご注意

◇留守応答メッセージの録音はP.89「応答メッセージを録音するには」を参照してください。

◇この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。

#
または
*

6 設定“ ＃ ”または“ ＊ ”の指示をダイヤルする

- “ ＃ ”をダイヤルすると不在代行の設定、“ ＊ ”をダイヤルすると不在代行は解除されます。
- 設定解除できた場合は「ピー」と鳴ります。

9

7 “ 9 ”をダイヤルする

8 受話器を戻す

第8章

ご参考に

1　VoIP（FoIP）/LAN専用線収容 ……176
2　VoIP専用線を使ってFAXを送信する ……177
3　通話料金の管理……179
4　周辺機器との接続……182
5　ISDN回線の利用 ……189
フレキシブルキー機能一覧表……193
転送に関する用語……195
索引 ……196
故障かな？とお考えになる前に……198

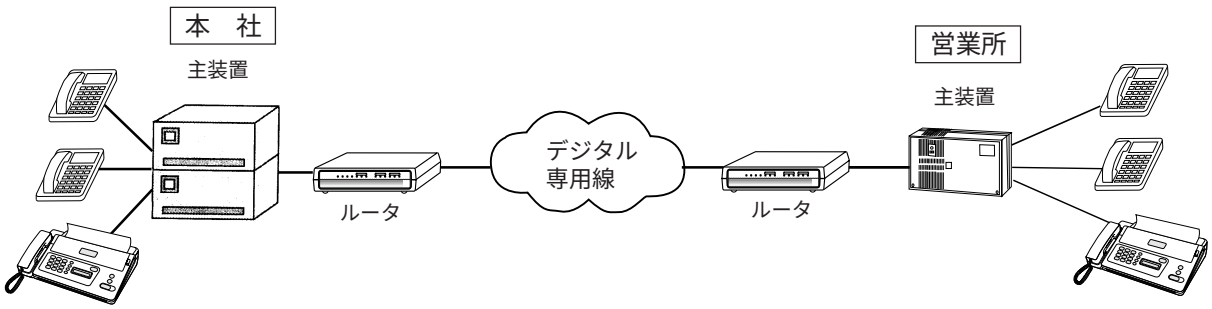
1 VoIP（FoIP）専用線収容

VoIP機能とは

VoIP（Voice over Internet Protocol）は、音声をパケット化し、データ系ネットワークで電話が利用できるデジタル通信技術です。

本システムはVoIP機能（FoIP機能）に対応することで既存の社内LANを構築しているIPネットワーク上で音声通話（FAX通信）を実現し、音声系ネットワークとデータ系ネットワークを統合するシステムです。

[構成例]



本システムにVoIP（FoIP）専用ユニットを収容し、専用線等にて構成された本支社間のIPネットワーク上でデータと音声通話（FAX通信）を同時に行うことにより本支社間の通話を内線電話のように使用することが出来、通信コストの大幅な削減が可能となります。

ご注意
◇専用線等でのIPネットワークの構築にはルータが必要です。
◇この機能を利用したいときは、販売店にご相談ください。

2 VoIP専用線を使用してFAXを送信する

VoIP専用線を使用してFAXを送信および転送することができます。

ご注意

この機能を利用したいときは、販売店にご相談ください。

2.1 FAXを送信する

VoIP専用線を使用してFAXを送信します。

▼操作手順

1 受話器をあげる

2 FAX発信特番をダイヤルする

3 VoIP専用線閉番号をダイヤルする
（相手のFAX内線番号）

補 足

◇Super G3-FAXには対応していません。
◇Super G3-FAXを収容するときは、モードをG3に固定してお使いください。
◇VoIP専用線閉番号を設定していない場合は、操作番号2、3のかわりに、
①VoIP専用線捕捉特番をダイヤル
②「事業所番号」をダイヤル
③「FAX発信特番」をダイヤル
④相手の「FAX内線番号」をダイヤル
してください。

2.2 FAXを転送する

届いたFAXをVoIP専用線を使用して転送します。

▼操作手順

1 着信応答したとき、FAXのキャリア音がする

内線

2 ［内線］キーを押す

3 FAX発信特番をダイヤルする

4 VoIP専用線閉番号をダイヤルする
（相手のFAX内線番号）

5 相手FAXが応答する

6 受話器を戻す

補足

VoIP専用線閉番号を設定していない場合は、操作番号3、4のかわりに、
①VoIP専用線捕捉特番をダイヤル
②「事業所番号」をダイヤル
③「FAX発信特番」をダイヤル
④相手の「FAX内線番号」をダイヤル
してください。

3 通話料金の管理

3.1 度数・通話時間・料金の表示について

＜度数表示＞

外線発信のとき度数（通話単位時間とその料金）表示は、相手応答後すぐに表示します。

- LCDディスプレイの1段目には残り予算と内線番号を、2段目には通話単位時間とその料金を表示します。

```
5000円  Tel.10
180sec  →  10円
```

＜通話時間と料金表示＞

度数表示の10秒後に料金表示をはじめ、通話時間と通話料金を刻々表示します。

- LCDディスプレイの1段目には残り予算と内線番号を、2段目には通話料金と通話時間を分・秒単位で表示します。

```
5000円  Tel.10
  10円   1分58秒
```

補足

国内発信認識番号、国際発信認識番号と登録されている識別番号で発信した番号は、目安料金を表示します。

参考

通話料金は表示無しとすることもできます。販売店にご相談ください。

ご注意

◇システム短縮発信した場合通話時間、通話料金は表示されません。
◇表示するためにはデータ設定が必要です。

3.2 通話料金を集計表示する

外線、内線、予算管理グループごとに通話料金の実績と予算額、予算残高を集計表示できます。（表示された金額には、消費税が含まれています。）

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “８（その他設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

3 “３（料金管理）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

4 “１（料金確認）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

5 集計単位を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 6は MNO

- 集計単位

1：内線	4：予算グループ
2：外線	5：システム
3：専用線方路	6：キャリア

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊゛ 0わ を ん 記号 ＃

メニュー 決定

6 指定番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 例えば、内線を選択した場合は内線番号をダイヤルします。

```
料金確認
内線10
今日：        20500円
昨日：         3000円
```

スピーカ

7 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇操作手順1～3の代りに［料金］キーまたは［内線料金］キーを押すことでもできます。

◇［料金］キーまたは［内線料金］キーを登録するには、P.40を参照してください。

◇料金確認を繰り返し行うには、［戻る/削除］キーを押します。
1回押すと、操作手順6へ
2回押すと、操作手順5へ戻ります。

＜予算を設定する＞

予算の設定と追加は、システム管理電話機で行います。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “８（その他設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

3 “３（料金管理）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

4 “３（予算登録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ

または

2か ABC

5 “１（新規予算登録）”または“２（追加予算登録）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ ｰ･ 0わ をん 記号 ＃

6 登録先グループをダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー 決定

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊ ｰ･ 0わ をん 記号 ＃

7 金額をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

```
新規予算登録
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 01

予算:              円
```

```
追加予算登録
ｸﾞﾙｰﾌﾟ 00
残高:        18550円
追加:              円
```

メニュー 決定

スピーカ

8 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇操作手順1～3の代りに［料金］キーまたは［内線料金］キーを押すことでもできます。
◇［料金］キーまたは［内線料金］キーを登録するには、P.40を参照してください。
◇操作手順6で個別登録の場合は内線番号を入力します。
◇予算管理は、グループ管理または個別管理となります。
◇予算を設定するにはシステムでの設定が必要となりますので変更のときは販売店にご相談ください。

4 周辺機器との接続

4.1 ファクシミリとの接続

ファクシミリとの接続は、販売店にご相談ください。

＜ファクシミリ手動転送＞

FAXを内線で受けた場合、手動でFAXに転送できます。

▼操作手順

着信応答したとき、FAXのキャリア音がする

1 ［FAX］キーを押す

2 受話器を戻す

補 足

◇フレキシブルキーに［FAX］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇VoIP専用線を使用してFAXを転送する場合は、P.177「VoIP専用線を使用してFAXを送信する」を参照してください。

ご注意

FAXの機種によっては、操作手順1のあと、すぐに操作手順2を行うと保留呼び返しとなる場合があります。

＜ファクシミリ状況表示＞

FAXランプでファクシミリに受信原稿があることを知ることができます。
ファクシミリ受信中は、ランプが赤点灯します。通信が終了すると、ランプは緑点滅に変わります。

4.2 構内放送装置との接続

＜構内放送するには＞

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。構内放送との接続は、販売店にご相談ください。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 構内放送特番をダイヤルする
- 初期値は“＊”、“9”です。

補 足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

3 “１”をダイヤルする
- チャイム音が流れます。

4 受話器で呼びかける
- たとえば「池田さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声が流れます。
- 相手が応答すると通話ができます。

5 放送を終わるときは、受話器を戻す

補足

放送特番と装置番号を［ﾜﾝﾀｯﾁﾀﾞｲﾔﾙ］に登録できます。応答も同様に登録できます。（内線番号を登録する手順と同じです。）

＜構内放送で呼出しを受けたとき＞

構内放送の呼出し（放送結合呼出し応答）を電話機で受けられます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 構内放送特番をダイヤルする
- 初期値は“＃”、“９”です。

3 “１”をダイヤルする
- 構内放送した人とつながり、通話できます。

4 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

＜外線やドアホンからの着信時、構内放送から鳴動音を送出＞

外線やドアホンから着信があった場合、構内放送装置から鳴動音が送出します。

補足

◇この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
◇構内放送から鳴動音を送出中に放送呼出しがあった場合は、放送呼出しを優先します。

4.3 ドアホンとの接続

ドアホンとの接続は、販売店にご相談ください。

＜ドアホンの呼出しに応答する＞（ドアホン着信応答）

ドアホンの呼出しを電話機で受けられます。

▼操作手順

ドアホンの着信音「ﾋﾟｰﾝﾎﾟｰﾝ」と鳴る

1 受話器をあげる、またはランプが点滅している［ﾄﾞｱﾎﾝ］キーを押す
- 通話ができる状態になります。

2 通話終了後、受話器を戻す

＜ドアホンで外の音声を聞く＞（ドアホンモニタ）

ドアホンを外部モニタ装置として使用することができます。

▼操作手順

1 ［ﾄﾞｱﾎﾝ］キーを押す
- 外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

2 モニタ終了後、［ﾄﾞｱﾎﾝ］キーを押す

＜ドアホンを呼出す＞（ドアホン呼出し）

ドアホンで扉の外の人に声をかけることができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ［ﾄﾞｱﾎﾝ］キーを押す

3 相手に呼びかける
- 扉の外の人とドアホンで通話できます。

4 通話終了後、受話器を戻す

補足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

参考

ドアホンは4台まで接続できます。

4.4 プリンタとの接続

＜課金情報の出力＞

全電話機または、全グループごとに通話料金をプリンタで印字することができます。
プリンタとの接続については、販売店にご相談ください。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “ 8（その他設定）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

3 “ 3（料金管理）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

2か ABC

4 “ 2（料金出力）” を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 7ま PQRS

5 料金出力項目を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

- 料金出力項目
  1：内線　　5：システム
  2：外線　　6：キャリア
  3：専用線方路　7：月定時再印字
  4：予算グループ

6 印字種別を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

印字種別
1あ ， 2か ABC
内線の場合
1あ ～ 3さ DEF

- 印字種別
  1：今月　2：先月
  内線の場合は、
  1：今日　2：今月　3：先月　となります。
- 印字を始めます。

スピーカ

7 印字が終わったら［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇操作手順1～3の代りに［料金］キーまたは［内線料金］キーを押すことでもできます。
◇［料金］キーまたは［内線料金］キーを登録するには、P.40を参照してください。

印字例

```
＊ ｽﾞｲｼﾞ　サクヒョウ（センｹﾞﾂ）＊
03／10／20　15：53
＊ ナイセン ＊
タンマツ　01．3：20　ヤマモト
    ｸﾞﾙｰﾌﾟ：              00
      コクナイ：          ￥1870
    ｾﾞｲｷﾝ：               ￥94
      コクサイ：            ￥0
    ｺﾞｳｹｲ：            ￥1964

タンマツ　01．4：21　ヨシﾀﾞ
    ｸﾞﾙｰﾌﾟ：              00
      コクナイ：          ￥30
    ｾﾞｲｷﾝ：                ￥2
      コクサイ：            ￥0
    ｺﾞｳｹｲ：              ￥32
```

＜内線ごとの料金出力＞

内線ごとの料金を集計し、出力することができます。

▼操作手順

メニュー 決定

1 ［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

8や TUV

2 “８（その他設定）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

3さ DEF

3 “３（料金管理）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

4た GHI

4 “４（内線料金出力）”を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ 2か ABC 3さ DEF
4た GHI 5な JKL 6は MNO
7ま PQRS 8や TUV 9ら WXYZ
＊゛゜ 0わ を ん 記号 ＃

5 内線番号をダイヤルし、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

メニュー 決定

6 印字項目を選び、［ﾒﾆｭｰ/決定］キーを押す

1あ ～ 4た GHI

1：印字／リセット　　3：印字のみ
2：リセットのみ　　4：再印字

スピーカ

7 印字が終わったら［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

補足

◇この操作は、システム管理電話機から行います。
◇操作手順6の印字項目を説明します。
1：印字/リセット
印字をしたあと、指定内線の通話料金をクリアします。
2：印字のみ
印字をしたあとも通話料金はそのまま残ります。
3：リセットのみ
通話料金をクリアします。
4：再印字
誤って通話料金をクリアした場合でも、クリア直前の情報は、再印字できます。
◇操作手順1～3の代りに［料金］キーまたは［内線料金］キーを押すことでもできます。
◇［料金］キーまたは［内線料金］キーを登録するには、P.40を参照してください。

4.5 ヘッドセットとの接続

ヘッドセットを接続すると、受話器をあげずに応答することができます。

＜ヘッドセットの接続＞

▼操作手順

1 ハンドセットをヘッドセットに差し替える

▲ ＋ ▼

2 Vol.の［△］と［▽］キーを順に押したまま“４”をダイヤルする

4 た GHI

3 ヘッドセットモードを選択する

ハンドセットモード ▲

- ［△］キーを押すとハンドセットモードになります。

  ```
  HANDSET  MODE
  ```

ヘッドセットモード ▼

- ［▽］キーを押すとヘッドセットモードになります。

  ```
  HEADSET  MODE
  ```

ご注意

ヘッドセットモードでご使用のときは、ハンドセットは所定の位置（オンフック状態）に置いておいてください。

＜電話のかけかた＞

▼操作手順

スピーカ

1 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

- スピーカランプは赤点灯します。

あとは、通常の電話のかけかたと同じです。

スピーカ

2 通話終了後は、［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

- スピーカランプは消灯します。

＜電話の受けかた＞

▼操作手順

応答

または

外線

1 着信音が鳴ったら、［応答］キーか［外線］キーを押す

- 通話できる状態になります。
- スピーカランプは赤点灯します。

スピーカ

2 通話終了後は、［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

- スピーカランプは消灯します。

4.6 「IP電話サービス」に対応

ADSL等のブロードバンド回線をシステムに収容し、定額料金で安価な「IP電話」として使うと同時に、インターネットもできます。
ADSL回線の収容については、販売店にご相談ください。

4.7 外部保留音との接続

保留中に相手に送る保留音を市販の外部装置を接続し使うことができます。
外部装置との接続については、販売店にご相談ください。

4.8 単独電話機との接続

市販の単独電話機、留守番電話機、コードレス電話機、ファクシミリを接続することができます。
電話機との接続については、販売店にご相談ください。

4.9 高音量ベルとの接続

騒音の大きい場所でお使いの場合、高音量ベルを接続して着信音や音声呼出しを高音量ベルのスピーカから聞くことができます。高音量ベルとの接続については、販売店にご相談ください。

4.10 留守録音装置または留守番電話機との接続

市販の録音装置を接続し、留守モードへ切替えたとき、指定外線を自動的に録音することができます。留守録音装置との接続にていては、販売店にご相談ください。

5 ISDN回線の利用

5.1 ISDN回線への発信

＜普通にかけるには＞

一般の電話回線とほぼ同じですが、相手の電話番号の次に「＃」をダイヤルします。

▼操作手順

1 受話器を上げる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線

2 外線ランプが消えている、ISDN回線の［外線］を押す
- 外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
- 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする

4 ［＃］をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。
- ［＃］をダイヤルしない場合は、一定の時間のあとダイヤル発信します。

5 通話終了後、受話器を戻す
- 外線ランプは消灯します。

補足

◇操作手順3でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできます。
◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）で、ISDN回線を指定して発信するには、操作手順1と2の順序を逆に操作します。
◇オフフック外線自動捕捉の機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

＜直通内線電話機にかける＞（着サブアドレス付加発信）

電話番号の後に、着サブアドレス（内線電話番号に相当）を付加して発信することができます。

▼操作手順

1 受話器をあげる
- 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

外線

2 外線ランプが消えている、ISDN回線の［外線］を押す
- 外線とつながり発信音は「ツー」に変わります。

● 外線ランプは緑点灯し、他の電話機の外線ランプは赤点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルする

4 “ ＊ ”をダイヤルする

5 着サブアドレスをダイヤルする

6 “ ＃ ”をダイヤルする

相手が応答すると、通話ができます。

● ［#］をダイヤルしない場合は、一定の時間のあとダイヤル発信します。

7 通話終了後、受話器を戻す

● 外線ランプは消灯します。

補 足

◇操作手順3でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできますが、それぞれの電話番号の後ろに“ ＊ ”、着サブアドレスを登録しておく必要があります。その場合、操作手順4～6を省略できます。

◇受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）で、ISDN回線を指定して発信するには、操作手順1と2の順序を逆に操作します。
オフフック外線自動捕捉の機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

5.2 ISDN回線からの着信

＜普通に受ける＞（任意外線応答）

普通の電話回線と同じ操作で電話を受けることができます。ディスプレイに相手の電話番号が表示されます。［応答］キーで外線に応答できます。

▼操作手順

外線着信音「プルルー」が鳴ります。

● かかってきた外線の外線ランプは赤点滅します。

1 受話器をあげる

● 受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ［応答］キーまたは、点滅している［外線］キーを押す

● 通話ができる状態になります。

● 外線ランプは緑点灯に変わります。

3 通話終了後、受話器を戻す

● 外線ランプは消灯します。

補 足

受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定の場合は、操作手順1と2の順序を逆に操作します。
この機能を使用する場合は、データ設定が必要です。販売店にご相談ください。

＜サブアドレス表示の受けかた＞（着サブアドレスDID）

着サブアドレス付加発信などで電話をかけてきた場合は、受話器をあげるだけで電話をうけることができます。

▼操作手順

外線着信音「プルプルプル」が鳴ります。

- かけてきた人の発信者名称を登録していた場合は発信者名称を、ネームディスプレイ情報を受信した場合はネームディスプレイ情報をLCDディスプレイの4段目に表示します。

```
              DID  01
10/20 Mon  pm 3:30
          0123456789
            鈴木一郎
```

- かかってきた外線の外線ランプは橙点滅します。

1 受話器をあげる

- 通話ができる状態になります。
- 外線ランプは緑点灯に変わります。

2 通話終了後、受話器を戻す

- 外線ランプは消灯します。

5.3 ISDN回線または［MSA］キーの使用制限について

一時的にISDN回線の使用制限または、［MSA］キーの使用制限をすることができます。設定については、販売店にご相談ください。

＜登録＞

▼操作手順

受話器を置いたまま操作します。

回線制限

1 ［回線制限］キーを押す

外線
または
MSA

2 ［外線］キーまたは［MSA］キーを押す

- 使用制限中の外線/MSAランプは橙点滅します。
- 続けて登録するときは、操作手順2を繰り返します。

スピーカ

3 ［ｽﾋﾟｰｶ］キーを押す

＜解除＞

- 登録と同じ操作です。
- 解除すると外線/MSAランプは消灯します。

補足

◇アナログ回線、VoIP専用線は登録できません。
◇フレキシブルキーに［回線制限］キーを登録するには、P.40「フレキシブルキーに機能を割り付ける」を参照してください。
◇アナログ回線でMSAの場合MSAを制限してもダイヤルイン以外での着信は拒否できません。着信テナント内の一般着信となります。

5.4 ISDN回線で回線ごとに着信拒否するには（回線ごと着信拒否指定）

ISDN回線の場合、回線ごとに着信を拒否するかどうかを指定することができます。

ご注意

着信拒否を指定した回線は、発信専用回線になります。
この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

フレキシブルキー　機能一覧表

No.	機　能	機　能　概　要	参照頁
01	リダイヤル	最後にかけた相手(電話番号)に再度電話をかけるときに使います。	62, 65
02	オートリピート	かけ直しを繰り返す時(相手が話中の場合、かけ直しを自動的に15回までできます。)	65
03	ダイヤルメモリ	通話中(または通話中でなくても可)電話番号を登録できます。また、[ﾀﾞｲﾔﾙﾒﾓﾘ]キーを使って発信もできます。	66
04	短縮ダイヤル	システム短縮ダイヤルに登録した電話番号を短縮番号から発信するときに使います。	54, 95
05	代理応答	内線グループ内の別の電話にかかってきた内線/外線着信を受けることができます。	79
06	秘話解除/会議	会議通話(最大4者)、または秘話解除による会議参加（最大4者)に使います。	117
07	夜間切替	昼/夜モード切替、不在・留守時に留守録音、または応答メッセージで不在をお知らせします。	88, 162
08	集中着信	外線着信をグループ分けに関係なく1台の電話機で応答することができます。(DIL、サブアドレス等の個別着信を除く)	91
09	外線転送	外線からの着信を他の外線へ転送するときに使います。[外線転送]キーを複数作り「追いかけ転送」にも使います。	93, 99 102
10	自己保留	保留した電話機のみ保留の解除ができます。	82, 141
11	不在設定	不在設定中の内線にかけると発信側の電話機に不在/外出/会議を表示させることができます。	103
12	PB信号	ダイヤル回線でも、PB信号が送れます。プッシュホンサービス利用時などに利用します。	126
13	予約	外線の空きがない場合、または内線呼出の相手先が通話中の場合、予約により外線、または相手先の内線が空き次第電話をかけられることを知らせる呼出音が鳴ります。	68, 76
15	不在転送	(離席時等の場合)、着信があった場合登録されている内線/外線に自動的に転送されます。音声メール（VMU)と併せて利用も可能です。	104, 161
16	ACR停止	ACR発信(システムで設定へ最優先NCC契約回線を指定)の停止をします。	57
17	クラス切替	内線グループに対して8段階で発信規制をかけます。	――
18	指定代理応答	他の内線グループにかかってきた電話を受けることができます。	79
19	着信ウェイト	通話中に別の外線着信を一時待ってもらう旨メッセージを送り、その後保留状態にできます。	92
20	割込み	通話中の外線、または内線に割り込み3者通話ができます。	118
21	フッキング	アナログ回線のキャッチホンサービスを受ける時、通話中に回線に対してフッキング信号を送出します。(ISDN回線では使用不可)	29
22	料金	通話料金の確認、出力ができます。	180, 185
23	アラーム	設定した時刻にアラーム音を鳴動させます。(約10秒間)	24
24	FAX1	FAXの空き/使用中/FAX受信時の状態をFAXランプで表示します。また、FAXを手動転送するときに使用します。	182
25	FAX2		
26	在籍/離席	秘書機能を利用時に使用します。	129
27	通話録音	通話録音、伝言録音等に使います。	140, 150
29	録音終了	通話録音終了時に使用します。	140
32	外線発信	[外線発信] キー押下により外線を捕捉します。	52

No.	機　能	機　能　概　要	参照頁
33	キャリア選択	契約しているNCC回線を選択する番号をダイヤルしてから電話をかける場合に使います。	70
36	内線料金	内線を指定して通話料金の確認、出力ができます。	180, 185
37	発番号非通知	発信時に電話番号を通知したくない場合、ダイヤルの前に［非通知］キーを押下することで、発番号通知を拒否します。	52
38	外線代理応答	代理応答グループ内の電話機への外線着信を応答できます。	79
39	内線代理応答	代理応答グループ内の電話機への内線着信を応答できます。	79
40	キーパッド	ボイスワープサービスで転送先の変更等を行うとき、キーパッド情報(ISDN専用の信号)を送出します。	123
41	着信履歴	着信履歴(システムで100件)検索、発信またはシステム確認ダイヤルへの登録などができます。	63
42	ボイスワープ	システムがボイスワープと不在転送、代表スライドを併用している時、ボイスワープの運用を優先させます。	123
47	停電	停電時、主装置内部実装の停電バッテリーに切り替わったとき、停電ランプが赤点滅で知らせます。	128
48	センターメール	Lモード端末収容時、メッセージの到着(マジックボックス/Lモードサービス)知ることができます。	116
49	拡張表示	ネームディスプレイ表示で、漢字表示9～10文字目を表示する機能です。(ディスプレイの3/4行目に表示)（8桁表示電話機対応）	――
50	ガイダンス切替	音声メール応答時、応答ガイダンス2種類のタイプのうちのどちらかを選択することができます。	163
51	着信拒否	個別着信中の着信拒否登録や着信拒否したい電話番号の登録に使います。	110
52	回線制限	一時的にISDN回線/[MSA］キーの使用を制限します。(アナログ回線はダイヤルインのみ対象)	191

◆その他主な機能の機能概要

機　能	機　能　概　要	参照頁
DSS	相手電話機の使用状態がわかる[DSS](内線番号)キーとして使います。	47, 126, 129
メールボックス	録音されているメッセージの有無の確認、および再生、保存、消去、または応答メッセージ録音、消去として使います。	46, 140, 144, 156 158, 165, 169
ドアホン＊	ドアホン着信応答、ドアホンモニタ、ドアホン呼出しに使います。	184
パーク保留(システム)＊	外線キーが割り付けられていない電話機、または内線通話を保留する場合に使います。(システムによる利用)	84, 142
パーク保留(グループ)＊	外線キーが割り付けられていない電話機、または内線通話を保留する場合に使います。(グループによる利用)	84, 142
オートダイヤル（ワンタッチダイヤル）	外線番号/内線番号を割り付けし、ダイヤル(ワンタッチダイヤル)で発信できます。	44, 72, 86

＊：[フレキシブル］キーの登録につきましては、販売店にご相談ください

転送に関する用語

転送には、外線に関するものと内線に関するものがあります。また転送と紛らわしい「不在設定」のようなものもありますので用語をみて理解してください。

◆外線に関するもの

・PS圏外転送　・追いかけ転送　・応答遅延転送　・外線依頼発信　・外線自動転送
・外線手動転送　・口頭転送　・ダイヤル転送　・遅延転送　・チェンジオーバー
・着信拒否転送　・転送中応答　・ファクシミリ自動転送　・ファクシミリ手動転送　・不在転送
・ボイスワープ　・離席転送　・話中転送

◆内線に関するもの

・着信拒否転送　・内線転送　・不在転送　・話中転送　・離席転送

機　能　名	機　　能　　内　　容	参照頁
PS圏外転送	外線着信時、PS（デジタルコードレス電話機）が圏外またはPSの電源が切られている場合に、登録されている電話番号へ自動的に転送することができます。	107
追いかけ転送	夜間や外出中の電話をあらかじめ登録された複数の電話番号へ順番に自動的に転送させることができます。登録はグループ毎6カ所設定できます。（グループは回線/MSA/DGL毎に作り8グループまで登録できます。）	93
応答遅延転送	一般着信、DGL/MSA着信に対して一定時間応答がない場合、他内線グループ、DGLグループ/内線、音声メール装置へ着信させることができます。秘書機能の場合は、幹部電話機の応答遅延に対して秘書電話機への転送となります。	129
外線依頼発信	外線発信できない内線（例えば倉庫や会議室）からの依頼により外線発信し、その通話を依頼元の内線に転送することができます。	120
外線自動転送	夜間や外出中の電話をあらかじめ登録された電話番号へ自動的に転送します。（通常転送）　転送先が応答しないとき、登録の順番に転送先を呼び出すことができます。（追いかけ転送）　転送の方式は、「即時転送(非鳴動)」「即時転送(鳴動)」または「遅延転送」が選択できます。「即時転送(鳴動)」の時は、転送先か事業所の早いほうが応答することができます。（転送中応答）「遅延転送」の時は、事務所の電話機を一定時間鳴動させ、応答がなければ転送先へ転送します。（遅延転送）	93
外線手動転送	外線と通話中に空いている外線を使って他の外線に転送することができます。	102
口頭転送	保留した外線/専用線/ドアホンを他の電話機の応答操作により転送することができます。	85
ダイヤル転送	通話中の回線を転送操作により、他の内線に転送することができます。	86
遅延転送	外線自動転送の転送方式で「遅延転送」を選択したとき、事務所の電話機を一定時間鳴動させ応答がなければ転送先へ転送します。	96
チェンジオーバー	転送者は、発信元（電話をかけてきた人）と、転送先の人と交互に通話することができます。チェンジオーバー中に手動転送に切り替えることもできます。	119
着信拒否転送	秘書機能の1つです。幹部電話機が着信鳴動中に、［在籍/離席］キー押下することにより、幹部電話機の鳴動は停止し秘書電話機に転送することができます。	129
転送中応答	外線自動転送の転送方式で「即時転送(鳴動)」の時は、転送先か事業所の早いほうが応答できます。	96
内線転送	通話中の内線を転送操作により、他の内線に転送することができます。	86
ファクシミリ自動転送	外線着信時、ファクシミリへ自動的に転送することができます。	178
ファクシミリ手動転送	ファクシミリからの着信を［FAX］キー押下または特番により内線毎に指定されているファクシミリ収容内線に転送することができます。	182
不在設定	内線からの電話に対して、不在メッセージを相手の電話に表示させることができます。（不在設定は、「不在」「外出」または「会議」の中から選択します。）	103
不在転送	個別着信時の転送機能です。離席時に「不在転送」を設定しておくと登録されている電話番号へ自動的に転送させることができます。転送先を「内線」「外線」または「メールボックス」に選択できます。転送先は「内線」「外線」「専用線」「発番号別」または「転送元が転送先を選択」が対象となります。	104
ボイスワープ	NTT東/西の転送電話サービスです。無条件転送/無応答時転送/話中時転送などのサービスがあります。料金は、月額800円（事務用）かかります。	121
離席転送	秘書機能の1つです。幹部が不在する時に［在籍/離席］キー押下することにより、幹部電話機への着信を自動的に秘書電話機に転送することができます。	129
話中転送	秘書機能の1つです。幹部在籍中で幹部電話機使用中の時、幹部電話機への着信を自動的に秘書電話機に転送することができます。	129

索引

――【英数字】――

DGLグループ呼出し応答 ……80
DGLグループ呼出し ……75
DGLネーム ……49
DIL/DID着信 ……81
DSSキーで電話をかける ……126
i・ナンバー ……116
IP電話対応 ……188
ISDN回線の使用制限 ……191
ISDN回線の利用 ……189
Lモード ……115
MSAキーの使用制限 ……191
PBエンド・ツー・エンド通信 ……126
PB保守 ……107,171
VoIP(FoIP)専用線収容 ……176

――【五十音】――

あ行

液晶ディスプレイの見方 ……18
追いかけ転送 ……93
応答ガイダンス（固定）……162
応答ガイダンスの切替 ……163
応答遅延転送 ……88
応答メッセージ録音……89,156
オートダイヤル ……53
オートポーズ ……127
オートリピート ……65
音の種類一覧 ……20
音声メール ……131
音声メールキー、機能の自動割付け ……135
音声メールの機能とメールボックス ……134
音声メールの用語と機能 ……133
音声メールのメッセージ状況表示 ……134
音声呼出し ……78
オンフックダイヤル ……114
音量調節 ……28

か行

会議通話 ……117
外出先からメッセージを聞き出す ……166
外線依頼発信 ……120
回線ごと着信拒否指定 ……192
外線自動転送 ……93
外線手動転送 ……102
外線別着信音選択 ……30
外線別鳴動先指定 ……30
回線捕捉時自動ＭＳＡ捕捉 ……69
外線メールサービス中伝言録音 ……168
外線割込み通話 ……118
外部保留音 ……188
各部の名称とはたらき ……16
キータッチトーン ……29
機能一覧表 ……42
キャッチホン ……124
キャリア選択発信 ……70
クイックリダイヤル ……65
グループ音声呼出し ……74
グループ呼出し応答 ……80
高音量ベル ……188
口頭転送 ……85
構内放送装置 ……182
国際発信規制 ……130
故障かな？とお考えになる前に ……198

さ行

サービスメニューのキー操作 ……32
市外発信規制 ……130
時刻アラーム設定 ……24
自己保留 ……82
システム短縮ダイヤルでかける ……54
システム短縮ダイヤル登録 ……57
（システム短縮）ネーム検索によるかけかた…56
システム短縮番号検索によるかけかた ……55
システム保留 ……82
指定外線捕捉 ……53
指定代理応答 ……79
集中着信 ……91
受話音量調節 ……28
使用中着信規制 ……130
シリーズコール ……76
スピーカ音量調節 ……28
スピーカ受話 ……114
側音量調節 ……28

た行

帯域市外発信規制 ……130
ダイヤルイン ……116
ダイヤル転送 ……86
ダイヤルメモリ ……66
代理応答 ……79
代理発信 ……67
単独電話機 ……188
地域系ＮＣＣの利用 ……192
チェンジオーバー ……119
着サブアドレスＤＩＤ ……191

着サブアドレス付加発信 ……189
着信音選択 ……26
着信音量調節 ……28
着信ウエイトメッセージ ……92
着信拒否 ……110
着信記録 ……63
着信代行 ……156,162
通話中外線着信表示 ……30
長時間通話警告 ……128
通話中着信 ……125
通話料金の管理 ……179
通話録音 ……140
ディスプレイ濃淡調節 ……29
停電 ……128
伝言録音 ……150
電話機の角度をかえる ……22
ドアホン ……184
トーン呼出 ……72
特定国際発信規制 ……130
特番一覧表 ……48

な行

内線音声呼出し ……73
内線キャンプオンビジー ……76
内線自動応答 ……77
内線代表 ……74
内線ネーム ……49
内線発呼者名表示 ……49
内線ハンズフリー応答 ……78
内線呼出 ……167
内線呼出サービス ……170
内線割込み通話 ……118
内線ワンタッチコール ……72
内線ワンタッチダイヤルキー転送 ……86
ナンバー・リクエスト ……112
ナンバーグループ ……130
ナンバーディスプレイ ……113
任意外線発信 ……52
任意外線応答 ……77,190
ネームディスプレイ ……113

は行

パーク保留 ……84
パスワード ……136
バックライト設定 ……27
発信記録 ……63
発信者番号別着信 ……130
発信テナント ……130
発信予約 ……68
秘書機能 ……129
日付・時刻をあわせる ……23
秘話解除 ……117
ファクシミリ ……178,182
付加番号ＤＩＤ ……127
不在設定 ……103
不在代行 ……156,159
不在転送 ……104
フッキング信号 ……29
プリセットダイヤル ……69
プリンタ ……185
フレキシブルキーに機能割付 ……40
フレキシブルキーにＤＳＳキー登録 ……47
フレキシブルキーに外線／内線番号登録 ……44
フレキシブルキーに短縮番号登録 ……43
フレキシブルキーにメールボックス登録 ……46
ヘッドセット ……187
ボイスワープ ……121
ホットライン ……73
保留メロディ ……25
保留 ……82

ま行

マイク音量調節 ……29
マイライン ……71
マルチステーションキー回線捕捉 ……69
メールアクセス中にできる操作と内容 ……147
メッセージ再生 ……144
メッセージ転送 ……165
メッセージ録音通知 ……152
メニュー項目 ……37
文字入力方法 ……33

や行

夜間鳴動先指定 ……88

ら行

ランプ表示 ……19
リダイヤル ……62
履歴表示 ……63
留守応答 ……89
留守録音 ……156
留守録音装置 ……188
録音転送 ……169

わ行

割引回線優先捕捉 ……70

故障かな？とお考えになる前に

こんなときは	お確かめください
すべての電話機の表示が消えている。またはランプが点灯しない。	主装置の電源プラグが電源コンセントから抜けていませんか。
電話機の表示が消えている。またはランプが点灯しない。	電話機コードのモジュラープラグが電話機から抜けていませんか。

保証とアフターサービス

◆保証について

●本システムには、保証書がついております。
保証書は、販売店よりお渡ししますので、「販売店名、お買い上げ日」など必要事項の記入をお確かめになり、保証書に記載されている保証内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

●保証期間は、お買い上げ日から1年間です。
※保証期間中でも有料になることがあります。保証書をよくお読みください。
※本システムの不具合により生じた損害の補償については、ご容赦ください。

◆修理を依頼されるときには

●本取扱説明書の「故障かな？とお考えになる前に」の項目をよくご覧になって、もう一度ご確認ください。
それでも異常が続く場合は、ご使用を直ちにおやめになり、お買い上げの販売店または当社へ次のことをご確認のうえ、ご相談ください。
・品名「REシリーズⅡ」
・故障の状況（出来るだけ詳しく）
・お客様の名前、住所、電話番号

●保証期間中の修理は…
正常な使用状態で発生した故障につきましては、保証書の記載内容に基づき無料で修理いたします。修理時に保証書をご提示ください。

●保証期間経過後の修理は…
修理によって本システムの性能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理いたします。
ただし、補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後7年です。

◆おわかりにならないことは

●本システムの取り扱いに関するご質問は、お買い上げの販売店または付属の「お問い合せ窓口のご案内」の営業所などへご相談ください。

●増設、移設については、お買い上げの販売店にご相談ください。

メモ

R-160265
04.7 (4)